

目次

0. はじめに	1
1. アンケート内容	1
2. 回答者属性	5
3. 生徒アンケート分析	6
(1) 小学校での英語教育について	6
(2) 中学校での英語教育について	16
(3) 外国や英語への興味・関心について	25
(4) 英語村について	32
4. 保護者アンケート分析	35
(1) 中学校での英語教育について	35
(2) 学校外での英語や英会話の学習について	41
(3) 英語学習について	47
(4) 英語の体験的学習の必要性について	52
(5) 英語村について	54
5. まとめ	57
6. 附表	59

0. はじめに

近年の社会情勢はあらゆる方面におけるグローバル化が進行し、国際的な流動性が高まっている状態にある。その時代においてほとんど必須のものとなりつつある英語について、教育の充実化を図るべく韓国の「英語村」を参考にした新たな取り組みが生まれている。

本調査は「英語村」構想の実施対象地域である淡路地区の中学生およびその保護者を対象に、現在の英語教育についての意見を集め、英語村構想についての意見を求めたものである。意識調査は2013年4月に実施し、新中学2年生の生徒1,258名、保護者960名からの回答を得た。その内容をここに報告する次第である。

1. アンケート内容

実施したアンケートは生徒に対して4項目、保護者に対して5項目を主軸とする。

生徒対象は①小学校での英語教育について、②中学校での英語教育について、③外国や英語への興味関心について、④英語村について。

保護者対象は①中学校での英語教育について、②学校外での英語学習について、③子どもに期待する英語力について、④体験的学習の必要性について、⑤英語村について。

それぞれの項目ごとに問いを設けて意識調査を行った。

【アンケート表紙】

淡路地域の英語教育に関する意識調査 【保護者対象】	淡路地域の英語教育に関する意識調査 【中学2年生対象】
淡路地域中学2年生の保護者のみなへ 近年、世界は社会、経済、文化のグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まっています。そのような時代においては、英語力は必須の言語スキルとなりつつあり、例えば韓国では「英語村」なるものが数多く創設され、英語教育の充実化が図られています “くにうみの郷” 淡路は、その豊かな歴史的背景と、外国人の多い神戸に隣接する地理的条件を考えると、日本人の心を持って英語を使い、国際社会で活躍する人材を育てる絶好の地と言えます。 このたび、淡路地域の教育振興に資するため、淡路地域の中学校生徒（2年生）とその保護者を対象に、「淡路地域の英語教育に関する意識調査」を行うこととなりました。 なお調査で得られました情報は、個人のプライバシーが確実に保護されるよう厳重に取り扱いますので、お忙しいところ恐縮ですが、是非とも率直な御意見をよろしくお願い致します。 京都大学 学際融合教育研究推進センター 地域生存学総合実践研究ユニット 教授 高見茂 ■ あなたの性別をお答えください。該当するものを○で囲んでください。 男 ☐ 女 ☐ ■ あなたの年齢をお答えください。該当するものを○で囲んでください。 30以下 ☐ 31～40 ☐ 41～50 ☐ 51～60 ☐ 61以上 ☐ ■ お子様の性別をお答えください。該当するものを○で囲んでください。 男 ☐ 女 ☐ ■ あなたの居住する市をお答えください。該当するものを○で囲んでください。 淡路市 ☐ 淡路市以外 ☐ 1	淡路地域 中学2年生の皆様 近年、世界は社会、経済、文化のグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まっています。そのような時代においては、英語力は必須の言語スキルとなりつつあり、例えば韓国では「英語村」なるものが数多く創設され、英語教育の充実化が図られています “くにうみの郷” 淡路は、その豊かな歴史的背景と、外国人の多い神戸に隣接する地理的条件を考えると、日本人の心を持って英語を使い、国際社会で活躍する人材を育てる絶好の地と言えます。 本意識調査は、淡路地域の未来の英語教育について皆様のお考えをお聞かせいただき、淡路地域の教育環境改善に資することを目的とするものです。是非とも皆様の率直な御意見を聞かせいただきたいと思います。 なお、本調査で得られました情報は、個人のプライバシーが確実に保護されるよう厳重に取り扱います。 京都大学 学際融合教育研究推進センター 地域生存学総合実践研究ユニット 教授 高見茂 ■ あなたの性別をお答えください。当てはまるものを○で囲んでください。 男 ☐ 女 ☐ ■ あなたの住んでいる市をお答えください。当てはまるものを○で囲んでください。 淡路市 ☐ 淡路市以外 ☐ 1

【生徒用アンケート】

1 小学校での英語教育について

以下の項目は、皆さんの小学校での英語教育を振り返ってご回答ください。

1. 小学生的な英語の授業や活動はどれくらいありましたか？

- ① 週に1回くらい ③ 月に1回くらい ⑤ わからない
② 月に2～3回くらい ④ 年に2～3回くらい

回答欄

2. 様年生（学年）のときから英語の授業や活動はありましたか？

- ① 1年生 ③ 3年生 ⑤ 5年生 ⑦ わからない
② 2年生 ④ 4年生 ⑥ 6年生

回答欄

3. 小学校での英語の授業や活動はどうでしたか？当てはまるものをすべて選んでください。

- ① 楽しかった
② 内容が簡単だった
③ 外国や英語に興味を持った
④ もっとたくさん英語の文やアルファベットを書きたかった
⑤ もっとたくさん英語を話したかった
⑥ もっと早くから学校で英語を習いたかった

2

4. 小学校ではどのような英語の授業や活動がありましたか？

あてはまるものをすべて選んでください。

- ① アルファベットを書くこと ② アルファベットを読むこと
③ 英語で簡単な会話をする ④ 英語でゲームをする
⑤ 英語の歌やダンスをする ⑥ 英語を読むこと
⑦ 英語を書くこと ⑧ 英語の練習をする
⑨ 英語の文を読むこと ⑩ 英語でのスピーチや発表をする
⑪ 英語で話を聞くこと ⑫ 文法の学習をする
⑬ その他（ ）

回答欄

5. 外国人の方と英語を用いて交流する機会がありましたか？

- ① はい ② いいえ

回答欄

➢ 「① はい」とお答えの方にお聞きします。

外国人の方と英語を用いて交流する機会はどのくらいありましたか？

- ① 週に1回くらい ③ 月に1回くらい ⑤ わからない
② 月に2～3回くらい ④ 年に2～3回くらい

回答欄

6. 中学校に入学する前に、英語に対して持っている気持ちについてお聞きします。

当てはまるものをすべて選んでください。

- ① 中学校に入学する前、英語は好きでしたか？
② 中学校に入学する前、中学校で英語を学ぶことが楽しみでしたか？
③ 中学校に入学する前の英語の勉強は、中学校で役に立っていますか？

3

2 中学校での英語教育について

以下の項目は、現在皆さんが中学校で受けている英語教育についてお聞きします。

1. 現在、英語は好きですか？ 当てはまるものをすべて選んでください。

- ① 好き ② どちらかといえば好き ③ どちらかといえば嫌い ④ 嫌い

2. 学校の英語の授業では、「先生の説明を聞いている時間」と「自分たちが英語を使って活動する時間」とどちらの方が多いと思いますか？

- ① 「先生の説明を聞いている時間」の方が多い
② どちらかと言えば「先生の説明を聞いている時間」の方が多い
③ どちらかと言えば「自分たちが活動する時間」の方が多い
④ 「自分たちが活動する時間」の方が多い

回答欄

3. どのような英語の授業を受けてみたいですか？

最も受けてみたいものを3つ選んでください。

- ① 英語が好きになる授業 ② 入試に役立つ授業
③ 高校やそれ以降の英語学習に役立つ授業 ④ 英語や文化に対する理解が深まる授業
⑤ 英会話が身につく授業 ⑥ その他（具体的に）

1番 2番 3番

4. ALT（英語指導の手伝いをする外国人教員）の先生が行う授業はどの程度ありましたか？

- ① 週に1回くらい ③ 月に1回くらい ⑤ わからない
② 月に2～3回くらい ④ 年に2～3回くらい

回答欄

5. ALTの先生以外の外国人と英語を用いて交流する機会がありますか？

- ① はい ② いいえ

回答欄

4

➢ 「① はい」とお答えの方にお聞きします。どのような交流がありましたか？

➢ 「① はい」とお答えの方にお聞きします。英語を用いた交流の機会はどの程度ありますか。当てはまるものをすべて選んでください。

- ① 頻りに ② 時々 ③ ほとんどない ④ ない

回答欄

6. 英語のコミュニケーションを行う機会は増やした方がよいと思いますか？

- ① 増やしてほしい ② 特に必要ない ③ このままでいい

回答欄

3 外国や英語への興味・関心について

1. 外国や英語への興味・関心についてお聞きします。

次のことについてどう思いますか？ 当てはまるものをすべて選んでください。

- ① 外国に行きたい
② 外国の人と話を聞いたら面白い
③ 英語を使って外国の人と話してみたい
④ 外国の人と友達になりたい
⑤ 自分の家に外国の人のホームステイを受け入れたい
⑥ 外国の文化（生活や食べ物など）に興味がある
⑦ 外国の有名なスポーツ選手に興味がある

5

2. 将来のことについてお聞かせします。
次の①～⑤についてどう思いますか？ 当てはまるものを○で囲んでください。

① 自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている

② 英語が話せなくても困ることはない

③ 将来、外国に留学したい

④ 将来、英語を使う仕事をしたい

⑤ 英語ができると、将来良い仕事につける

⑥ 英語を聞いて話したり出来るようになりたい

3. あなたは将来、どのくらいの英語力を身につけたいですか？
次の①～⑤の中から1つお選びください。

① 英語で仕事ができるくらいの英語力

② 英語で良い成績がとれるくらいの英語力

③ 日常会話で困らないくらいの英語力

④ 海外旅行で困らないくらいの英語力

⑤ 英語を学ぶ必要性を感じない

⑥ その他

4 英語村について

現在皆さんの住む英語島内に「英語英語村」を作る、という考えがあります。そこでは24時間ずべて英語のみでの生活をします。村民は英語を話す外国人ばかりで、教室での授業だけでなく、新生活、買い物、イベント等を体験しながら、英語を学ぶことができます。

1. この考えについてどう思いますか？ 当てはまるものを○で囲んでください。

2. 英語村ではどんなことを体験したいですか？（複数回答可）

① ゲーム

② 買い物

③ 外国人と遊ぶ

④ 外国人と音楽を楽しむ

⑤ 外国人と日本のことに ついて話をする

⑥ 料理

⑦ キャンプ

⑧ その他

3. 滞在期間の白数はどのくらいが適当だと思いますか？
次の①～⑤の中から1つお選びください。

① 1泊2日

② 2泊3日

③ 3泊4日

④ 4泊5日

⑤ 1週間泊

⑥ 2週間泊

⑦ 1ヶ月泊

⑧ その他

調査に協力ありがとうございました。

【保護者用アンケート】

1 中学校での英語教育について

以下の項目は、現在お子様が中学校で受けられている英語教育についてお尋ねいたします。

1. 中学校での英語学習に関する以下の項目について該当するものを○で囲んでください。

① 中学校での英語教育にどの程度関心がありますか。

② お子様は学校でどのような内容の英語教育を受けているかご存知ですか。

③ 学校での英語の学習について、お子様とご家庭で話をすることがありますか。

④ お子様は学校で習った英単語や文法を家庭で使っていることがありますか。

⑤ お子様の学校で行われている英語教育について満足していますか。

2. 学校に対してどのような英語の授業を望まれますか？
特に望まれるものから順に3つお選びください。

① 英語が好きな授業

② 入試に役立つ授業

③ 高校やそれ以降の英語学習に役立つ授業

④ 言語や文化に対する理解が深まる授業

⑤ 精神的なコミュニケーション能力が身につく授業

⑥ その他（具体的に）

3. 学校で、お子様にどのような英語力を身につけてほしいですか？
特に望まれるものから順に3つお選びください。

① ライティング（書く力）

② リーディング（読む力）

③ リスニング（聞く力）

④ スピーキング（話す力）

⑤ コミュニケーション（会話）

4 目的について

① 中学校、高校の英語でいい成績をとる

② 入試で有利になる

③ 将来、国際社会で活躍できる

④ 就職で有利（英語検定などで高得点をとる等）

⑤ 外国人と日常会話ができる

⑥ その他（外国の文化などを学び、文化や知識を得るなど）

2 学校外での英語や英会話の学習について

現在お子様は、学校外で英語や英会話の学習を行っていますか？

① はい

② いいえ

➤ ②で「はい」とお答えの方にお尋ね致します。
どのような教室や教材で英語の学習を行っていますか？（複数回答可）

① 英会話教室

② 学習塾

③ 通信教育の教材

④ 市販の教材

⑤ インターネット配信される教材

⑥ 家庭教師

⑦ その他

➤ ②で「はい」とお答えの方にお尋ね致します。
それはどのような種類の学習ですか？（複数回答可）

① ライティング

② リーディング

③ リスニング

④ スピーキング

⑤ コミュニケーション

⑥ その他

➤ ②で「はい」とお答えの方にお尋ね致します。

お子様に学校外で英語の学習をさせている理由は何ですか？

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ① 英語が好きになってほしいから | ⑦ 子ども自身がやりたいから |
| ② 中学校での英語学習に役立つから | ⑧ 周りの友達ややっているから |
| ③ 高校受験に役立つから | ⑨ 自分が英語で苦労したから |
| ④ 英語を話せるようになってほしいから | ⑩ 学校だけでは不安だから |
| ⑤ 外国に対する興味を持ってほしいから | ⑪ その他 () |
| ⑥ 将来の仕事に役立つ英語力を身につけてほしいから | |

回答欄

➤ ②で「いいえ」とお答えの方にお尋ね致します。

お子様に学校外でどのような種類の英語学習をさせたいですか？

- | | |
|----------|-------------|
| ① ライティング | ④ スピーキング |
| ② リーディング | ⑤ コミュニケーション |
| ③ リスニング | ⑥ その他 () |

回答欄

3 英語学習について

1. 将来、お子様に英語がどの程度話せるようになってもらいたいですか？

以下のうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|------------------|----------------|
| ① 英語で仕事ができるくらい | ④ 海外旅行で困らないくらい |
| ② 英語で良い成績がとれるくらい | ⑤ 話せなくても構わない |
| ③ 日常会話で困らないくらい | ⑥ その他 () |

回答欄

2. 英語が話せるようになるには、どうしたらよいと思いますか？

以下のうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 単語をたくさん覚えるようにする | ⑤ 間違っても気にせず英語で話をする |
| ② 日常使う表現をたくさん覚える | ⑥ 外国へ留学する |
| ③ 文法を勉強する | ⑦ わからない |
| ④ 英語で話をする機会を多く持つ | |

回答欄

4

3. お子様に関する特定資格を取得させることに関心がありますか？（複数回答可）

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| ① 英語検定を取得させたい | ⑧ 希望者の英語能力検定）を取得させたい |
| ② TOEIC（英語によるコミュニケーション能力検定）を取得させたい | ⑨ その他資格 () |
| ③ TOEFL（英語圏の大学への留学・研究 | ⑩ 関心がない |

回答欄

4 英語の体験的学習の必要性について

学校で学んだ英語を用いて実際に交流する機会についてお尋ね致します。

1. 学んだ英語を用いて実際に交流する機会を持つことは必要だと思いますか？

必要に思えます 必要です どちらでも良い 必要に思いません 全く必要ありません

2. 現在、学校においてそのような機会は十分に保証されていると思われますか？

十分に保証されている ほぼ保証されている どちらでも良い 保証が不十分である 全く保証されていない

5 英語村について

現在「英語英語村構想」という考えがあります。「英語英語村」では24時間すべて英語のみでの生活をします。村民は英語を話す外国人ばかりであり、海外へのホームステイに代わるものとして立ち上げるものです。4泊5日程から1カ月くらいまで、教室の授業だけでなく、習字、買い物、イベントなどを体験しながら、英語をじっくり学ぶことができます。

1. この考えについてどう思いますか？

非常に興味がある かなり興味がある どちらでも良い あまり興味がない 全く興味がない

2. 英語村ではどんなことを体験したいですか？（複数回答可）

- | | | |
|--------------|-------------------|-------|
| ① ゲーム | ⑤ 外国人と日本のことについて話す | ⑧ その他 |
| ② 買い物 | ⑥ 料理 | |
| ③ 外国人と遊ぶ | ⑦ キャンプ | |
| ④ 外国人と音楽を楽しむ | | |

回答欄

5

3. 滞在期間の人数はどのくらいが適当だと思いますか？

次の1～5の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------|--------|---------|
| ① 1泊2日 | ④ 4泊5日 | ⑦ 1ヶ月以上 |
| ② 2泊3日 | ⑤ 1週間 | ⑧ その他 |
| ③ 3泊4日 | ⑥ 2週間 | ⑨ () |

回答欄

調査は以上です。謝辞があります。ご協力ください。

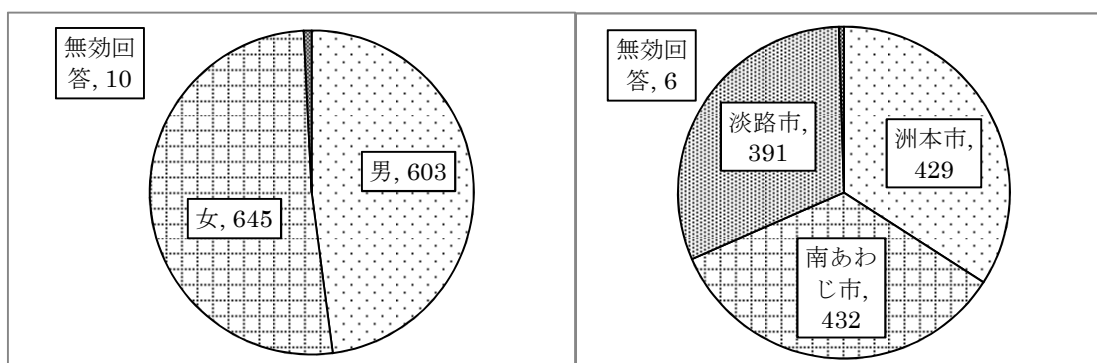
6

2. 回答者属性

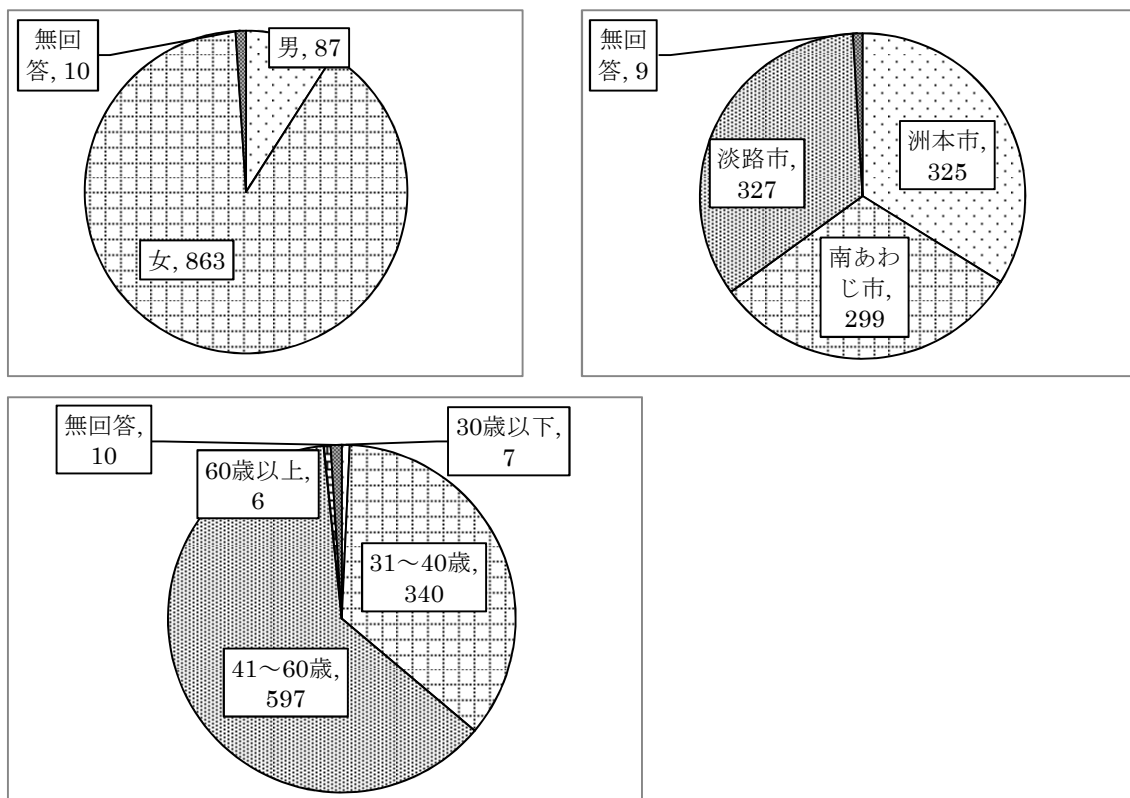
意識調査は2013年4月に、淡路地区の中学校15校及び塾3校の協力を得て実施した。得られた回答数は新中学2年生の生徒1,258名分、保護者960名分である。

回答者の属性について、性別は生徒でほぼ男女半々、保護者は女性保護者が圧倒的多数である。生徒については中学生らしく「おかま」や「中性」といった書き込みがあり、無回答のものと合わせて「無効回答」として処理している。居住地域は洲本市・南あわじ市・淡路市の3市とも同程度の人数からの回答が得られた。なお、保護者には年齢についても確認をしている。(グラフ1、2)

【グラフ1：生徒回答者属性…性別・居住区】



【グラフ2：保護者回答者属性…性別・居住区・年齢】



3. 生徒アンケート分析

生徒用アンケートの質問項目は大きく4つである。ここでは4つの大問それぞれに節を設け、小問ごとの全体結果と地域差を主に考察する。

(1) 小学校での英語教育について

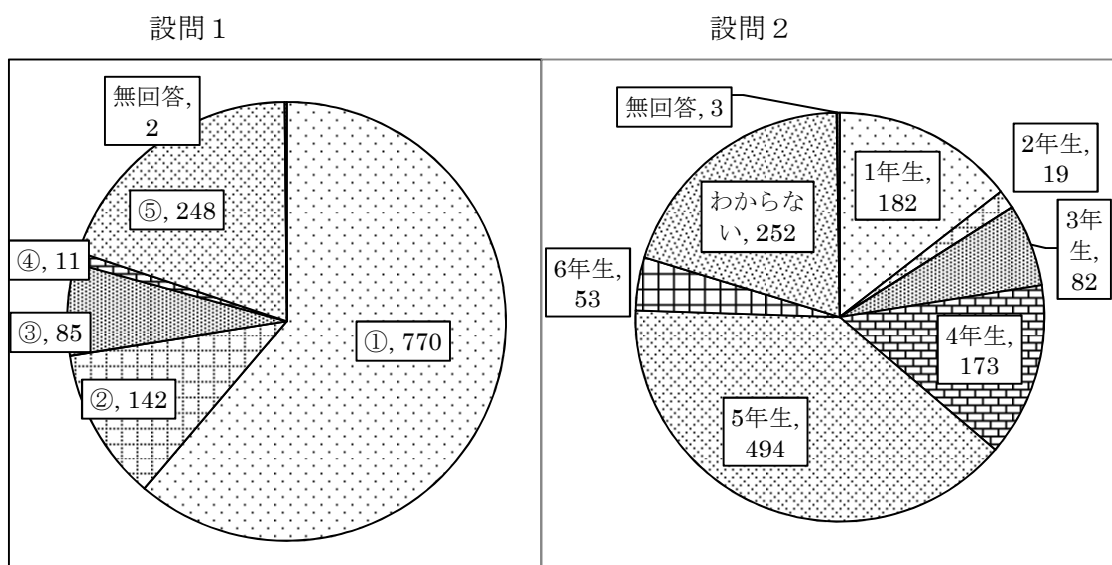
(ア) 小学校の英語教育システム（設問1・設問2）

設問1) 小学校のとき英語の授業や活動はどれくらいありましたか？	
① 週に1回くらい	④ 年に2～3回くらい
② 月に2～3回くらい	⑤ わからない
③ 月に1回くらい	
設問2) 何年生のときから英語の授業や活動はありましたか？	
① 1年生	③ 3年生
② 2年生	④ 4年生
⑤ 5年生	⑥ 6年生
⑦ わからない	

まず上記の、小学校における英語教育カリキュラムの概形に関する小問2つについて整理する。実施頻度と開始時期を確認することで、英語教育への取り組みがどのような傾向のもとになされているかを考察する。

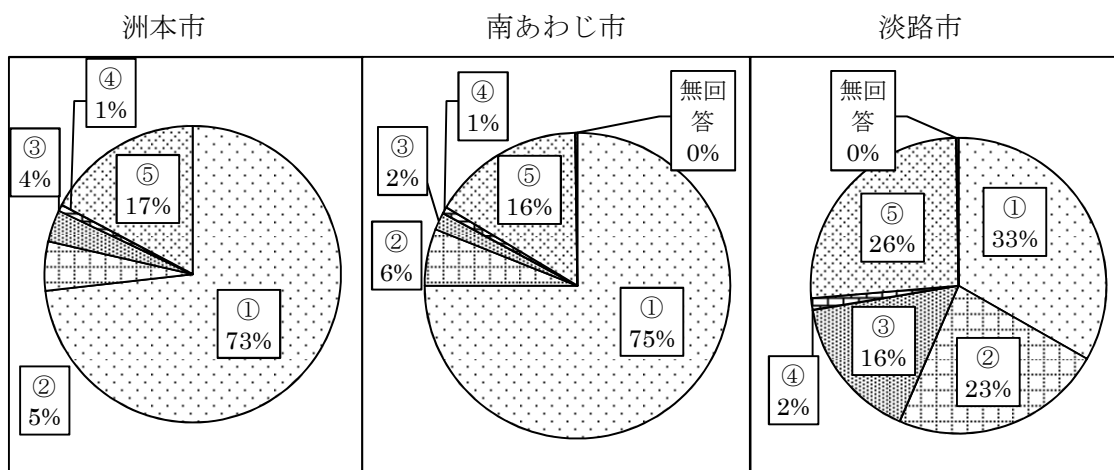
小学校時代のことで記憶が定かでない可能性もあり、選択肢の最後に「わからない」という項目を設けている。これは功を奏して、いずれの設問でも全体で2割の生徒が選択する結果となった。一応の全体平均としては、小学校での英語活動の頻度は週1回～月1回程度。授業が始まったタイミングは小学校の4年もしくは5年次の開始が多いという結果になった。(グラフ3)

【グラフ3：1設問1、設問2の全体回答状況】

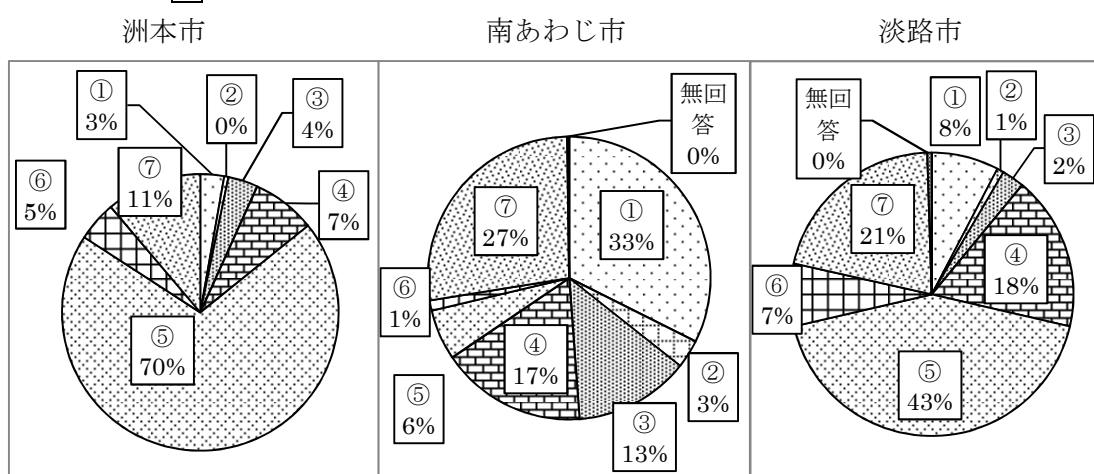


ただし全体傾向は地域の偏りが均された結果であり、居住地域別にみると各地域の特徴が明確に表れている。なお、比較を簡単にするために各項目の表示をパーセンテージとしている（グラフ4、5）

【グラフ4：①設問1 地域別回答状況】



【グラフ5：①設問2 地域別回答状況】



総じて、洲本市は小学校時代の英語教育が3市の中でもっとも均質である。英語カリキュラムの開始時期は5年次、授業頻度は週1回が7割を占めている。5年次の開始が多いことと、「⑦わからない」を選択する回答が他2つの地域の半分であることは記憶の新しさと連動していると考えて差し支えないだろう。洲本市グループの回答には無回答や「③か④」というようなあいまい回答がなく、回答者は比較的記憶に確信を持って答えていることが分かる。

逆に英語カリキュラムの開始が1年次であるとする回答が最も多かった南あわじ市では、逆に設問2「⑦わからない」の選択者が3割近くになる。設問1「⑤わからない」の選択

が洲本市と同程度であることは不思議な結果だが、1年次に開始されたカリキュラムが途中で終了しているとは考えにくく、記憶に新しい5年次ないし6年次のことを思い出して回答したのであろう。4年次までに英語カリキュラムが始まっていたとする回答が7割を数え、地域の特徴として早くから英語教育に取り組んでいることがうかがえる。

淡路市はバリエーションに富んでおり、設問1については「④年に2～3回くらい」こそ少ないものの、他の週1回～月1回の選択率には極端な差がなく、大きな特徴となっている。「⑤わからない」とする回答も他の2市に対してははっきりと率が高く、記憶をたどる上でいくつかのパターンがあって混乱していたのではないかと考えられる。ただし開始時期は、4年次もしくは5年次とする回答が6割に上っており、内訳こそ異なるが小学校の後半で英語カリキュラムの導入を始めるという傾向が洲本市と共通している。

(イ)英語教育に対する感想と活動内容（設問3・設問4）

設問3)小学校での英語の授業や活動はどうでしたか？当てはまるものを○で囲んでください。

- ①楽しかった
- ②内容が簡単だった
- ③外国や英語に興味を持った
- ④もっとたくさん英語の文やアルファベットを書きたかった
- ⑤もっとたくさん英語を話したかった
- ⑥もっと早くから学校で英語を習いたかった

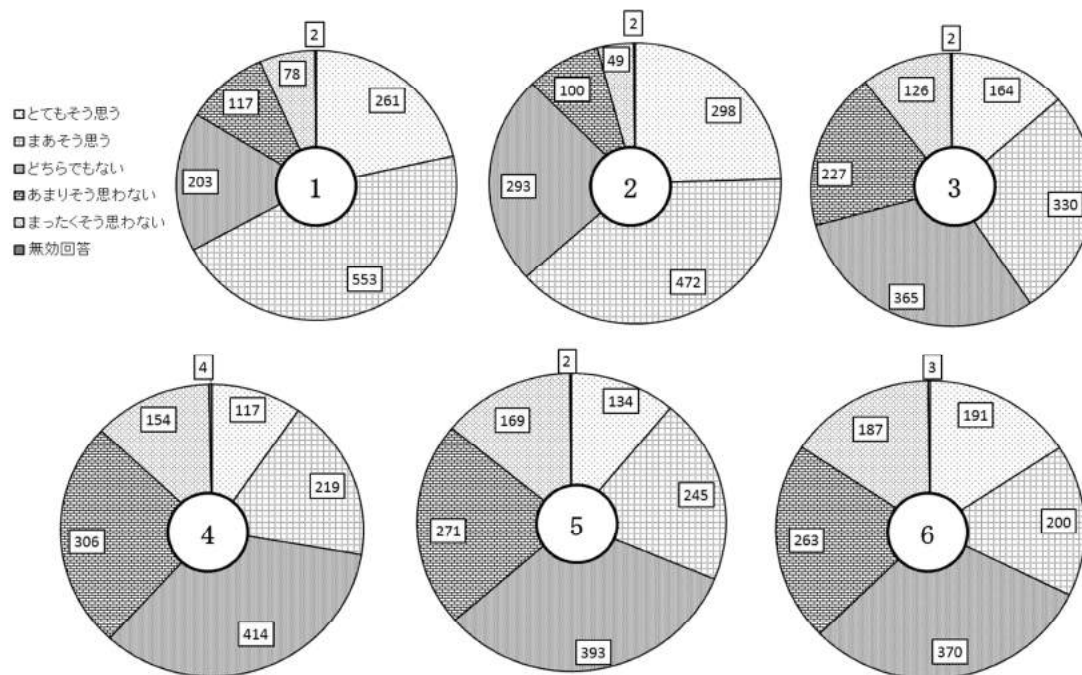
選択肢：とてもそう思う・まあそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・まったくそう思わない

小学校での英語カリキュラムは、おそらくその生涯における英語教育の始点である。したがってこの時期の英語教育に対する感想は後々への影響が非常に大きいと考えられ、設問の3番目として上述の6項目について意見を収集した。

その結果「①楽しかった」「②簡単だった」はいずれも6割以上の肯定的感想を得ることになった。しかし簡単な内容を楽しく学べたという感想にも関わらず、③の興味や、④～⑥の意欲については大きな効果はなく、カリキュラムに取り組むうえである程度楽しむものの、それ以上の積極性はあまりもたないという傾向が見て取れた。（グラフ6）

なお、地域別の集計結果で上記の傾向を大きく逸脱する項目は見られなかった。ただし全項目について、南あわじ市地域では肯定的評価（とてもそう思う・まあそう思う）の選択率が他の2市よりも低い。多くの生徒が早くから英語カリキュラムに接している地域なので④⑤⑥の「もっと～したかった」という項目に意欲的な回答が少ないのは当然としても、楽しさや興味の項目で肯定的選択が少ないことは興味深い結果である。（グラフ7）

【グラフ 6： 1 設問 3 全体集計】

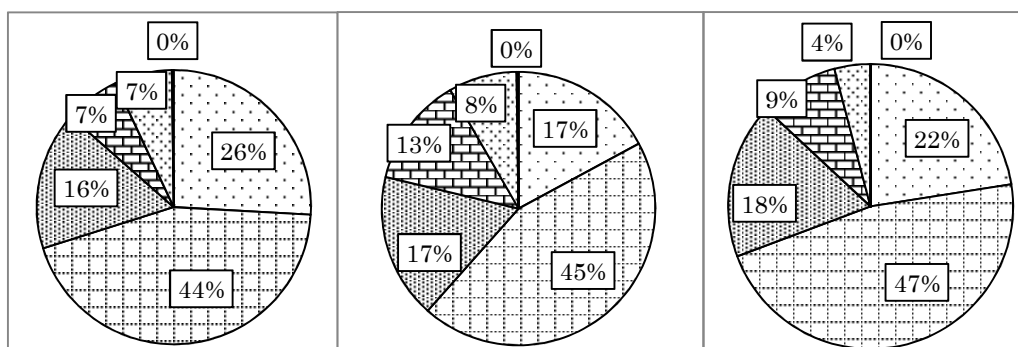


【グラフ 7： 1 設問 3 地域別回答状況】※凡例はグラフ 6 に同じ

① 洲本市

南あわじ市

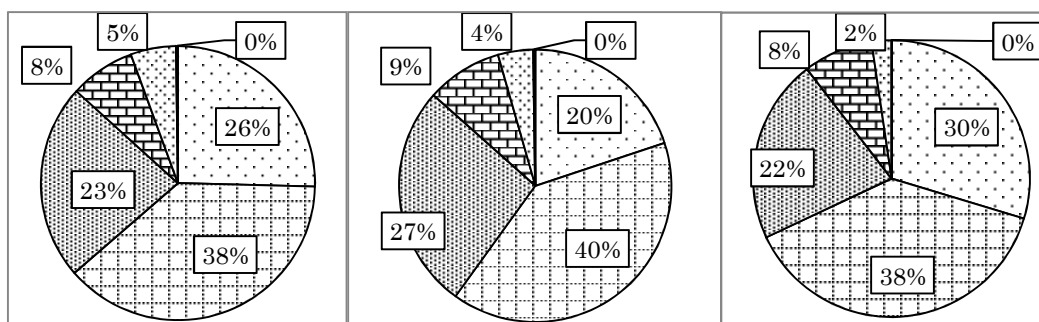
淡路市



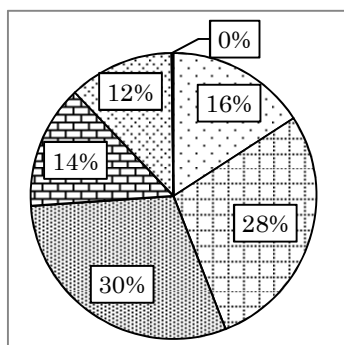
② 洲本市

南あわじ市

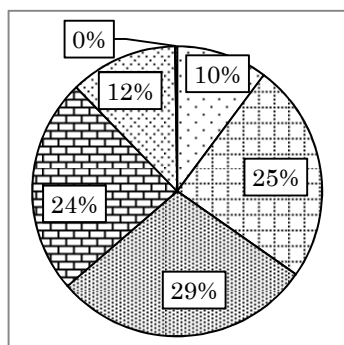
淡路市



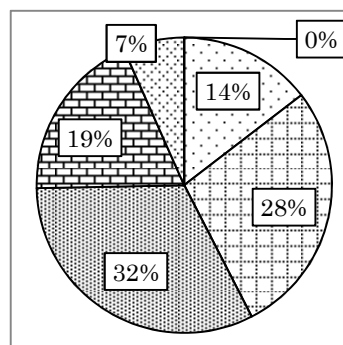
③ 洲本市



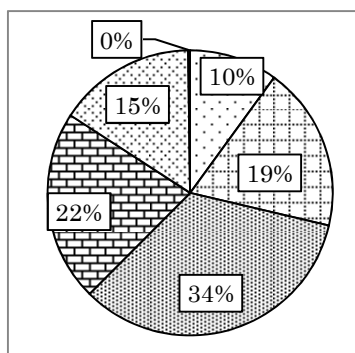
南あわじ市



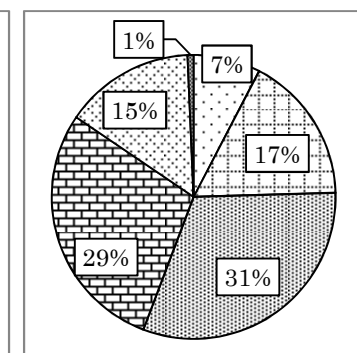
淡路市



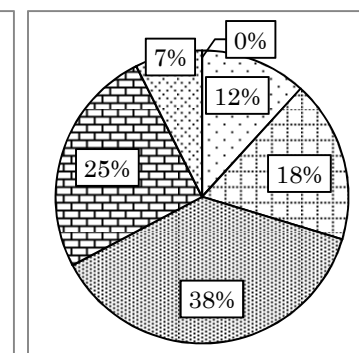
④ 洲本市



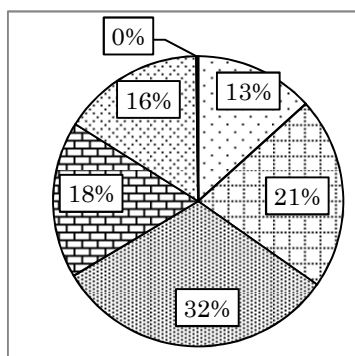
南あわじ市



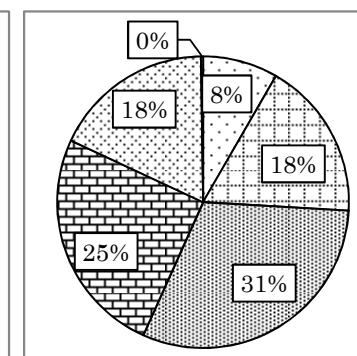
淡路市



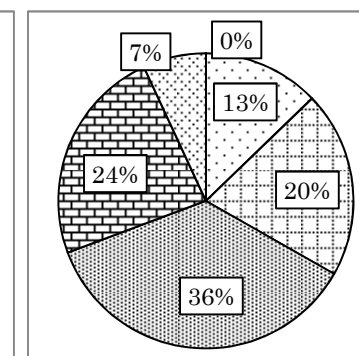
⑤ 洲本市



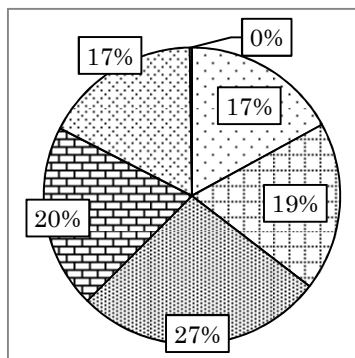
南あわじ市



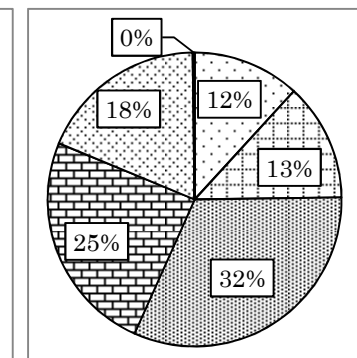
淡路市



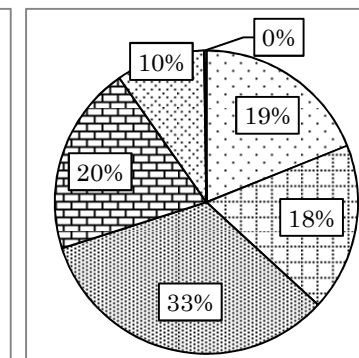
⑥ 洲本市



南あわじ市



淡路市



それでは設問3で得られたような感想を抱かせる、具体的なカリキュラムの内容はどのようなものなのか。設問4で複数回答として調査した。

設問4)小学校ではどのような英語の授業や活動がありましたか？あてはまるものの全てを選んでください。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| ①アルファベットを書くこと | ⑧発音の練習をすること |
| ②アルファベットを読むこと | ⑨英語の文を読むこと |
| ③英語での簡単な会話をする | ⑩英語でのスピーチや発表をする |
| ④英語でゲームをすること | ⑪英語で話を聞くこと |
| ⑤英語の歌やダンスをすること | ⑫文法の学習をすること |
| ⑥英単語を読むこと | ⑬その他（ ） |
| ⑦英単語を書くこと | |

この設問で得られた回答数は次の通りである。(グラフ8) 全体集計で得られた結果と、地域別の集計結果では傾向にほとんど差がないのが特徴である。

もっとも選択率が高かったのは「④英語でゲームをすること」であり、全ての地域で最も選択率が高く、全体で9割以上の生徒が選択している。「ゲーム」としてのプログラムを組む場合、往々にして「楽しく学ぶ」ことが意図されており、設問3で「楽しかった」と思う生徒が相当数いたことを鑑みると功を奏していたと考えて良いだろう。

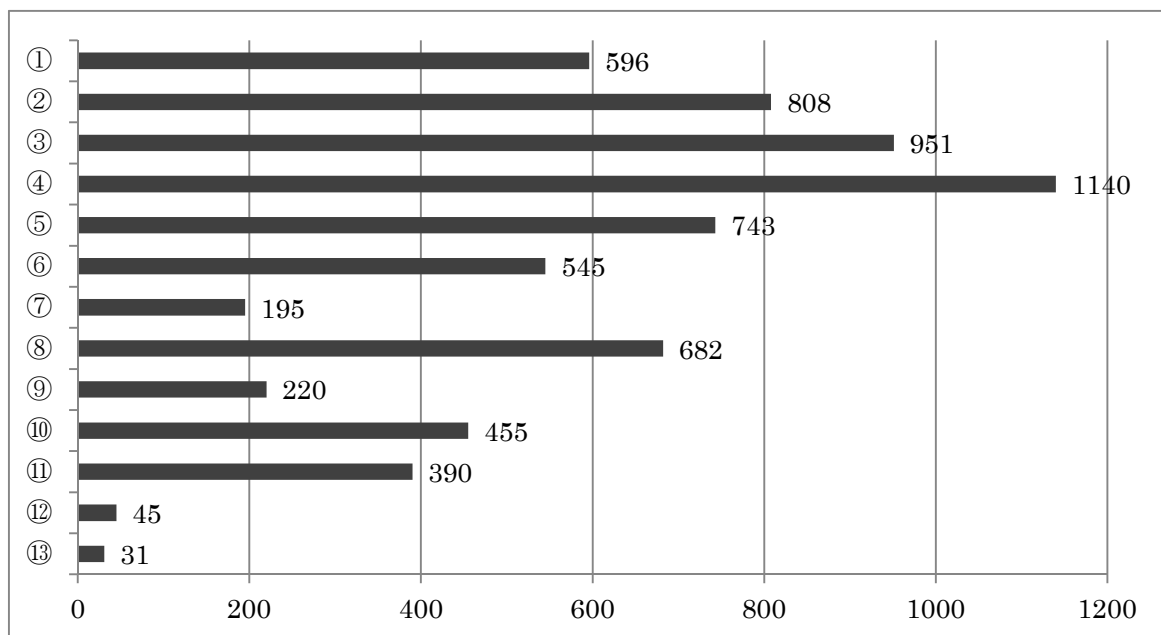
他に楽しませる意図が含まれる項目は「⑤歌やダンス」があり、これは南あわじ市区で積極採用されているようである。また、「⑬その他」の記述内容に英語劇への言及が2件あり、しばしば英語に親しむ取り組みとして体を動かすやり方がとられていたことが分かる。

大きく体を動かすわけではないが、基礎的な取り組みとしてアルファベットの読み書き(①、②)や簡単な会話(③)を記憶している生徒も多い。実際の発音練習も重点的に行われているようで、「①アルファベットを書くこと」よりも「⑧発音の練習をすること」の方が多く選択されている。ただし淡路市では僅差で逆転しており、全体の割合を鑑みても発音練習の数が少なかったと思われる。同様に「⑨英語の文を読むこと」も淡路市では選択率が低い。

他に、選択率が低いことから「書くこと(①、⑦)」は若干敬遠されていた可能性があり、「⑫文法の学習」にいたっては母数に対してきわめて少数の生徒しか取り組んでいないと考えられる。ところが他方で「⑬外国と文通をした」「⑬外国の人との手紙交換」という記述も見られ、場合によっては作文レベルの活動まであったことが分かり、小学校での英語活動のレベルが様々に違っていたことが読み取れる。

なお、⑬の記述内容は「なし」「すべて」といった選択肢以外の具体的内容を示さないものが10件、その他具体的内容を記したものが7件である。一部上述したが、英語劇が2件(「英語で、げき」「英語劇」)、文通が2件(「外国と文通をした。」「外国の人との手紙交換」)、他に「ふざけて遊ぶ」「テレビを通して話をした」「交流」という記述があった。

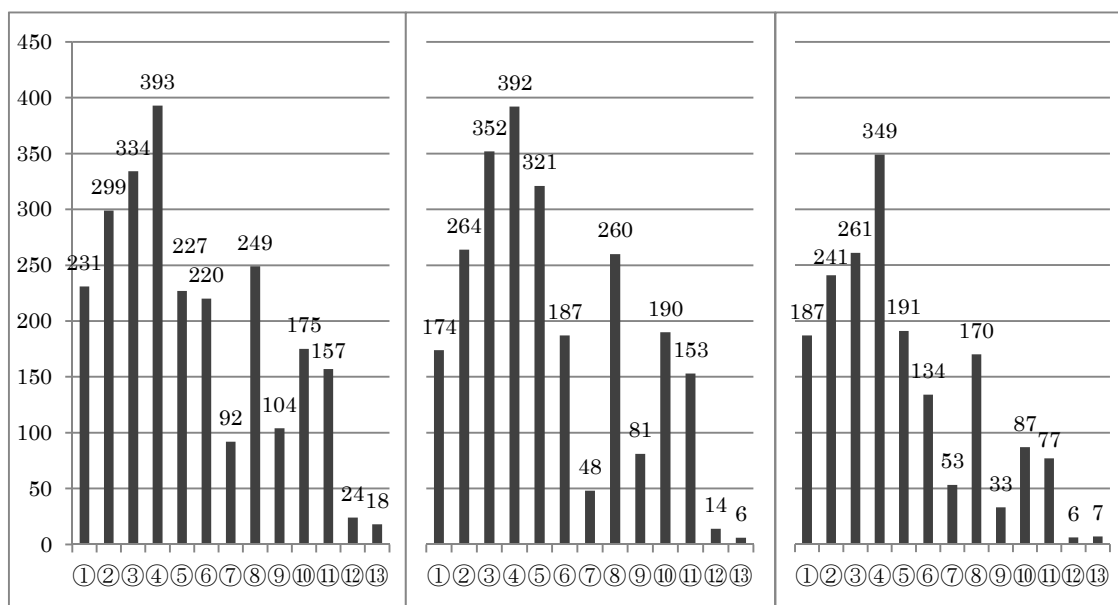
【グラフ 8：1 設問 4 全体回答数（上段）及び地域別回答数（下段）】



洲本市

南あわじ市

淡路市



(ウ)実際に英語が必要となった機会について（設問5）

設問5)外国人の方と英語を用いて交流する機会がありましたか？

①はい ②いいえ

→「①はい」とお答えの方にお聞きします。外国人の方と英語を用いて交流する機会はどのくらいありましたか？

①週に1回くらい ③月に1回くらい ⑤わからない

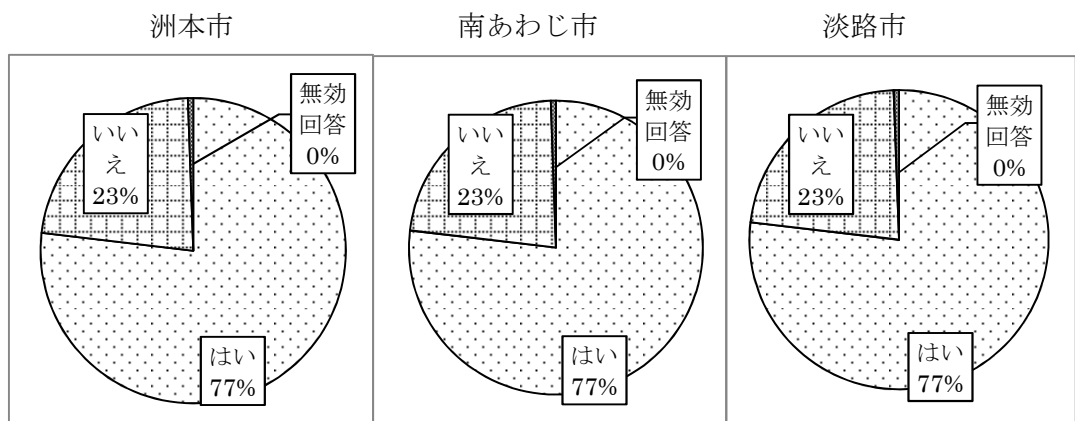
②月に2～3回くらい ④年に2～3回くらい

小学校時代から英語の授業や活動に触れている生徒たちが、実際に英語を使うどういった機会を持っているのかを探る。

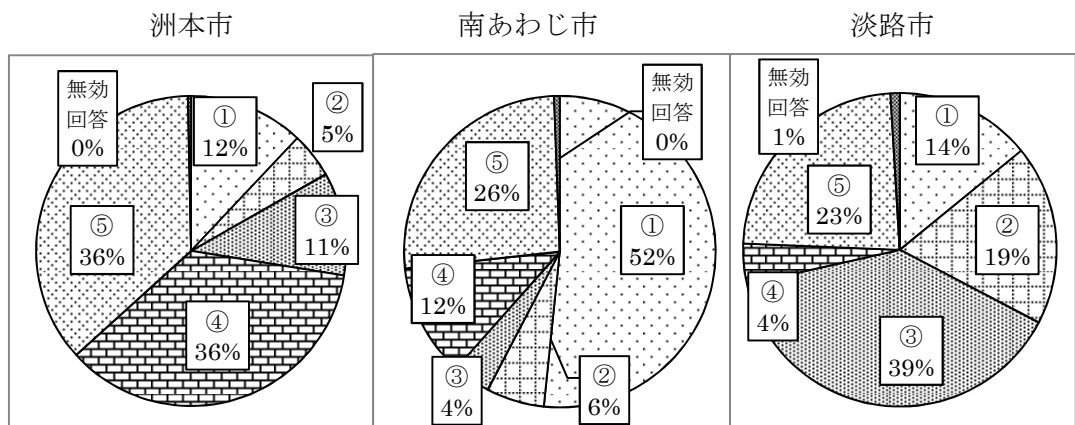
交流の機会の有無については、全体の結果として「①はい」が967回答、「②いいえ」が284回答、選択なしが7回答であった。この割合に於ける地域ごとの差異はほぼ皆無である。しかし「①はい」を選択した後の、交流機会についての回答は大きくばらつく結果となった（グラフ9-1,9-2）

交流の内容については2設問5の記述が非常に参考になるので、そちらに考察を譲る。

【グラフ9-1：1設問5 地域別回答数】



【グラフ9-2：1設問5 ①選択者の交流頻度 地域別回答数】



(エ)中学校入学前の英語に対する印象（設問 6）

設問 6)中学校に入学する前に、英語に対して持っていた気持ちについてお聞きします。当てはまるものを○で囲んでください。

①中学校に入学する前、英語は好きでしたか？

好き・どちらかといえば好き・どちらでもない・どちらかといえば嫌い・嫌い

②中学校に入学する前、中学校で英語を学ぶことが楽しみでしたか？

とても楽しみだった・まあ楽しみだった・どちらでもない

あまり楽しみではなかった・まったく楽しみではなかった

③中学校に入学する前の英語の勉強は、中学校で役に立っていますか？

とても役立っている・まあ役立っている・どちらでもない

あまり役立っていない・まったく役立っていない

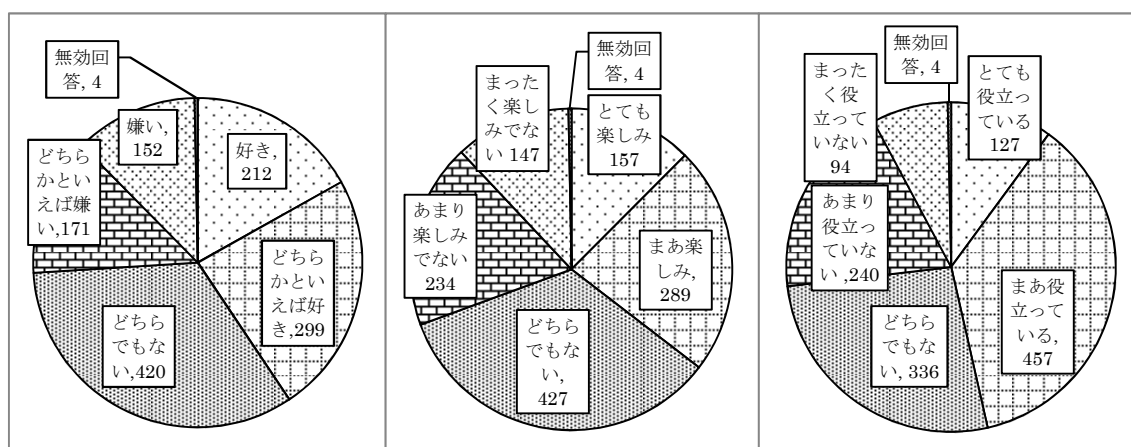
項目の最後の質問として、中学入学前の英語への印象を確認する。好き・嫌い、英語への期待、実際に中学入学してからの実用性の 3 項目について調査し、小学校での英語教育に対する総括とする。

【グラフ 10：①設問 6 全体集計結果】

① 好き・嫌い

② 楽しみだったか

③ 役立っているか



全体の集計結果は上記の通りである。地域ごとの傾向は、南あわじ市で全項目の積極的評価がやや低い結果になっているが、おおむねこのままといって良い。(グラフ 11) 総括にあたっては設問 3 の小学校での活動に対する感想との比較を考察のベースとする。

まず①、②の心情的な部分について、設問 3 ①で活動が楽しかったと答える生徒は 6 割に達していたが、ここで英語が好きだったという生徒や、中学で英語を学ぶのを楽しみにしていたという生徒は 4 割程度である。これは設問 3 ③で外国や英語に興味を持ったとする回答率に近い。マイナス評価の方も同様で、楽しくなかったと回答した生徒は 1 割程度だったが、「嫌い・どちらかといえば嫌い」を選択した生徒は 3 割に近く、これは設問 3 ③

で興味を持てなかったとする割合の方に近い数字になっている。

いずれにしても、心情的な評価については、活動そのものへの感想よりも負の方向に振れる傾向があることになる。英語学習自体は継続的なものなので、楽しかった印象があっても日常行動として続くストレスから全体評価としてはマイナス寄りになるということだろう。積極的に興味を持てる場合はそのストレスが大幅に軽減されるので、興味に対する感想とおおむね連動する結果になったと考えられる。

また、設問4で活動内容が非常に多岐にわたっていたことを確認したが、それが中学校での学習に役立っていると感じる生徒は全体の半分弱という結果になった。積極的に役立っていないと回答する生徒が3割程度あり、これらの生徒は中学英語に対して小学校での学習との繋がりを見つけれられていないということになる。

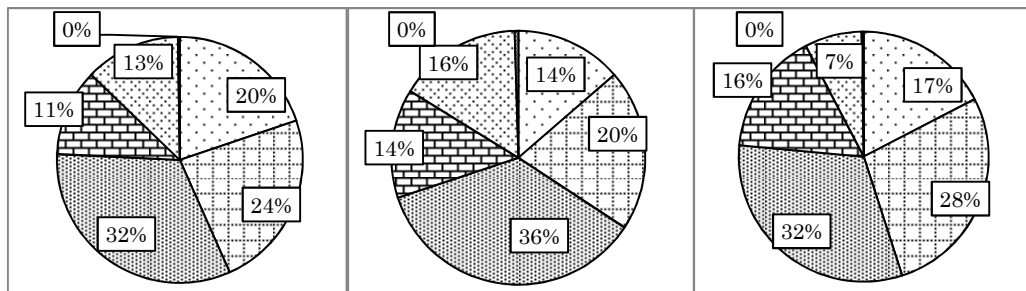
【グラフ 11：1 設問 6 地域別集計結果】※凡例はグラフ 10 に同じ

洲本市

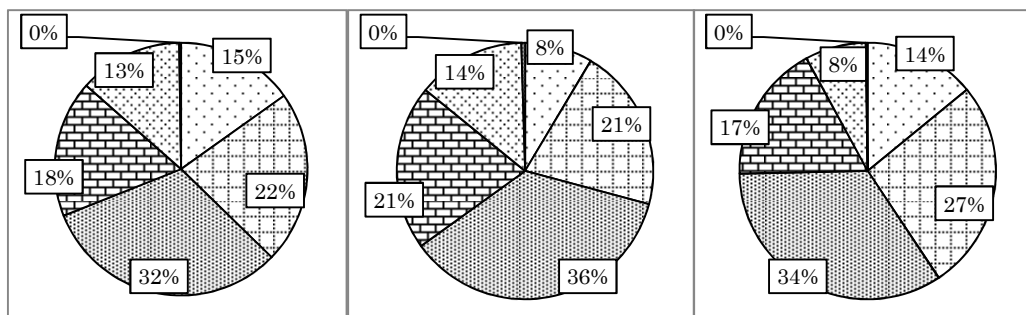
南あわじ市

淡路市

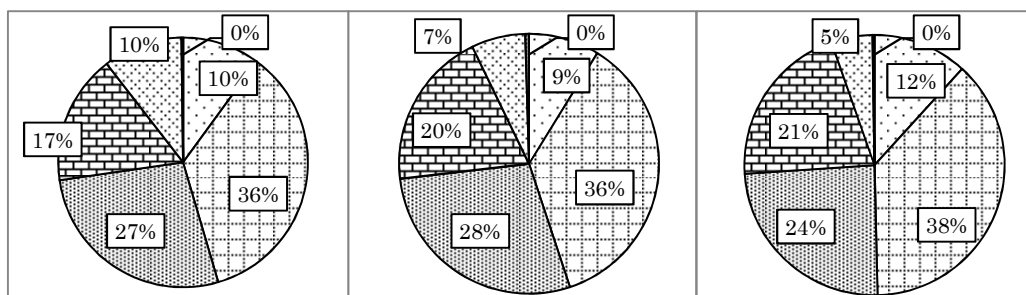
① 中学校に入学する前、英語は好きでしたか？



② 中学校に入学する前、中学校で英語を学ぶことが楽しみでしたか？



③ 中学校に入学する前の英語の勉強は、中学校で役に立っていますか？



(2) 中学校での英語教育について

(ア)中学校での英語教育に対する印象（設問 1）

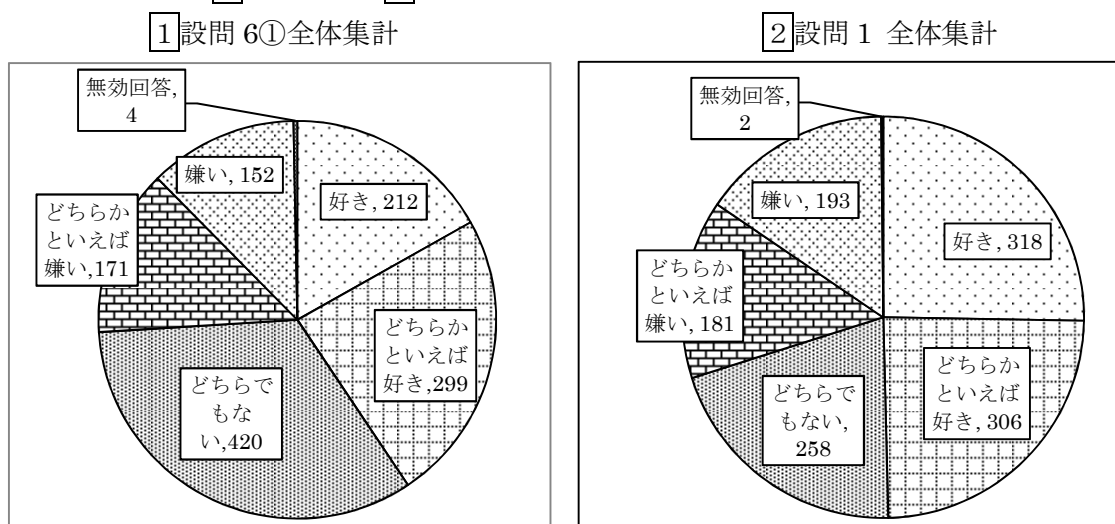
設問 1)現在、英語は好きですか？当てはまるものを○で囲んでください。

好き・どちらかといえば好き・どちらでもない・どちらかといえば嫌い・嫌い

小学校時代の総括では英語を好きと答える生徒は 4 割、嫌いと答える生徒が 2 割程度で、南あわじ市が他の 2 市に比べるとマイナス評価であった（グラフ 11-①）。この結果と、この設問 1 の結果を比較することで、中学校に入ってから英語に対する意識の変化がうかがえる。

まず全体として「③どちらでもない」の選択率が下がり、好き嫌いがはっきりしてきているのが大きな変化として上げられる。中学校に入学して英語の授業が恒常的に行われるようになった結果であり、「(どちらかといえば)好き」の増加は 113 件（約 9%）、「(どちらかといえば)嫌い」の増加は 51 件（約 4%）である。（グラフ 12-1）

【グラフ 12-1：②設問 1 及び①設問 6①の結果比較（全体集計）】



これを更に地域別でみると、「(どちらかといえば)好き」の増加は洲本市で 8%（36 件）、南あわじ市で 10%（42 件）、淡路市で 8%（33 件）。「(どちらかといえば)嫌い」の増加は洲本市 3%（27 件）、南あわじ市 5%（23 件）、淡路市 0%（-1 件）となった。

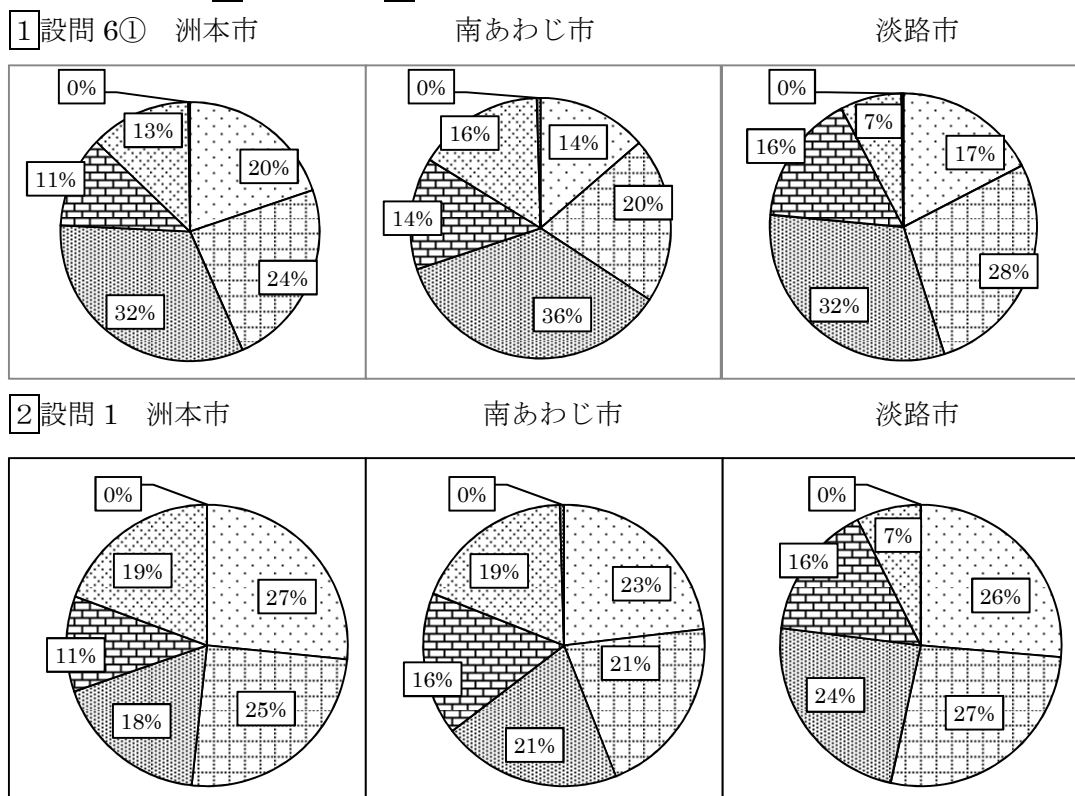
淡路市で「(どちらかといえば)嫌い」の絶対数が 1 件だけとはいえ減少しているという結果は、見事と言う他ない。この地域の、小学校における英語教育の特色は実施頻度が高くないことである（グラフ 4）。小学校時代に英語に対する印象が固まり切らない生徒が多ければこそ、逆転も可能だったのだと考えられる。

洲本市は「5 年生から」「週に 1 回」英語教育を行うケースが多く、南あわじ市も実施頻度はやはり「週に 1 回」が 7 割を占める。（グラフ 4,5）両市の差異は英語教育の開始学年であり、「(どちらかといえば)好き」「(どちらかといえば)嫌い」とともに増加率が一番高いの

が英語教育の開始が早い南あわじ市であるということから、英語教育に触れている期間が長いために中学校入学までに英語に対する評価がほぼ固まっていて、中学の授業ですであ

にある傾向を助長するだけの形になったのだと考えられる。
 実際の授業の傾向に関して、生徒が受け身でいるか主体的に活動しているかという割合は南あわじ市と淡路市で大きな違いがなく、このことも上記の考察の裏付けとなっている。
 (グラフ 13-2)

【グラフ 12-2 : 2 設問 1 及び 1 設問 6①の結果比較 (地域別集計)】



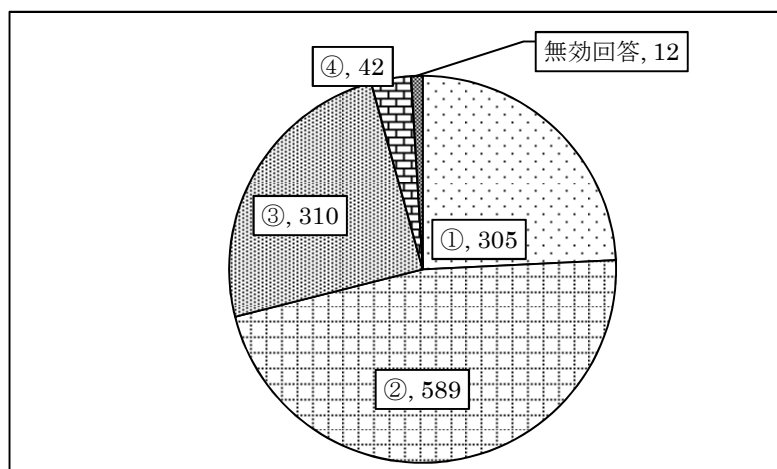
(イ)中学校の英語の授業について (設問 2・設問 3)

設問 2)学校の英語の授業では「先生の説明を聞いている時間」と「自分たちが英語を使って活動する時間」とどちらの方が多いと思いますか？

- ①「先生の説明を聞いている時間」の方が多い
- ②どちらかと言えば「先生の説明を聞いている時間」の方が多い
- ③どちらかと言えば「自分たちが活動する時間」の方が多い
- ④「自分たちが活動する時間」の方が多い

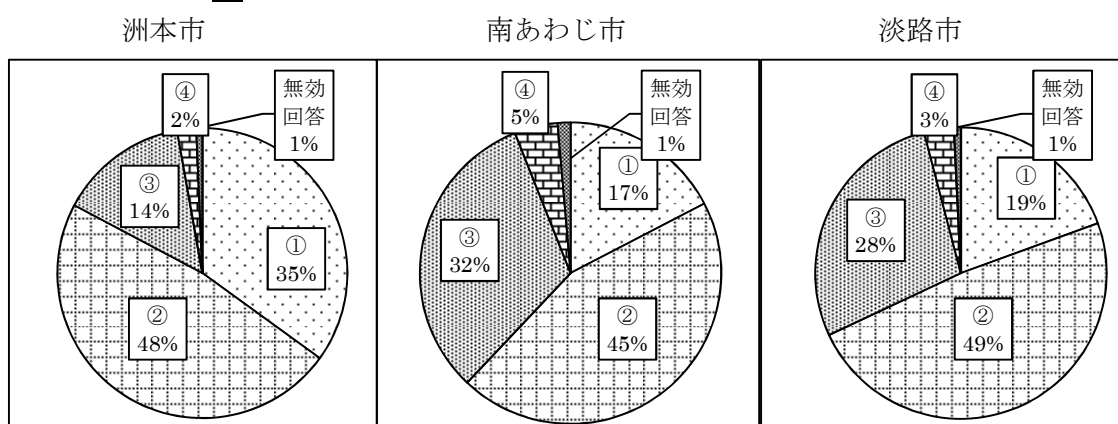
まず実際に学校で行われている授業について、生徒たちがどのような印象を持っているのかを調査する。

【グラフ 13-1 : 設問 2 全体集計】



全体の集計結果では②が最も多く、ほぼ半数に上る。(グラフ 13-1) 新たな学習内容が多くあることから、教師による説明時間が多く必要なのは必然であり、全体として①と②の合計数が 7 割に達する結果となった。

【グラフ 13-2 : 設問 2 地域別集計】



地域ごとの結果をみると、全体の結果はちょうどその平均をとっただけだということが一見して明らかである。洲本市では「先生の説明を聞く時間の方が多い」とする生徒が 8 割以上に上り、南あわじ市では約 6 割、淡路市で 7 割弱となっている。当然「自分たちが活動する時間の方が多い」と感じている生徒の割合は逆転し、洲本市で 1 割半、南あわじ市が 4 割弱、淡路市で 3 割となる。

もともと英語教育に早くからなじんでいるものが多い南あわじ市では生徒に任せやすく、多くの生徒が 5 年次から週に 1 回の授業を受け始める体制の洲本市では、教師がきちんと説明していく形式に双方が馴染んで授業の組み立てがなされているということだろう。

設問3)どのような英語の授業を受けてみたいですか？最も受けてみたいものから順に3つ選んで下さい。

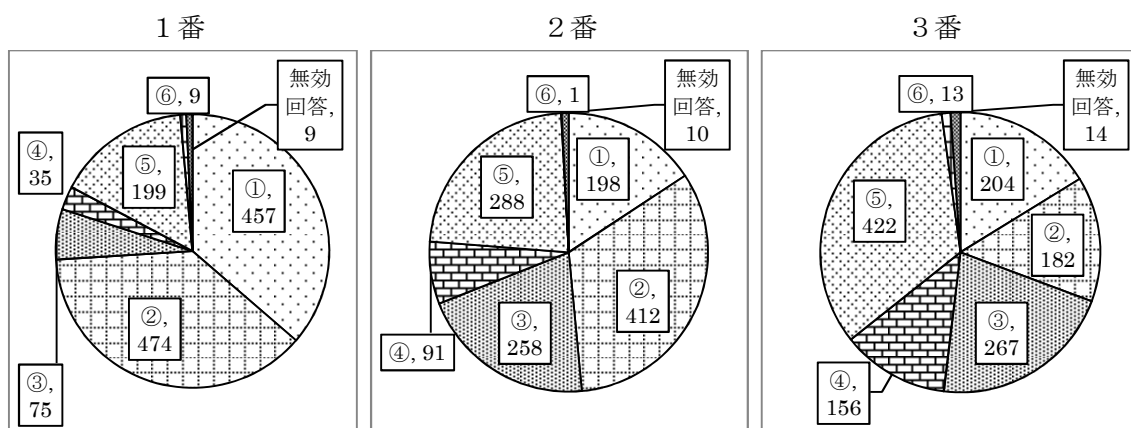
- | | |
|---------------------|--------------------|
| ①英語が好きになる授業 | ④言語や文化に対する理解が深まる授業 |
| ②入試に役立つ授業 | ⑤英会話が身につく授業 |
| ③高校やそれ以降の英語学習に役立つ授業 | ⑥その他（具体的に） |

生徒の間でも英語の好き嫌いは振れ幅が大きく、テストの点数を物差しに得手不得手のレベルも様々である。とはいえ否応なしに全員が英語の授業を受けざるを得ない状況下において、生徒がどういった授業を希望するのかを質問した。

感情面のフォロー（①）、成績向上・試験対策としての授業（②・③）、実際のコミュニケーション能力を上げるための授業（④・⑤）について選択肢を与え、その他自由記述の項目を設けている。

この設問は生徒の希望をたずねるものであって体制的な問題ではないことに加えて、地域ごとの結果も大差なかったため、全体結果のみを示して考察することとした。

【グラフ 14-1：2設問3 全体集計】



一番目に選択された項目は①と②が圧倒的である。②に関しては二番目にも同程度の選択がされており、入試が生徒にとって切実な問題であることがよく表れた結果となっている。③は入試に特化こそしていないが好成績を得るためのステップという選択肢であり、第一希望では上位2つに食われているが、2番目3番目には相当数選択されていて、やはり成績が気になることを示している。④と⑤は希望順位が下がるほど目に見えて選択率を上げており、入試ほど切実な問題ではないものの、授業を受けるのであれば実用的なものを身につけたいという心境を反映していると考えられる。後述するが、第三希望での自由記述には実際の英会話に関する内容も複数みられる。

最も受けてみたい授業に「⑥その他」を選択し、かつ具体的内容を記した回答は以下の8件である。あえて第一希望に置いて記入しているのでこれらの内容は記述者にとって切実な希望ととらえて良い。

「人に興味をもつ話ができる力をつける授業」

「楽しいじゅぎょう。」

「1回～3回教えてもらったら絶対忘れない授業」

「英文を読めるようになる授業」

「英語が苦手でも理解しやすい授業」

「やりたくない」「英語をしない」「わからない」

最後にまとめた3例の記述では、「わからない」という回答はさておき、他の項目でもとにかく英語が嫌いであるという回答をしている生徒の「やりたくない」「英語をしない」という記述は、具体的な事柄への参考にはならないが、英語が嫌いだという考えに縛られると頑なに全て拒否する姿勢になることを端的に示している。

非常に具体的なリクエストになっているのは「人に興味をもつ話ができる力をつける授業」「英文を読めるようになる授業」の2つである。後者の記述は、英文読解の授業は必ず行われているので、その授業への理解が追い付いていないか、他に読みたいものがあるかのどちらかだろう。前者は、英語教育に限って考えるならば英語でのスピーチ力を身につけたい、と読み替えることが可能である。

「絶対忘れない授業」や「理解しやすい授業」というリクエストは、日頃の授業でその生徒が悩んでいる点そのものであろう。

第二希望で⑥が選択されたアンケートは1件だけあるが、第一希望と第三希望がともに空白で、特に具体的記述もないことから回答者の意図は不明である。

第三希望での記述内容は以下の7件である。

「外国の文化や、外国に行って役立つ英語」

「文法などが分かりやすくなる授業」

「将来に役立つ授業」

「英語を積極的に話せる授業」

「ゲームをよくする」

「大人になり、世界へ出たとき英語ができているとつうようする授業」

「モニターテレビを通して外国人と会話をしたい。」

このうち「外国の文化や、外国に行って役立つ英語」「英語を積極的に話せる授業」「大人になり、世界へ出たとき英語ができているとつうよう（報告者補足：通用）する授業」の3つは④や⑤の選択肢に比定することができる。後者の記述は少し意味を取りにくい、世界で通用する英語を身につけたいということであろう。

「文法などが分かりやすくなる授業」というリクエストは現在理解しきれていない部分の補足を求める内容なので大きく見れば③に含まれる。「将来に役立つ授業」という記述は「将来」が学校教育時点の話か否か、「役立つ」のが学習に対してなのか実践に対してなのかでニュアンスが大きく変わるものの、③の類型とみなして良い。

残る2つは小学校時代に印象の良かった授業の再登場を期待する記述であろう。小学校

時代の楽しい授業が、ゲームの要素を多く含んだものであることは[1]の設問4ですで見
た。また「モニターテレビを通して」と記述した回答者は、[1]の設問4でも「テレビを通
して話をした。」と記述しているので、その時の印象が強く残っているのだろう。

(ウ)外国人との英語交流の機会について（設問4・設問5・設問6）

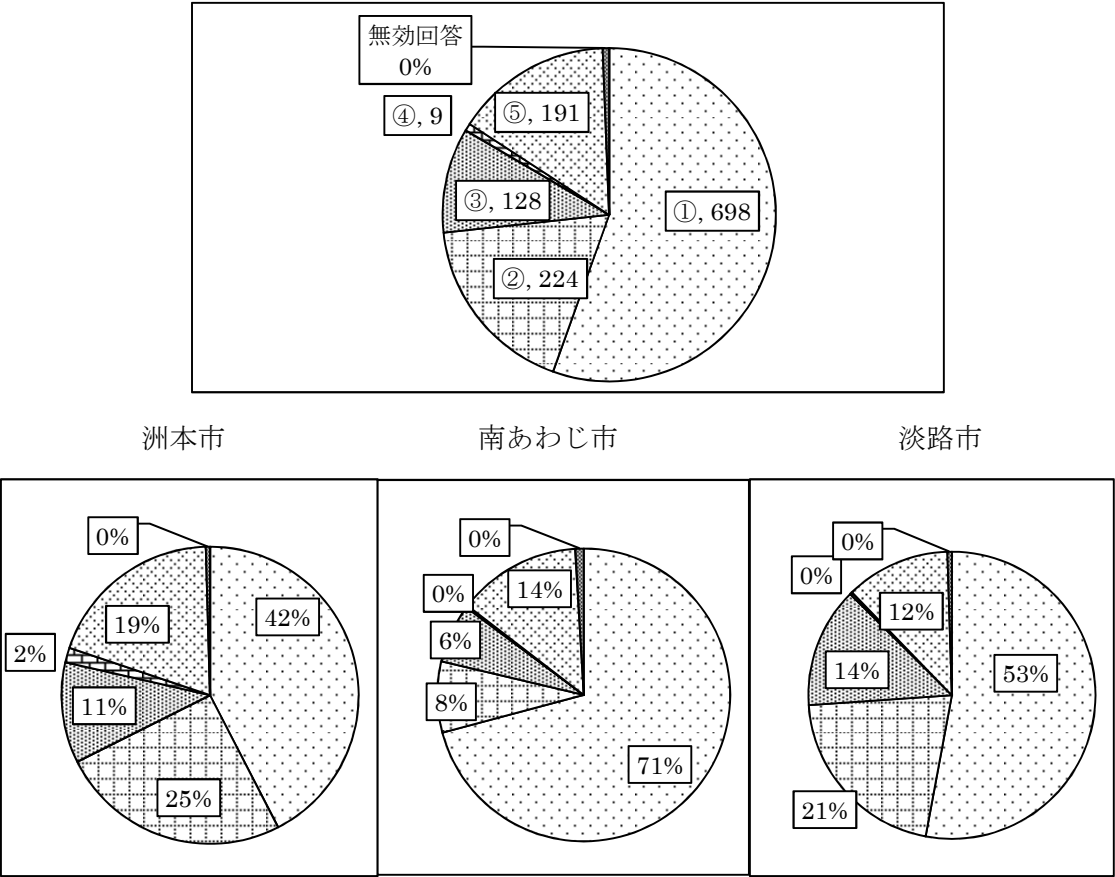
実際に英語を利用する機会として学校授業でALTの教員が担う頻度と、学校外での交流
の機会についてたずねる。また、交流の機会を増やしたいという希望について調査する。

設問4)ALT（英語指導の手伝いをする外国人教員）の先生が行う授業はどの程
度ありましたか？

- ①週に1回くらい ③月に1回くらい ⑤わからない
- ②月に2～3回くらい ④年に2～3回くらい

学校の授業は生徒たちにとって少々嫌でも取り組まざるを得ない学習の場である。そこ
にALT教員が登場することで、一定の英語によるコミュニケーションの機会が保障される。

【グラフ15：[2]設問4 集計結果…全体集計（上段）及び地域別集計（下段）】



集計結果からは、全体として週に1回の授業を実施しているところが過半数になるものの、地域によってALT教員の登場頻度がばらつくことが分かった。(グラフ15) もっとも頻度が低い洲本市では「①週に1回くらい」「②月に2～3回くらい」を合わせても7割に達しないが、最も頻度が高い南あわじ市では「①週に1回くらい」だけでそれを超え、淡路市はその中間で全体平均に最も近い値を示す。

次いで、学校外での交流機会について質問する。

設問5)ALTの先生以外の外国人と英語を用いて交流する機会がありますか？

①はい
②いいえ

→「①はい」とお答えの方にお聞きします。どのような方と交流がありましたか？（自由記述）

→「①はい」とお答えの方にお聞きします。英語を用いた交流の機会はどの程度ありますか。当てはまるものを○で囲んでください。

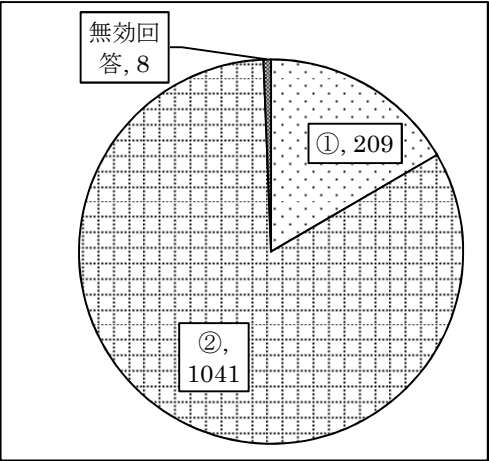
選択肢：よくある・たまにある・ほとんどない・まったくない

この設問に対して、一応「①はい」と回答する数が1割半程度存在する。しかし実際の記述内容を見てみると「学校の先生」や「ALTの先生」といった記述も散見され(附表(1))、本当に学校外で交流の機会を持っている生徒はさらに少数だと考えられる。(グラフ16)

また、交流の頻度については設問の仕方に若干問題があり、生徒の主観として「たまにある」という回答が半数近くを占めるものの、具体的な頻度は全く不明である。(グラフ17)

なお、問題となる「①はい」の回答者数が少なく、上述の生徒による誤解も少なくないことから地域ごとの差異については数字を上げるに止めることとする。

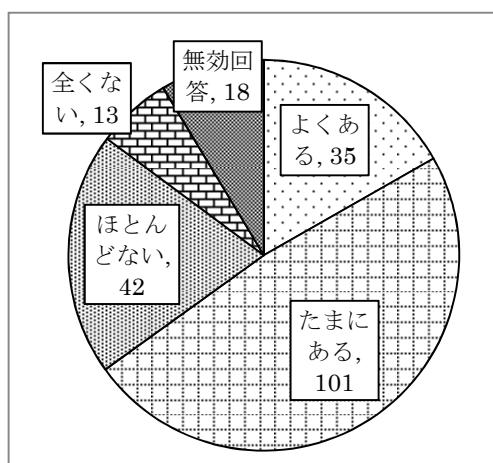
【グラフ16：2設問5 集計結果…全体集計（グラフ）及び地域別集計（表）】



グラフ16-表：地域別回答数

	洲本市	南あわじ市	淡路市
①はい	84	62	61
②いいえ	342	366	329
無効回答	3	4	1
合計	429	432	391

【グラフ 17: ②設問 5 ①選択者回答 集計結果…全体集計 (グラフ) 及び地域別集計 (表)】



グラフ 17-表: 地域別回答数

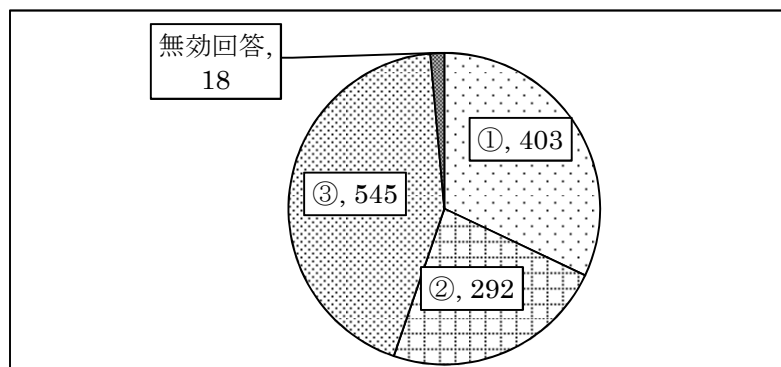
	洲本市	南あわじ市	淡路市
よくある	13	14	8
たまにある	40	19	40
ほとんどない	18	15	9
全くない	8	5	0
無効回答	5	9	4
合計	84	62	61

最後に交流頻度について、増やしたいという希望がどの程度あるかを調査する。

設問 6) 英語のコミュニケーションを行う機会は増やした方が良いと思いますか？

①増やしてほしい ②特に必要ない ③このままでいい

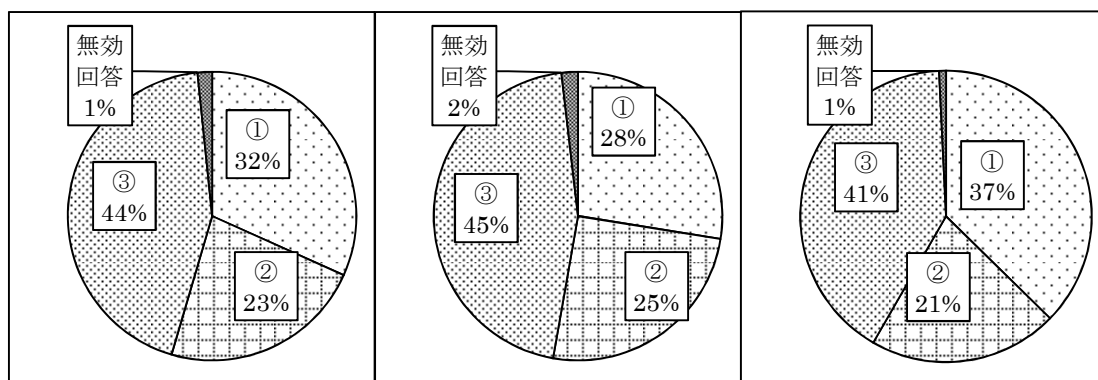
【グラフ 18: ②設問 6 集計結果…全体集計 (上段) 及び地域別集計 (下段)】



洲本市

南あわじ市

淡路市



設問6の回答について、設問5の回答と比較するのは難しい。設問内容としては大いに関係があるのだが、設問5において実際の学校外での交流を経験している生徒が少ないためである。ほとんどの生徒がALT教員との交流以外の機会を持っていないと考えると、比較検討すべきは設問4の回答である。

すると、設問4においてALT教員の授業頻度に大きな開きのあった洲本市と南あわじ市でかなり近い結果になっていることが分かる。「①増やしてほしい」とする回答が、ALT教員による授業頻度の低かった洲本市でやや高めではあるが、平均値をとっていた淡路市の方が希望者の割合が高い。「②必要ない」とする否定的意見は淡路市で最も低い、洲本市も南あわじ市も大差ない。「③このままでいい」とする声は、ALT教員の授業頻度の最も高かった南あわじ市で最多になるものの、洲本市、淡路市ともに微差といって良い。

結局のところ、学校教育現場以外での交流の機会がほとんどないために現状に対して満足か不満足かという以上の要望は、出てくる素地がないということであろう。学校の授業として行われている交流と、自身の学力、交流の必要性というものをしっかりと認識した上での回答結果ではないことに留意しておかなければならない。

(3) 外国や英語への興味・関心について

(ア)外国への興味・関心について（設問1）

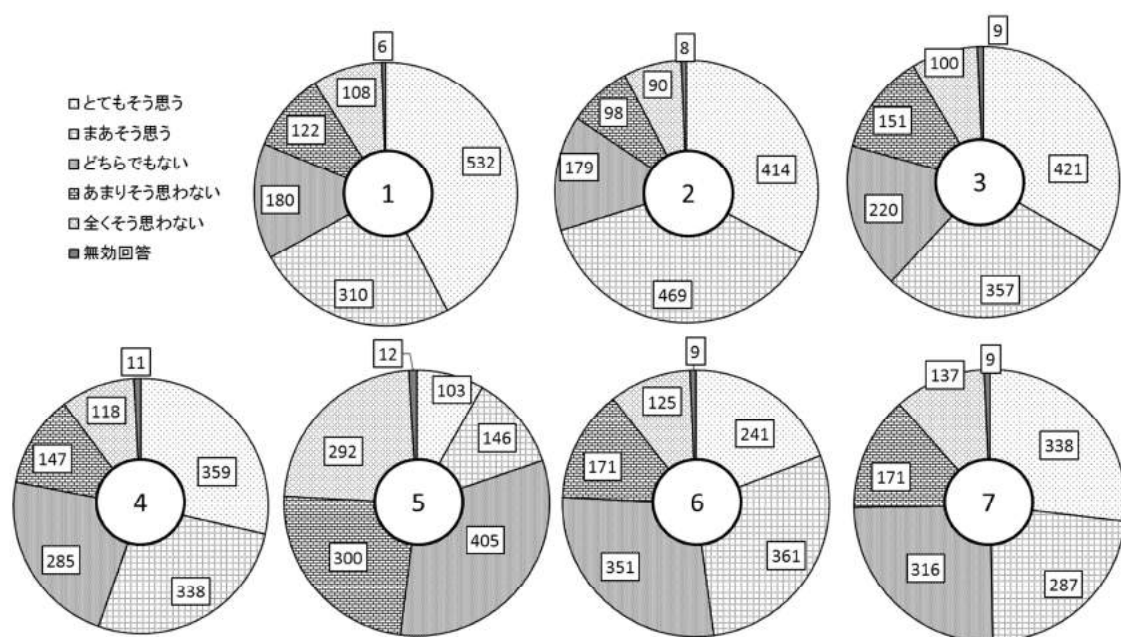
設問1)外国や英語への興味・関心についてお聞きします。次のことについてどう思いますか？当てはまるものを○で囲んでください。

- ①外国に行きたい
- ②外国の人に道を聞かれたら案内ができるようになりたい
- ③英語を使って外国の人と話してみたい
- ④外国の人と友達になりたい
- ⑤自分の家に外国の人のホームステイを受け入れたい
- ⑥外国の文化（生活や食べ物など）に興味がある
- ⑦外国の有名人やスポーツ選手に関心がある

選択肢：とてもそう思う・まあそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・まったくそう思わない

実際に外国人と交流する機会は少ない生徒たちが、外国に対してどういった興味・関心を持っているのかを確認する。

【グラフ 19-1 : 3 設問 1 全体集計結果】

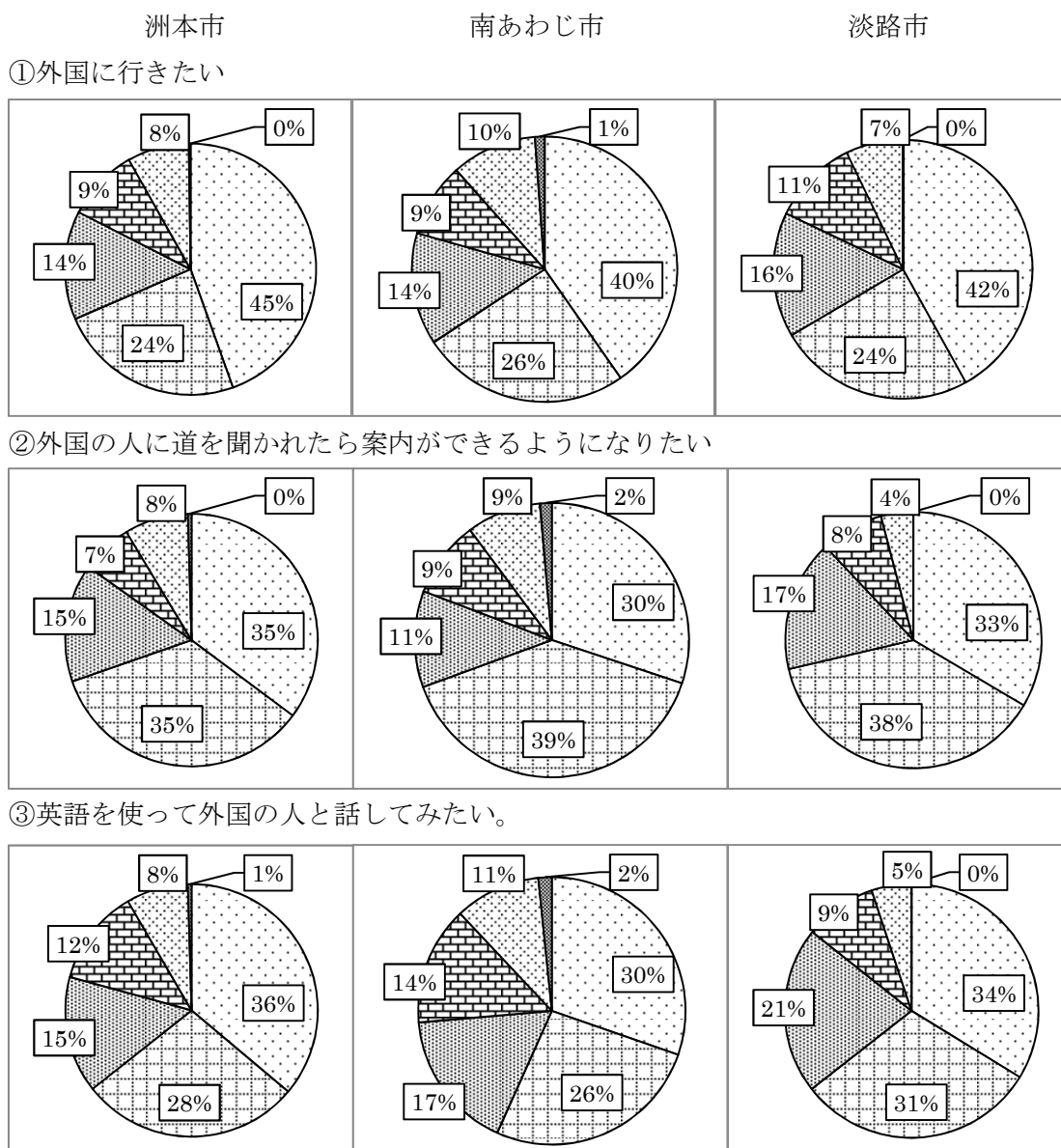


7つの項目のうち、「⑤自分の家に外国の人のホームステイを受け入れたい」が最もハードルが高く、他の項目に比べるとあからさまにマイナスの評価となっている。（グラフ 19-1）この項目を挟んで、手前の4項目は直接外国もしくは外国の人と接する場面を想像する項目であり、後ろの2項目は興味・関心に関する項目である。

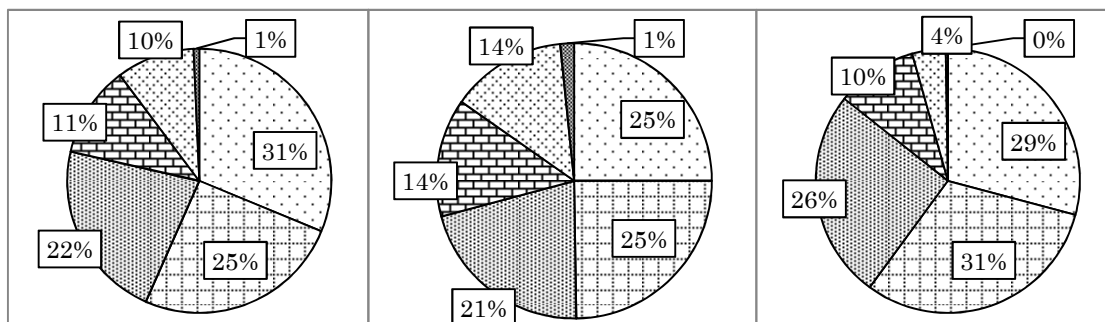
最初の4項目に関しては地域別の差異がさほど大きく出ない。「①外国に行きたい」と「②聞かれたら案内ができるようになりたい」は肯定的にとらえる意見が多く、「③話してみたい」「④友達になりたい」と積極性が求められる場面に対しての意見はそれを敬遠しているようで割合が落ちる。落ち幅の大きいのは南あわじ市で、他の2市が1割減程度にとどまっているのに対して2割近く選択率が下がっている。また、洲本市は肯定意見が減った分、否定意見の増える傾向があるが、淡路市は「どちらでもない」の選択に留まって否定意見にまで転化する部分が少ない。(グラフ 19-2)

興味・関心の項目になると最も肯定的な淡路市、最も否定的な南あわじ市、間をとるような洲本市という、これまでと同じパターンが見られる。(グラフ 19-2)

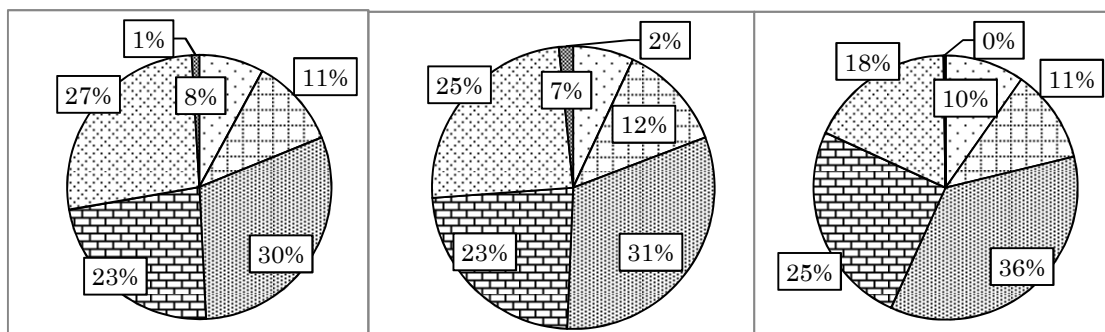
【グラフ 19-2 : ③設問 1 地域別集計結果】



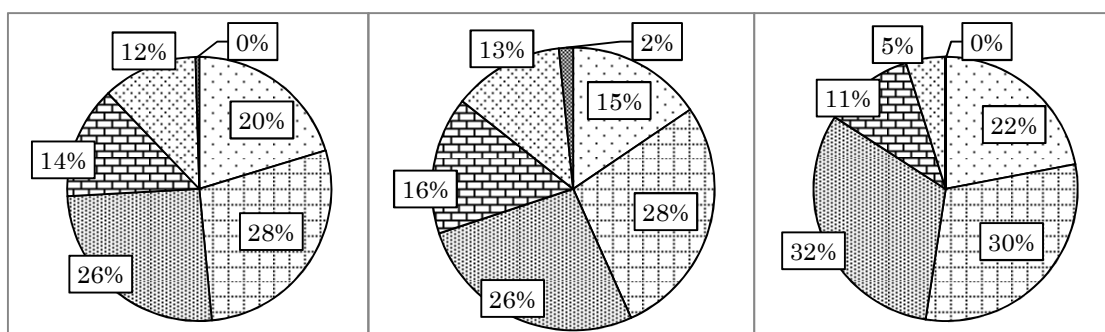
④ 外国の人と友達になりたい



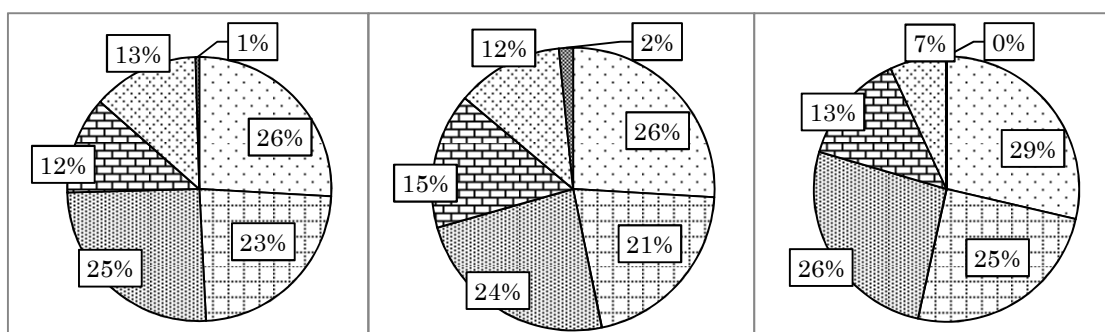
⑤ 自分の家に外国の人のホームステイを受け入れたい



⑥ 外国の文化（生活や食べ物など）に興味がある



⑦ 外国の有名人やスポーツ選手に関心がある



(イ)将来のことについて（設問2・設問3）

設問2)将来のことについてお聞きします。次のことについてどう思いますか？
当てはまるものを○で囲んでください。

①自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている

②英語が話せなくても将来困ることはない

③将来、外国に留学したい

④将来、英語を使う仕事をしたい

⑤英語ができると、将来良い仕事につける

⑥英語を聞いたり話したり出来るようになりたい

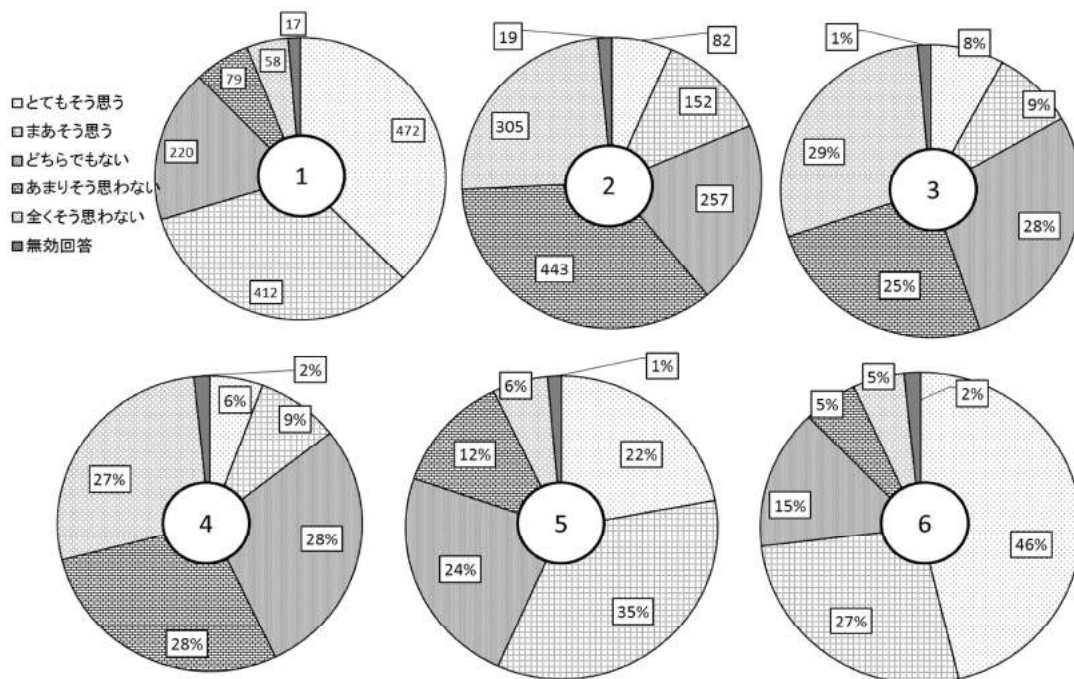
選択肢：とてもそう思う・まあそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・まったくそう思わない

否応なしに英語教育を受けている生徒たちが、英語に係わる将来の展望をどのように捉えているのかを調べる。

項目はまず英語の必要性（①・②）、英語にどれくらい関わりたいか（③・④）、職能としての英語に対するイメージ（⑤）、コミュニケーションツールとしての英語への意欲（⑥）を問う形になっている。

結果をみると、英語の必要性については多くの生徒が必要であると認識しており、①と②の結果は問いかけと同様の好対照を示す。一方で、意欲の面では留学や英語を使う仕事といった、英語ときわめて密接に付き合う項目に対して消極的になっていることも分かり、多くの生徒が「必要だけれどもそこまで熱心に関わりたくない」というジレンマを感じていると解釈できる。職能として身につけていれば有利だと考えている生徒も多く、また、そうでなくてもコミュニケーションをとれるようにはなりたいと感じている生徒の数は相当な割合になることが分かる。（グラフ 20-1）

【グラフ 20-1 : 設問 2 全体集計結果】



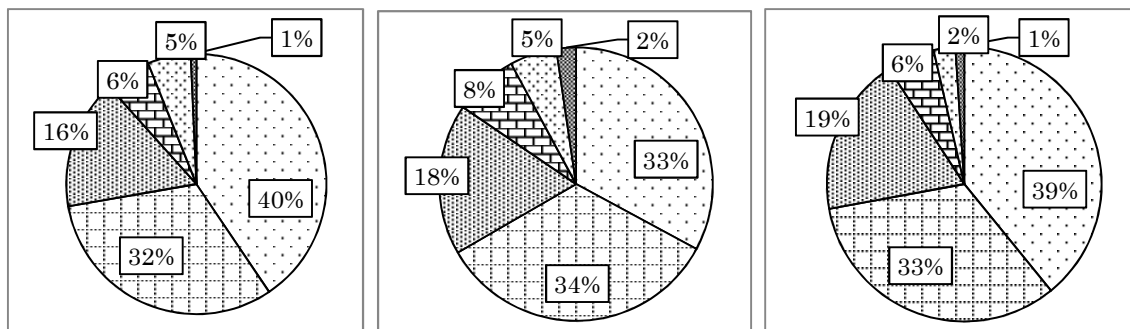
【グラフ 20-2 : 設問 2 地域別集計結果】

洲本市

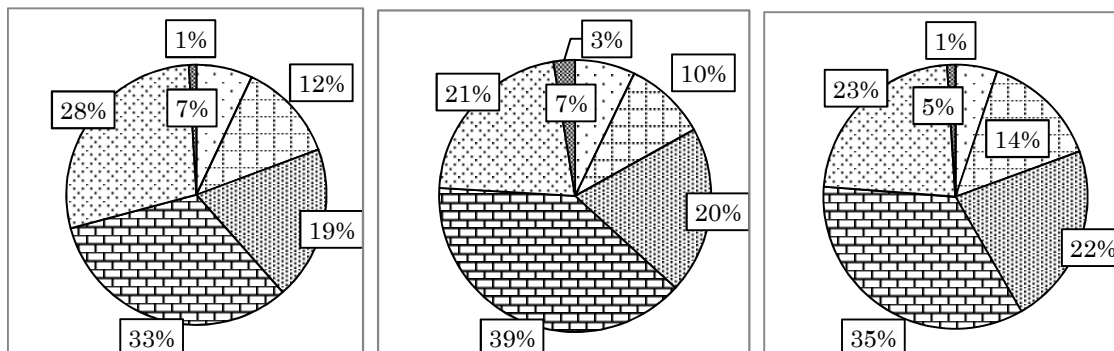
南あわじ市

淡路市

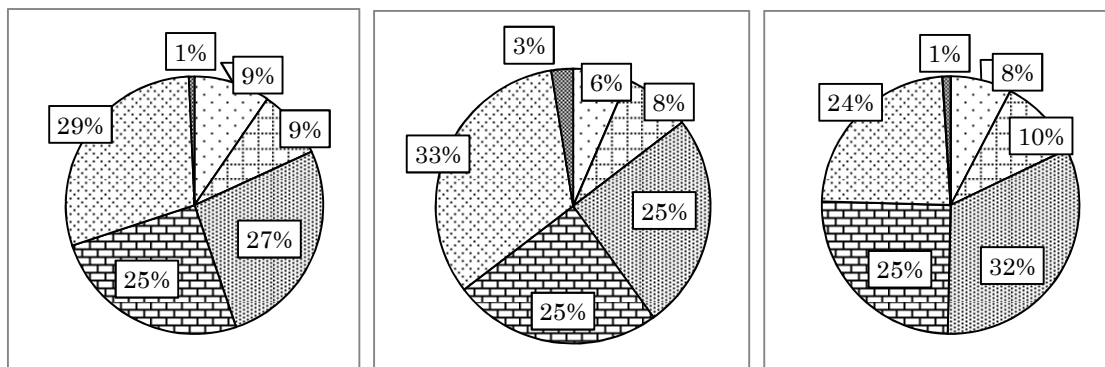
①自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている



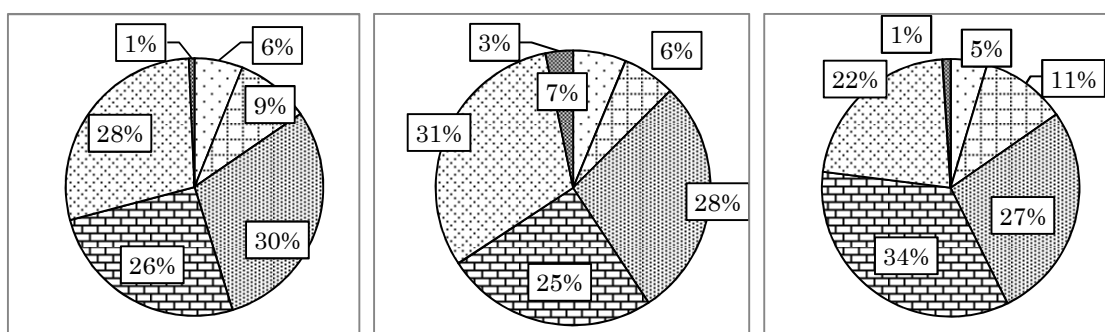
②英語が話せなくても将来困ることはない



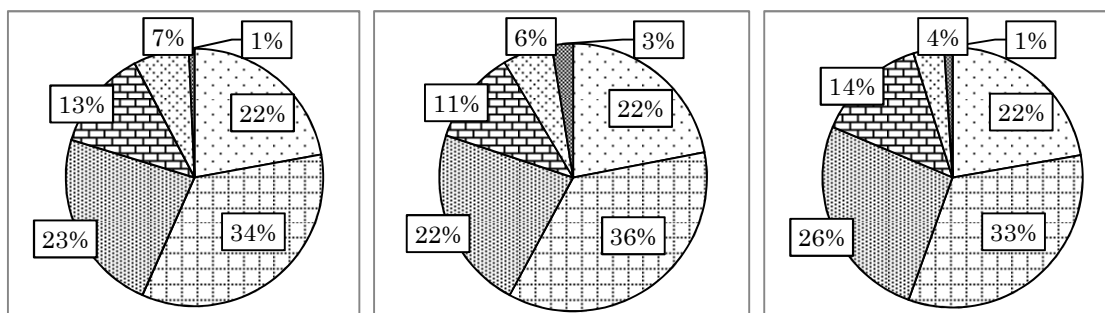
③将来、外国に留学したい



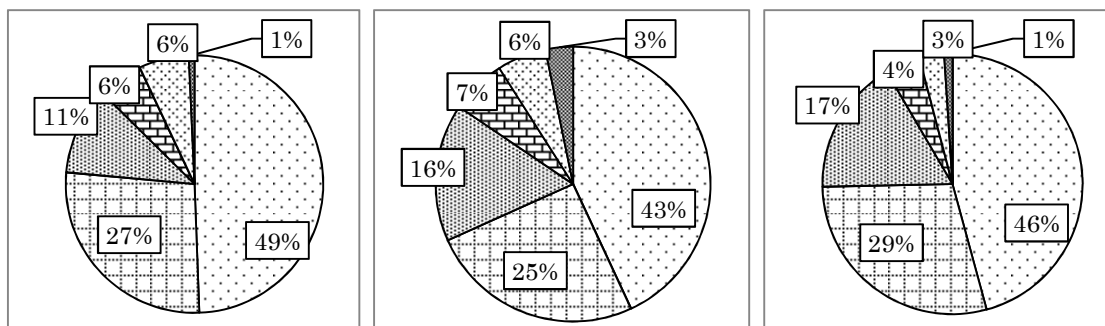
④将来、英語を使う仕事をしたい



⑤英語ができると、将来良い仕事につける



⑥英語を聞いたり話したり出来るようになりたい



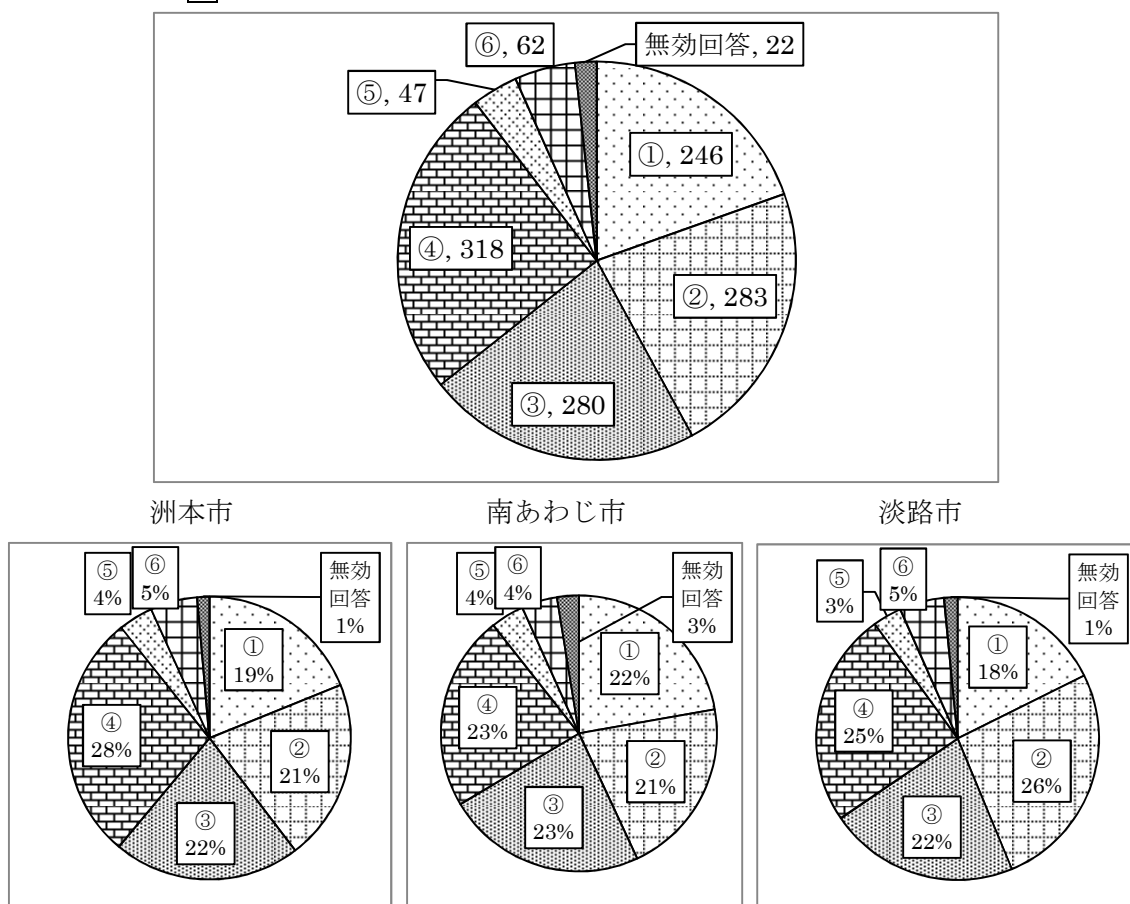
設問3)あなたは将来、どのくらいの英語力を身につけたいですか？次の①～⑥の中から1つお選びください。

- ①英語で仕事ができるくらいの英語力
- ②英語で良い成績がとれるくらいの英語力
- ③日常会話で困らないくらいの英語力
- ④海外旅行で困らないくらいの英語力
- ⑤英語を学ぶ必要性を感じない
- ⑥その他（自由記述）

英語の必要性を感じている生徒たちが多くいる中で、彼らが最終的に身につけたいと思う英語力がどういったものなのかを質問する。

仕事で使える英語＞学校の成績＞日常会話＞旅行先での必要性＞必要性がない、という便宜上の序列は伝わりにくかったようで、「⑤学ぶ必要性を感じない」以外の選択肢は割と均一な選択率となった。地域別に見ても微差ばかりでほとんど偏りのない状態である。（グラフ21）なお、実際に記述のあった13例については附表にその内容を記した。（附表(2)）

【グラフ21：③設問3 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



(4) 英語村について

この項目では英語村構想について、構想に対する興味・実現した場合に体験してみたい内容・体験する場合の滞在時間の3項目について調査している。

設問1)この考えについてどう思いますか？当てはまるものを○で囲んでください。

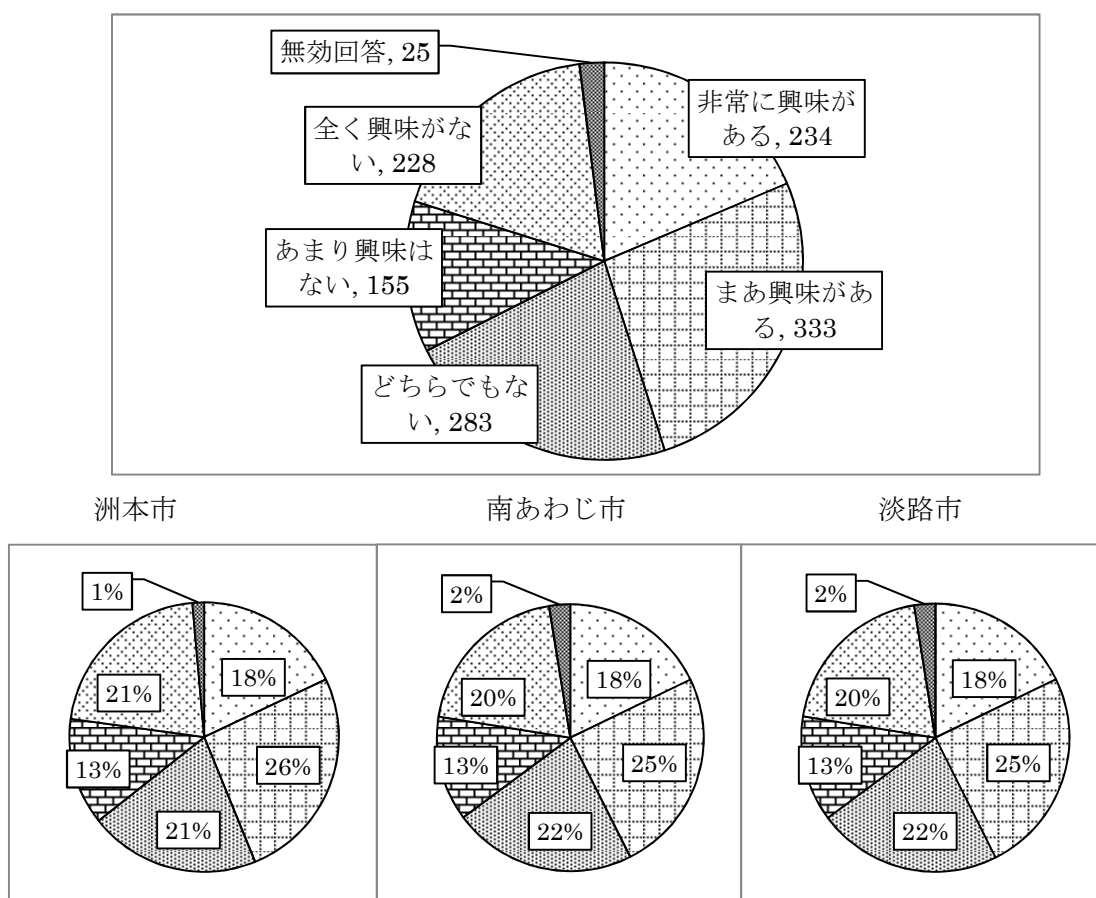
選択肢：非常に興味がある・まあ興味がある・どちらでもない

あまり興味はない・まったく興味がない

最初の設問で、「非常に興味がある」「まあ興味がある」を選択して興味を示したのは全体の4割強である。英語教育に対する興味・関心とはある程度切り離して捉えられているのか、ここまでの問いで見られた地域差が皆無である。(グラフ22)

一方で、「あまり興味はない」とする人数が少ないために肯定的意見の方が多い結果となっているが、「全く興味がない」とする数は「非常に興味がある」と拮抗する結果となった。続けての設問2や設問3に回答はしているが、このことは留意しておくべきであろう。

【グラフ22：4設問1 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



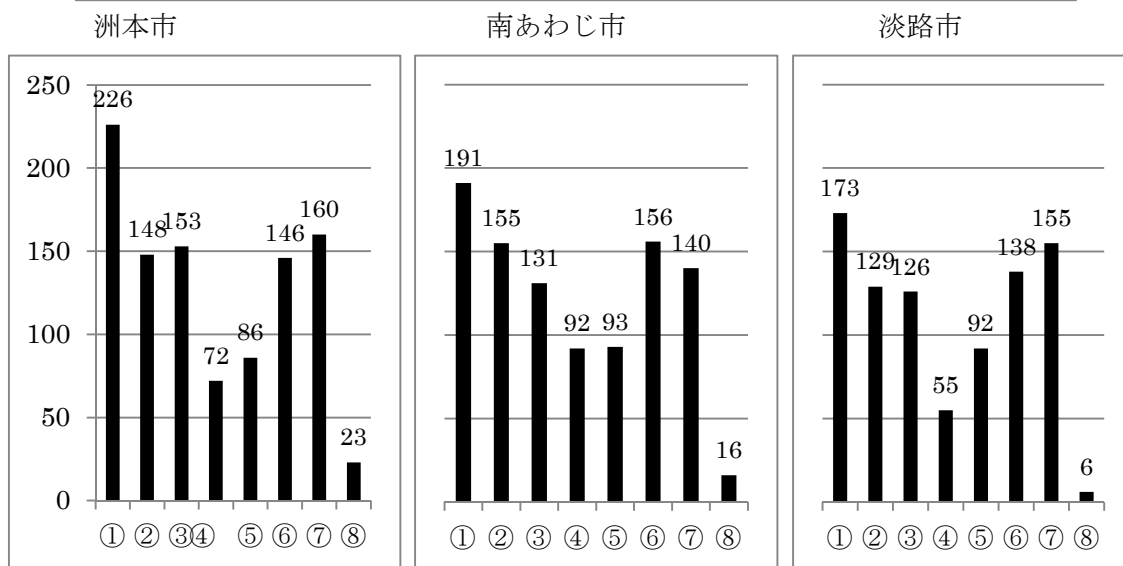
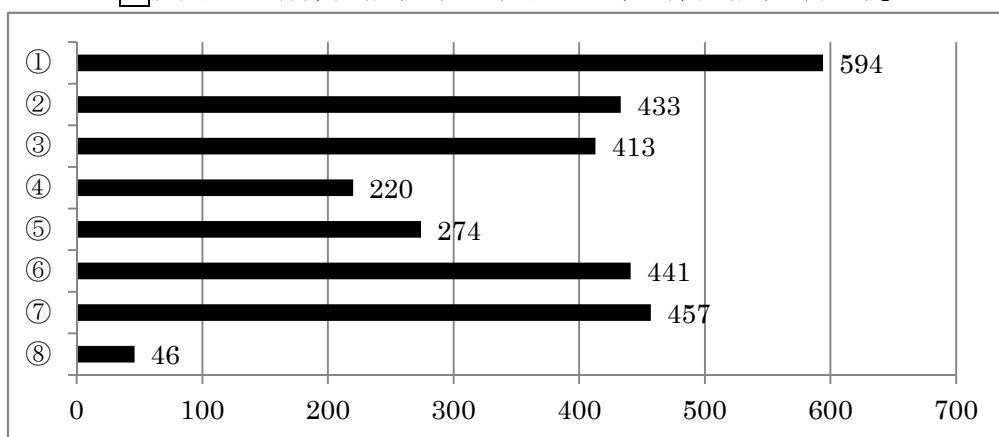
設問 2)英語村ではどんなことを体験したいですか？（複数回答可）

- | | |
|-------------|--------------------|
| ①ゲーム | ⑤外国人と日本のことについて話をする |
| ②買い物 | ⑥料理 |
| ③外国人と遊ぶ | ⑦キャンプ |
| ④外国人と音楽を楽しむ | ⑧その他（自由記述） |

やってみたい内容について、中学生らしく「①ゲーム」は大いに人気で、類型となる「③外国人と遊ぶ」という項目も支持数が多い。「②買い物」「⑥料理」「⑦キャンプ」といった具体的な作業がイメージしやすいものも多く選択される結果となり、「④外国人と音楽を楽しむ」「⑤外国人と日本のことについて話をする」といった、授業の延長と感じられそうな内容のものは敬遠される結果となった。（グラフ 22）

また、「⑧その他」で実際に記述があるものは 43 件あるが、具体的な要望が記述されたものはごく少数である。内容も肯定的なものと否定的なものがあるので、分類して附表に記すこととした。（附表(3)）

【グラフ 23：④設問 2 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



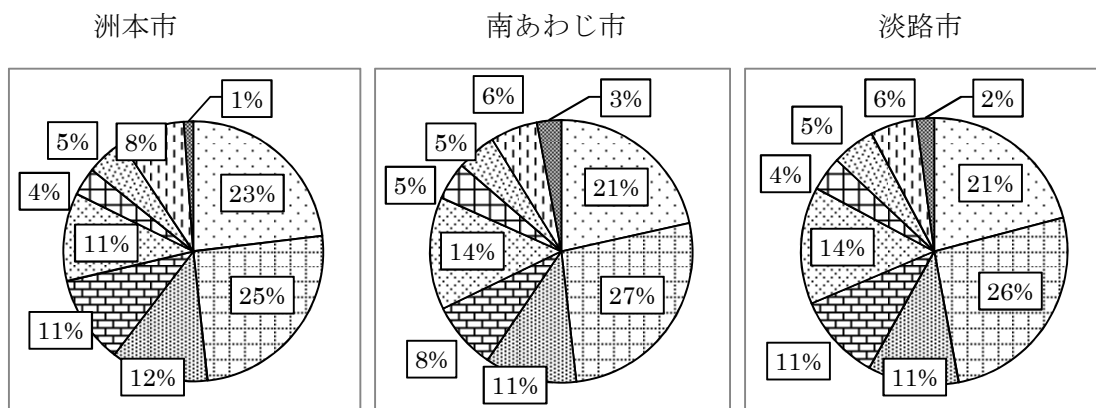
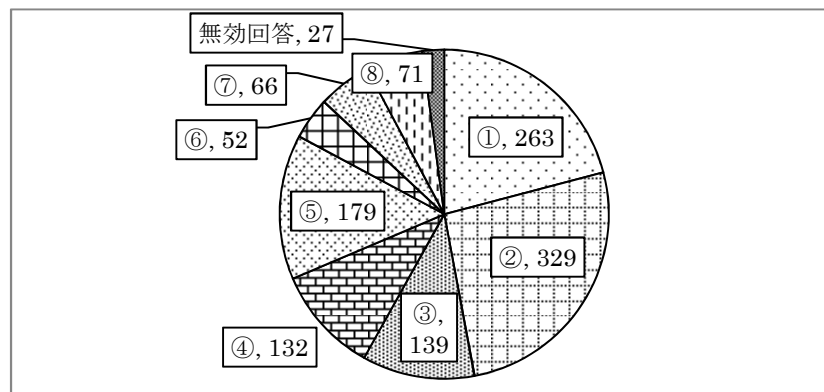
設問3)滞在期間の日数はどのくらいが適当だと思いますか？次の①～⑧の中から1つお選びください。

- | | | | |
|--------|--------|--------|-------------|
| ① 1泊2日 | ③ 3泊4日 | ⑤ 1週間位 | ⑦ 1ヶ月位 |
| ② 2泊3日 | ④ 4泊5日 | ⑥ 2週間位 | ⑧ その他（自由記述） |

滞在時間について、1泊2日から1ヶ月までを細かく区切って選択肢とした結果、回答も細かく分かれることになった。最も支持されたのは「② 2泊3日」であり、週末をフル活用すれば普段から利用できる程度の長さである。次に僅差で「① 1泊2日」が支持をあつめ、手軽な滞在を想像されていることが分かる。（グラフ24）

より短期的な希望（半日等）や、長期的な希望は自由記述にいくつか見られ、各々が想像力をたくましくしていることがうかがえた。（附表(4)）

【グラフ24：④設問3 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



4. 保護者アンケート分析

保護者用アンケートの質問項目は大きく5つである。生徒用アンケートの分析と同じく、大問それぞれに節を設け、小問ごとの全体結果と地域差を主に考察する。

(1) 中学校の英語教育について

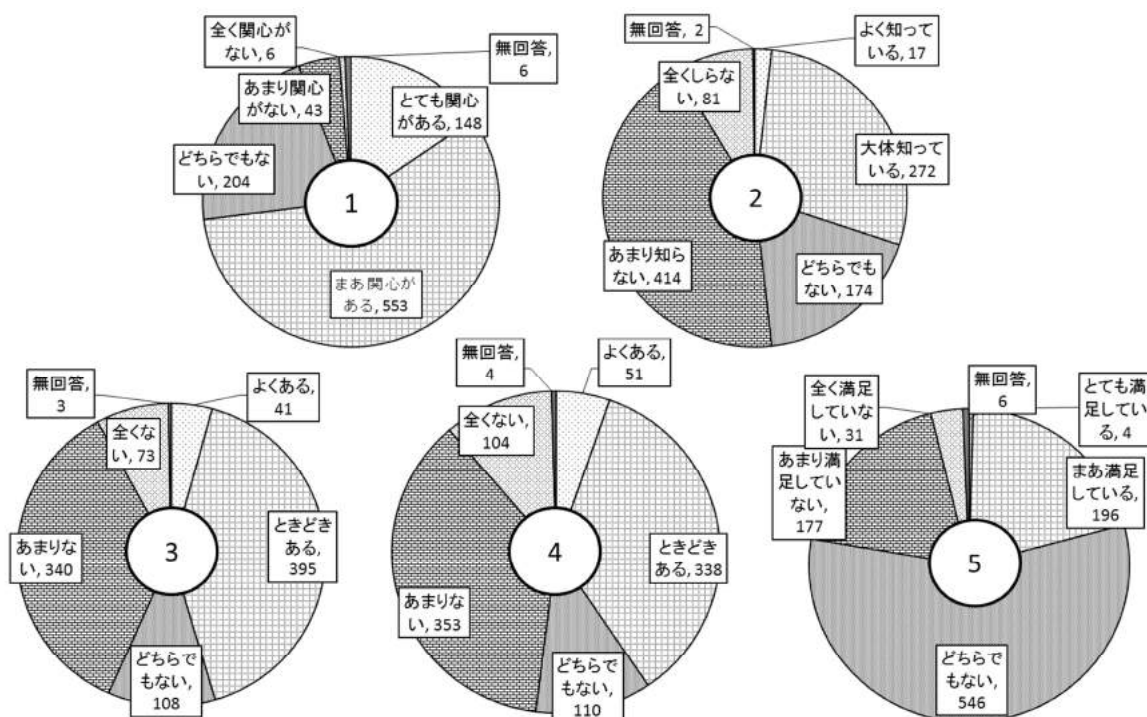
この項目では生徒が受けている学校での授業内容をどの程度把握しているか（設問1）、また学校及び生徒に対してどういった授業ないし英語力を求めているのかをたずねた（設問2・設問3）。設問2と設問3に関しては地域差が小さいため、全体結果のみを考察対象としている。

設問1)中学校での英語学習に関する以下の項目について該当するものを○で囲んでください。

- ①中学校の英語教育にどの程度関心がありますか。
- ②お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかご存知ですか。
- ③学校での英語の学習について、お子様とご家庭で話をすることがあります。
- ④お子様は学校で習った英単語や語句をご家庭で用いることがありますか。
- ⑤お子様の学校で行われている英語教育について満足していますか。

※各設問の選択肢は集計結果のグラフ内で示す（グラフ 25-1）

【グラフ 25-1：1]設問1 全体集計結果】



まず「①どの程度関心がありますか」に対しては7割以上の保護者が「とても関心がある」か「まあ関心がある」を選択しており、気にかけていることが明らかである。しかし実際のところをどれくらい知っているか、ということに関して「教育内容を知っている」という回答は3割だけであり、「あまり知らない」「全く知らない」とする回答が5割以上となる(②)。また、教育内容を伺いような親子の会話がどの程度あるかという設問に対しては、「よくある」「全くない」という断定する回答が少なく、時折話題には上るもののしっかりと内実を把握するには及んでいないことが分かる(③、④)。そういった状況であるから、⑤の満足度に対しては過半数の保護者が「どちらでもない」を選択し、回答をしても「まあ満足している」か「あまり満足していない」に止め、きっぱりと言い切る回答は肯定・否定を合わせても5%に満たない(⑤)。(グラフ 25-1)

この地域ごとの結果を見てみると、洲本市と淡路市は互いによく似た挙動を示すが、それに比べると南あわじ市が全体的に関心の薄い方向へ偏っている。(グラフ 25-2)

「③英語の学習について話をすることがあるか」という問いではその差が顕著で、洲本市では半数が「ある」と回答しているのに対して南あわじ市の同じ回答は3割に満たない。南あわじ市では英語教育に接し始める時期が早いために、あえて話題に上らせるほどの新鮮さがないということであろう。

同様の理由で、英語で何か新しいことを習ったからといって家庭内でそれを披露する機会も少ないのだと思われる(④)。また、そこから派生して学校教育の内容把握も当然知る量が少なくなり(②)、したがって英語教育への評価も可不可を判断しないという帰結になるのは自然なことであろう(⑤)。これを早くから馴染んできた英語教育への信頼とみなすか、放任とみなすかは一概に判断が下せない。

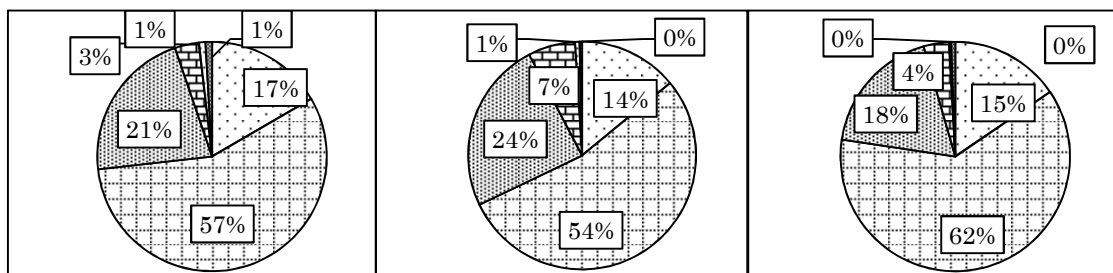
【グラフ 25-2 : 1 設問 1 地域別集計結果】※凡例はグラフ 25-1 に同じ

洲本市

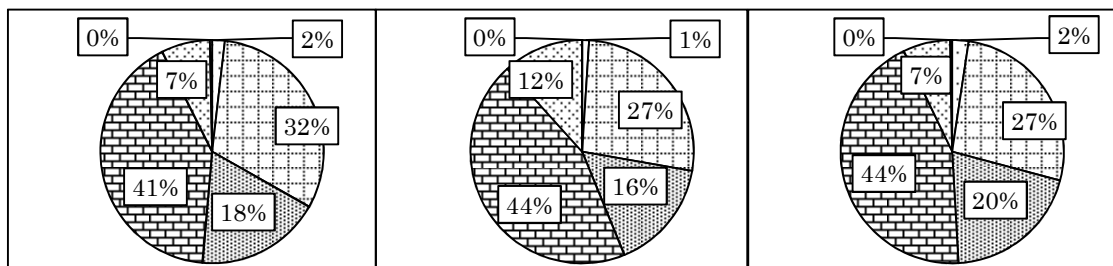
南あわじ市

淡路市

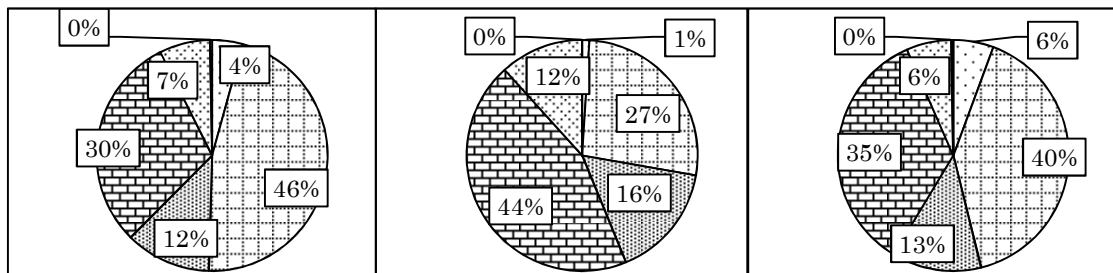
① 中学校の英語教育にどの程度関心がありますか。



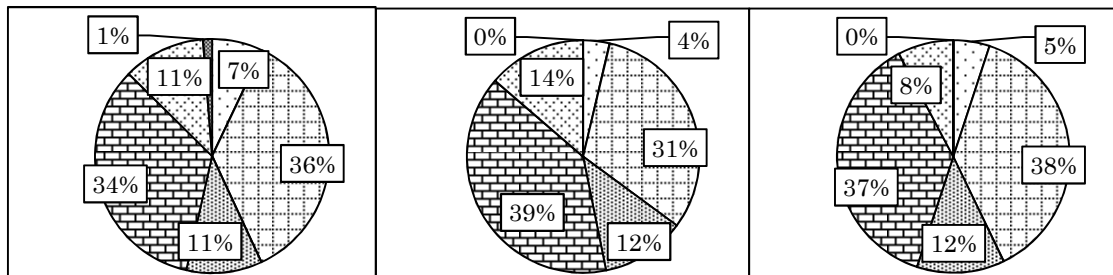
② お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかご存知ですか。



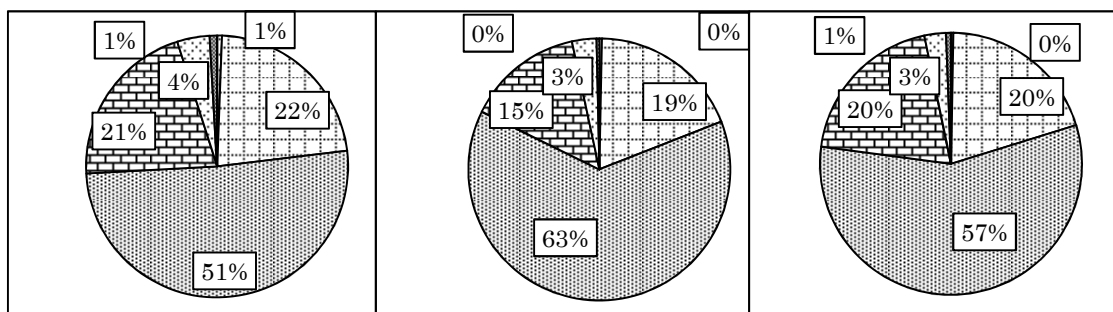
③ 学校での英語の学習について、お子様とご家庭で話をすることがありますか。



④ お子様は学校で習った英単語や語句をご家庭で用いることがありますか。



⑤ お子様の学校で行われている英語教育について満足していますか。



設問 2)学校に対してどのような英語の授業を望まれますか？特に望まれるものから順に3つお選びください。

- ①英語が好きになる授業
- ②入試に役立つ授業
- ③高校やそれ以降の英語学習に役立つ授業
- ④言語や文化に対する理解が深まる授業
- ⑤積極的なコミュニケーション能力が身につく授業
- ⑥その他(具体的に)…自由記述

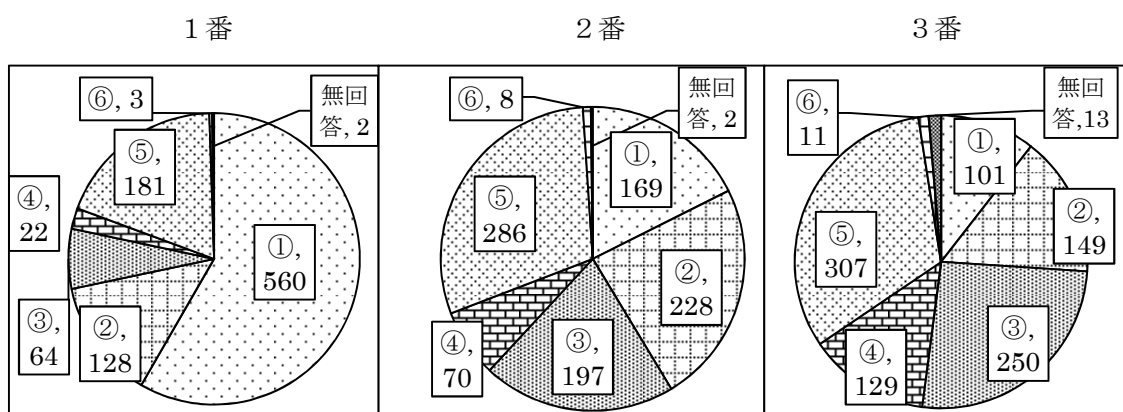
この設問は生徒にも同じ内容で尋ねており（本書 21 頁参照）、生徒のアンケート結果と同様に地域ごとの差異があまりなく、希望をたずねる内容であって体制的な話ではないので、ここでも全体の結果に3市すべてを代表させて考察することとする。

上記条件は共通しているものの生徒アンケートとは1番目の選択傾向がはっきりと異なるという、興味深い結果となっている。生徒アンケートでは①と②がほとんど拮抗する結果だったが、保護者の第一希望は①が圧倒的多数であって②は3番手に過ぎない。（グラフ 26）生徒にとって非常に切実な入試への対応だが、保護者は本人が受験する訳ではないので、優先順位が下がるのはやむを得ない反応なのだろう。

また、総じてコミュニケーション能力に重きが置かれており、1番で⑥を選択して記述しているものは2例をはじめ、単純に選択率が高いだけでなく記述内容も多くがコミュニケーション能力に係わるコメントである。（附表(5)）

2番と3番は生徒の結果と大きく傾向が食い違うことはないが、やはり1番と同様に「②入試に役立つ授業」の選択率が低く、かわりに「⑤コミュニケーション能力」が重視されている。生徒たちの結果でもしばしば会話力への言及が見られたが3番手に集中しており、1番や2番に見られた②にかこつけての英語が理解しやすい授業への希望という切実さは、保護者の方には非常に薄いという結果になった。

【グラフ 26 : ①設問 2 全体集計結果】



設問3)学校で、お子様にどのような英語力を身につけてほしいですか？特に望まれるものから順に、それぞれ3つお選びください。

a)分野について

- ①ライティング(書く力) ③リスニング(聞く力) ⑤コミュニケーション(会話)
②リーディング(読む力) ④スピーキング(話す力)

b)目的について

- ①中学校、高校の英語でいい成績をとる ⑤外国人と日常会話ができる
②入試で有利になる ⑥その他(外国の文献などを読み、
③将来、国際社会で活躍できる 文化や知識を得るなど)
④就職で有利(英語検定などで高得点をとる等)

設問2と同様に希望を聞く内容であり地域差が小さいため、全体の結果のみ取り上げることとする。

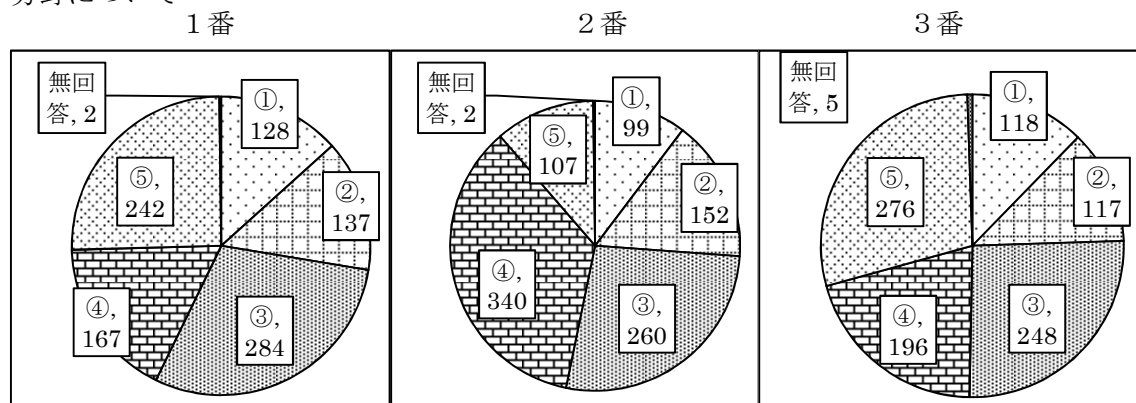
まず身につけてほしい分野について、順序による大きな差異がみられるのは「④スピーキング」と「⑤コミュニケーション」のどちらを選ぶかということ程度である。読み書きはあまり重要視されておらず、聞く・話す・会話という実際に英語で対面するときに必要な能力に重きがおかれている。しかしこれらの能力は近年徐々に重点化されているものの、入試などの試験で点数配分が多いという訳ではなく、目的の1番及び2番で高い選択率を示す「①いい成績をとる」「②入試で有利になる」と連動した項目とは言い難い。これらの能力と密接な関係を持つのは「③将来国際社会で活躍できる」や「⑤外国人と日常会話ができる」であるが、分野で選ばれた3項目の合計が常に7割を超えていることに対応するには不釣り合いに見える。

設問2においてとりわけ支持されたのが「英語が好きになる授業」と「コミュニケーション能力が身につく授業」であり、後者については細かなコメントも複数見られたことから、「コミュニケーション能力が身につく授業」であれば英語が楽しく、好きになる」という考え方があのだろうか。それに基づいて「これが出来るようになってほしい」と要望が生まれるものの、それが果たして何のためなのかとなれば「成績」や「就職に有利」といった即物的な方に志向が流れてしまうのかもしれない。

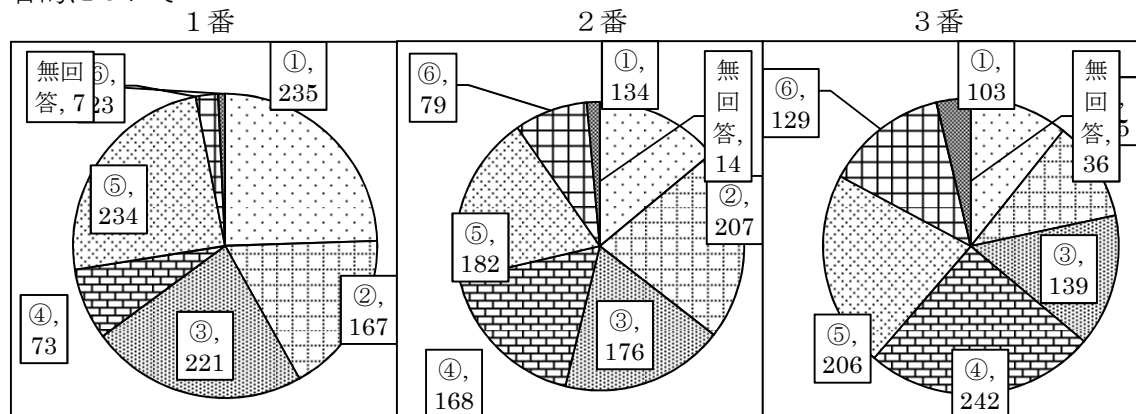
設問3のみで見るとアンバランスな結果に見えるが、特に目的に関しては次の学校外での英語学習に関する質問がいくつか参考になるので、更なる考察はそちらに譲ることとする。

【グラフ 27：1設問 3 全体集計結果】

分野について



目的について



(2) 学校外での英語教育について

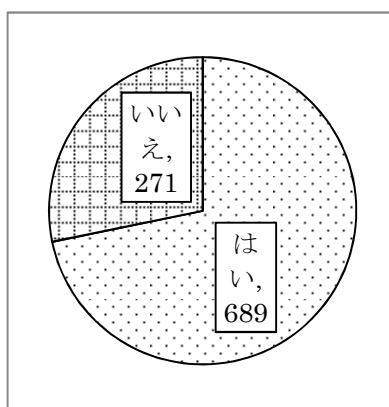
ここでは学校外での学習の有無を確認し、学校外での学習がある場合はその具体的な内容と学習目的をたずね、ない場合には学校外で学習する場合に希望する学習内容を調査している。最初の質問の時点で学校外の学習を行っている割合が7割を超えており、現実にはかなり少数派だと思われる、積極的に学校外の学習を行わない考え方については特に項目を設けていない。

設問)現在お子様は、学校外で英語や英会話の学習を行っていますか？

①はい

②いいえ

【グラフ 28：②設問 全体集計結果（グラフ）及び地域別集計結果（表）】



グラフ 28-表：地域別回答数

	洲本市	南あわじ市	淡路市
①はい	239	214	236
②いいえ	86	85	100
無回答	0	0	0
合計	325	299	336

(ア) 「①はい」 選択者の回答

設問)どのような教室や教材で英語の学習を行っていますか？（複数回答可）

①英会話教室

⑤インターネットで配信される教材

②学習塾

⑥家庭教師

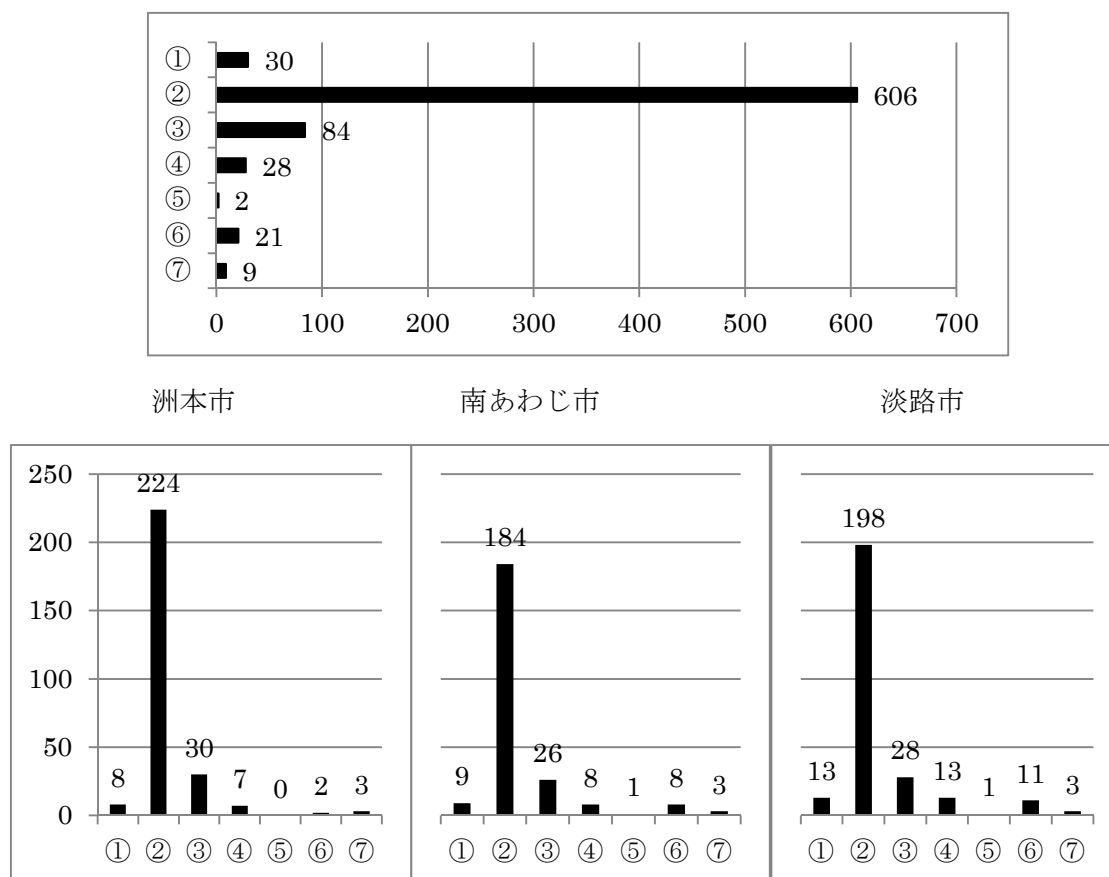
③通信教育の教材

⑦その他（自由記述）

④市販の教材

まず学校外でどのような取り組みをしているのか、オーソドックスな選択肢を提示して集計した。その結果、「②学習塾」が文字通り桁違いであり、学校外での英語教育を行っているとする保護者の総数 689 件のほとんど9割に達することになった。次いで存在感を示すのは「③通信教育の教材」で、残りの選択肢は1割に満たないものばかりという形である。（グラフ 28）

【グラフ 28：②設問 教材利用内容…全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



なお、「⑦その他」とした回答は、家族での取り組みについて記述している5例と、何か教材や外部組織を利用しているものが4例の計9例である。

「車で（ビートルズなど曲を流す）くりかえし聞くと何となく耳に入っていく」

「長期の休暇には、必ず海外に渡航させ、異なった文化圏の人たちとのコミュニケーション能力を磨かせています」

「家で教えている（復習程度）」「家族」

「NHK ラジオ講座」「ラジオ講座」

「E テレ（NHK 教育テレビ）」

「ラボ教育センター主催ラボ・パーティー会員」

「パソコンを使った教材」

車内 BGM などは意識していなければ単なる趣味ととられるが、何かしらの学習効果を期待して行っているという部分はやはり教育の一環である。学習塾の利用の有無はさておいても、各々に工夫をしている様子がうかがえる。

設問)それはどのような種類の学習ですか？（複数回答可）

ライティング

スピーキング

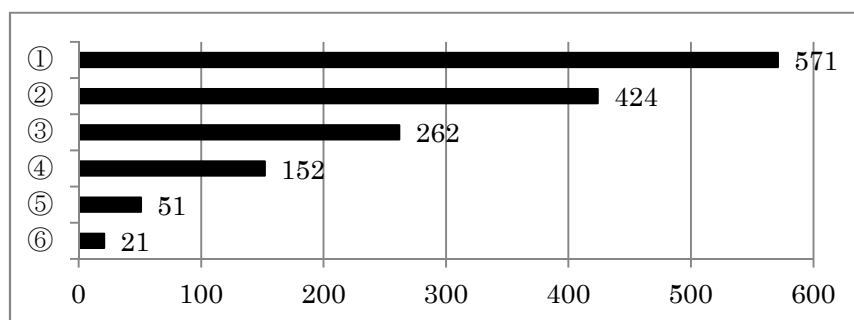
リーディング

コミュニケーション

リスニング

その他（自由記述）

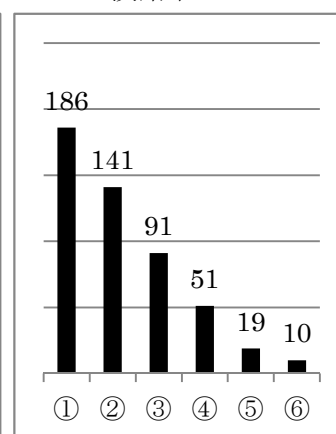
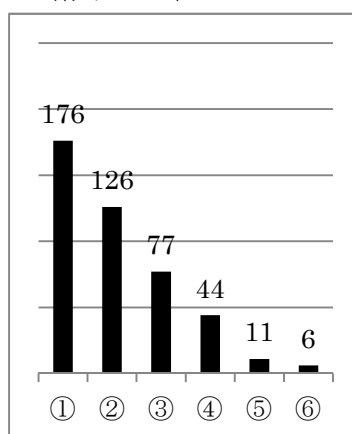
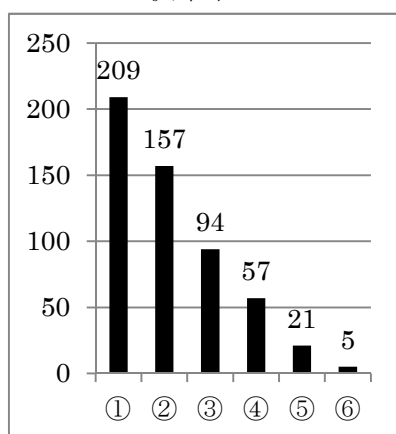
【グラフ 29：②設問 学習内容…全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



洲本市

南あわじ市

淡路市



具体的にどんな学習がなされているのかを、①の設問3と同じ選択肢を提示して集計した。すると身につけることを希望されていたコミュニケーション関連の能力3つは、そのまま下位選択肢3つとなった。あまり希望されていなかった読み書き能力の方が、実際の学校外活動では行われているという結果である。

すでによく行われている活動だからあえて「身につけてほしい能力」という視点で考えた時にかえって気付かなかっただけ、という話であれば問題ないが、もし本当に読み書きは二の次でとにかくコミュニケーション能力を身につけてほしいと考えているのであれば、現状は少なくとも保護者のニーズには合致していないことになる。一部にはそういう面もあるのだろうが、全てをそうとらえるには望まれない学習内容の割合があまりに高いので、多くの場合は前者であろう。次の設問が更に考察を加える良い参考になる。

なお、具体的な記述内容は学校授業に対するフォローがほとんどで（5件/8件）、残りは「わからない」2件、「ワーク」1件となった。（附表(5)）

設問)お子様に学校外で英語の学習をさせている理由は何ですか？

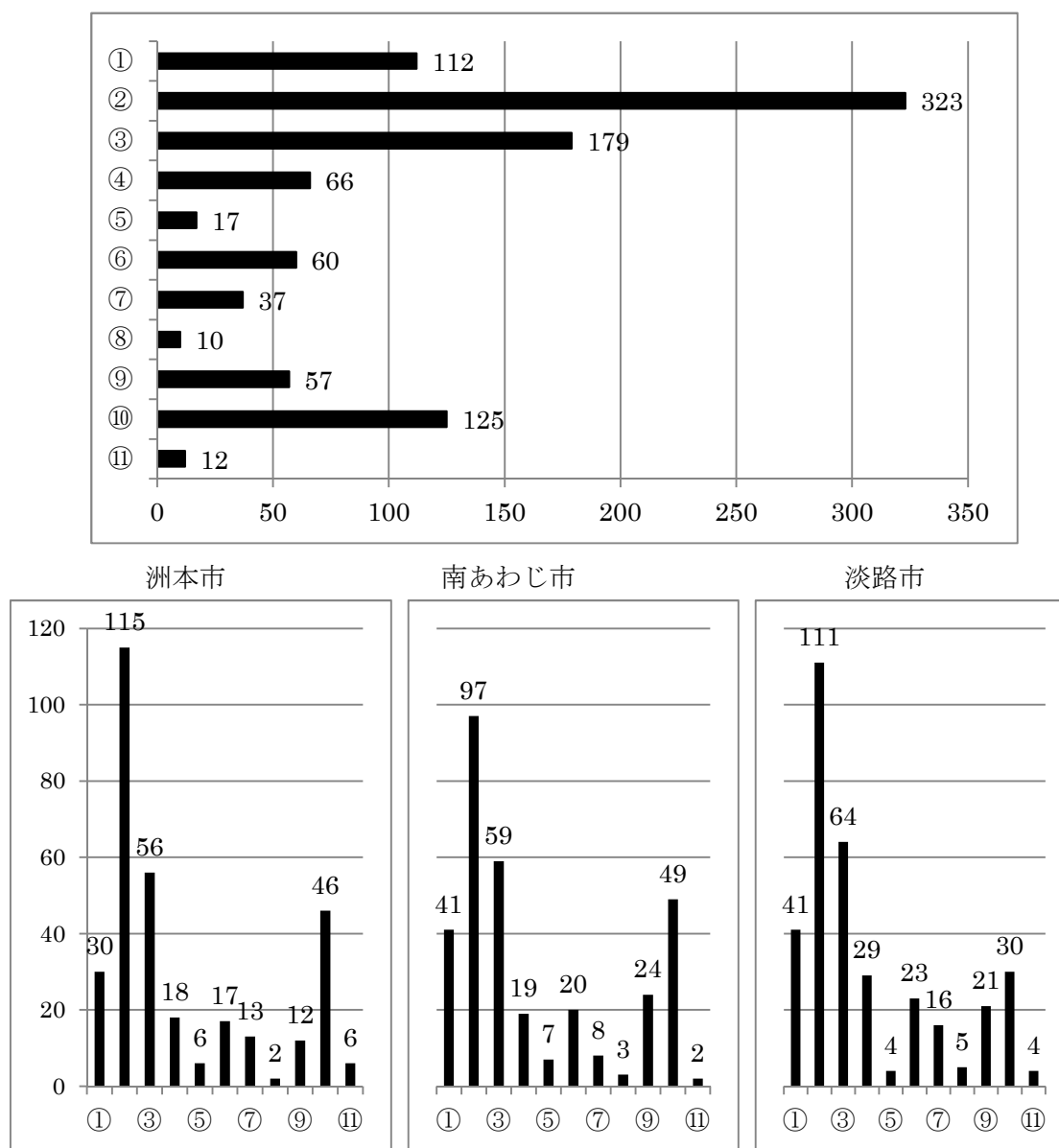
- ①英語を好きになってほしいから
- ②中学校での英語学習に役立つから
- ③高校受験に役立つから
- ④英語を話せるようになってほしいから
- ⑤外国に対する興味を持ってほしいから
- ⑥将来の仕事に役立つ英語力を身につけてほしいから
- ⑦子ども自身がやりたがっているから
- ⑧周りの友達がやっているから
- ⑨自分が英語で苦労したから
- ⑩学校だけでは不安だから
- ⑪その他（自由記述）

この設問には、複数回答可という補足がついていなかった。そのため、1つだけを選んだと思われる回答が多くみられたものの、同様に複数の選択肢を選んだ回答もままあったため、他の複数回答可の設問と同じように棒グラフにより可視化した。(グラフ 30)

もっとも突出した選択肢は「②中学校での英語学習に役立つから」である。自由記述でもこれに類する7件の記述があり、大きくは、授業についていけなくなったから補習として学校外学習を取り入れているものと、ついていけなくなることを恐れてフォローをしているものに分かれる。(附表(6))

これに続くのが「③高校受験に役立つから」「⑩学校だけでは不安だから」「①英語を好きになってほしいから」となり、一応「①」が上位に入ってはくるものの、現実問題として学校の授業とのかかわりや、高校受験の影響が大きく関与していることが明らかである。保護者の方でこれだけの影響があるのだから、直接的に試験の点数や受験勉強の必要性に追われている生徒側で成績に係わる希望が多いのはごく当然のことと言える。

【グラフ 30 : ②設問 学習動機…全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



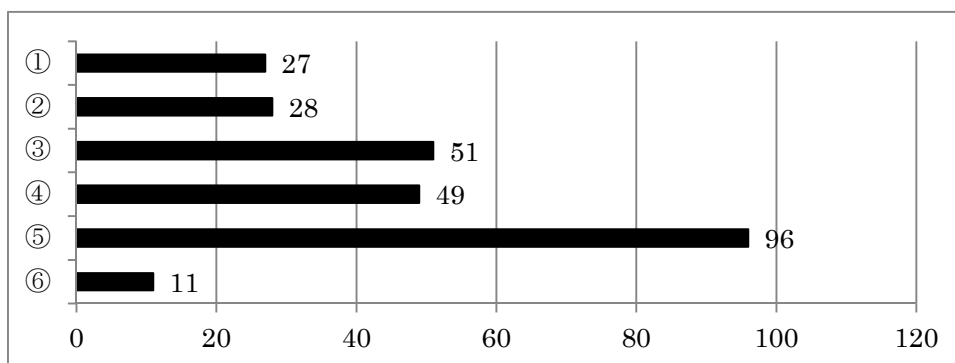
(イ) 「②いいえ」 選択者の回答

設問)お子様に学校外でどのような種類の英語学習をさせたいですか？

- | | |
|---------|------------|
| ①ライティング | ④スピーキング |
| ②リーディング | ⑤コミュニケーション |
| ③リスニング | ⑥その他（自由記述） |

学校外での英語教育をとくにしていないと回答したのは総勢で 300 名足らずであり、ごく少数のグループから得られた回答になるので、これをさらに地域別にはせず、全体の傾向のみを考察する。

【グラフ 31：②設問 ②回答者】



実際に学校外で学習活動に取り組んでいるグループで、一番の動機が「中学校での学習に役立つ」であったことに対して実に対照的な結果である。③リスニング、④スピーキング、⑤コミュニケーションというのは、①の設問で学校に臨む英語の授業、子どもが身につけることが望ましい能力として上げられてきた要素そのものである。

実際に学校外で活動をしているのは現実の成績等に追われて、期待していることとズレが生じている一方で、学校以外での活動をしていないグループは成績に追い立てられていないということかもしれない。

記述内容は4例しかないが、うち3例がそもそも学校外での学習活動に意欲的でなく、「特に望まない」「特になし」「学校外でさせるつもりはない」と連なることは非常に象徴的である。唯一具体的な学習内容に言及しているコメントは「ネイティブな英語での会話」であり、コミュニケーション能力を夢見る状態を端的に表す結果となった。

() 英語学習について

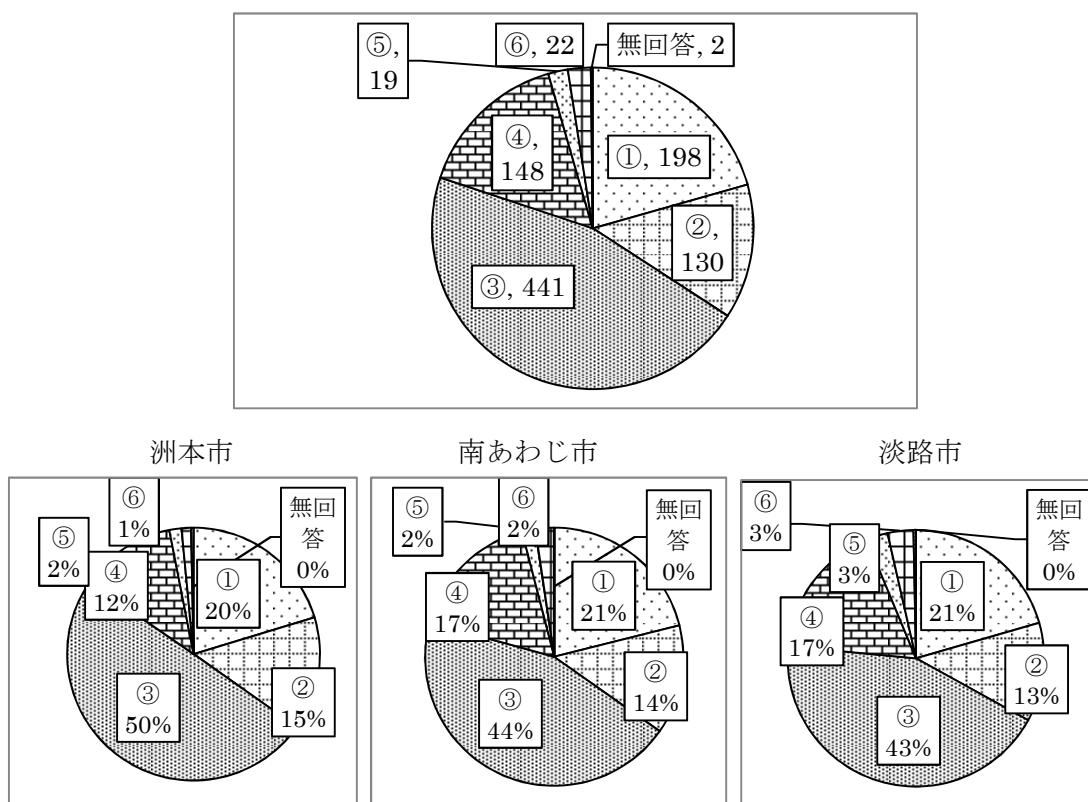
英語学習のいきつく先として、会話が成立するというのとは一つの重要なポイントである。まずどの程度話せるようになりたいのか、子どもに期待するレベルを尋ね、それを達成するためにどういった訓練が必要だと思いかイメージを促す。また、具体的な物差しとして学校の成績ではなく、資格試験を提示してそれに対する意欲関心を見てみることにする。

設問 1) 将来、お子様に英語がどの程度話せるようになってもらいたいですか？ 以下のうち最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 英語で仕事ができるくらいの英語力 ④ 海外旅行で困らないくらいの英語力
② 英語で良い成績がとれるくらいの英語力 ⑤ 話せなくても構わない
③ 日常会話で困らないくらいの英語力 ⑥ その他（自由記述）

この設問は生徒用のアンケート 3 設問 3 に対応するものである。選択肢は若干表現が異なるだけで全く同じ内容となっている（本書 33 頁参照）。生徒たちの回答では選択肢①から④がほぼ均等に選択される結果となっていたが、保護者の結果は各項目の選択率の大小がはっきり見て取れる形となった。（グラフ 32）

【グラフ 32 : 3 設問 1 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



最も多いのは「③日常生活で困らないくらいの英語力」で、それに次ぐのは「①仕事ができるくらいの英語力」である。この順序は地域別に見ても変わらず、一般的な傾向とみなして良いだろう。ある程度の意思疎通を図れるレベルというのが第一に求められ、できれば仕事に使えるレベルにまで能力を引き上げてほしいという親の期待と言える。

3番目には「②良い成績がとれるくらいの英語力」と「④海外旅行で困らないくらいの英語力」が拮抗している。「③日常会話」を挟むものだが、これの前提として、日常会話が可能であることと、学校の試験で点が取れる正しい英語が使えることが等価でないことを確認しておくべきである。日常会話ができるだけよりは一步踏み込んで欲しいと考えたと②になり、日本に暮らす限りでは日本語があれば事足りるのも現状なので、外に出かけた時に処置に困らなければ良いと消極的になるのが④だと言える。

現在学習途中の生徒ではこの選択肢の順序が伝わり切っておらず、まちまちな回答数という結果になっていたが、保護者の方はある程度の順序付けをしたうえで、最も期待される「③日常会話」を基準に判断をしていると考えられる。

なお、「⑤話せなくても構わない」とする回答者は少なかったが、⑥の自由記述では「子供が考えること」「本人次第」「特になし」と、期待を少なくとも表ざたにしない意見が4件中3件であった。残る1件は「外国人に対する度胸がもてる程の英語力」と、コミュニケーション能力の根幹に期待する意見である。

設問2)英語が話せるようになるには、どうしたらよいと思いますか？以下のうち最もあてはまるものを1つ選んでください。

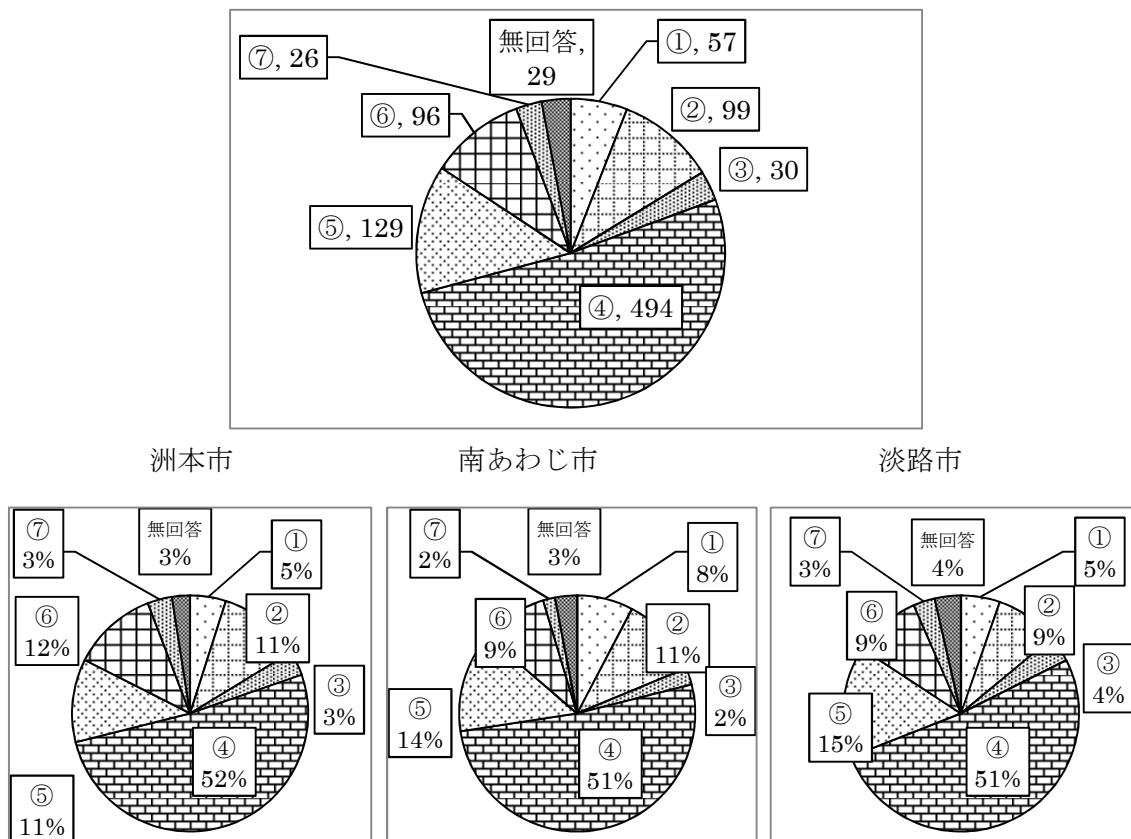
- | | |
|------------------|-------------------|
| ①単語をたくさん言えるようにする | ⑤間違っても気にせず英語で話をする |
| ②日常使う表現をたくさん覚える | ⑥外国へ留学する |
| ③文法を勉強する | ⑦わからない |
| ④英語で話をする機会を多くもつ | |

設問1の結果から、「英語が話せるようになる」と言って期待されるのは日常会話で困らないレベルのものであるとみなしておく。

この設問の選択肢はいささか問題があり、「話せるようになるには」という問いに対して「④話をする機会を多くもつ」という明快な答えが選択肢に含まれてしまっている。結果として④が圧倒的的支持を集めるのは当然のことであり、その中で何を重要視して練習していくのか、他の項目の選択率をもとに解釈していくこととする。

④以外で選択率が高いのは「⑤間違っても気にせず英語で話をする」と「⑥外国へ留学する」である。⑥は④を実現するための具体的手段の一つなので④とほぼ同義だとみなすと、必要だと思われる最大の要素は⑤に代表される度胸だと言える。そして「①単語を言えるようにする」や「③文法を勉強する」といった細切れの対策ではなく「②日常使う表現をたくさん覚える」ことが重視されていることも確実であろう。

【グラフ 32：③設問 1 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



設問 3)お子様に英語の検定資格を取得させることに関心がありますか？(複数回答可)

- ①英語検定を取得させたい
- ②TOEIC（英語によるコミュニケーション能力検定）を取得させたい
- ③TOEFL（英語圏の大学への留学・研究希望者の英語能力検定）を取得させたい
- ④その他資格（自由記述）
- ⑤関心がない

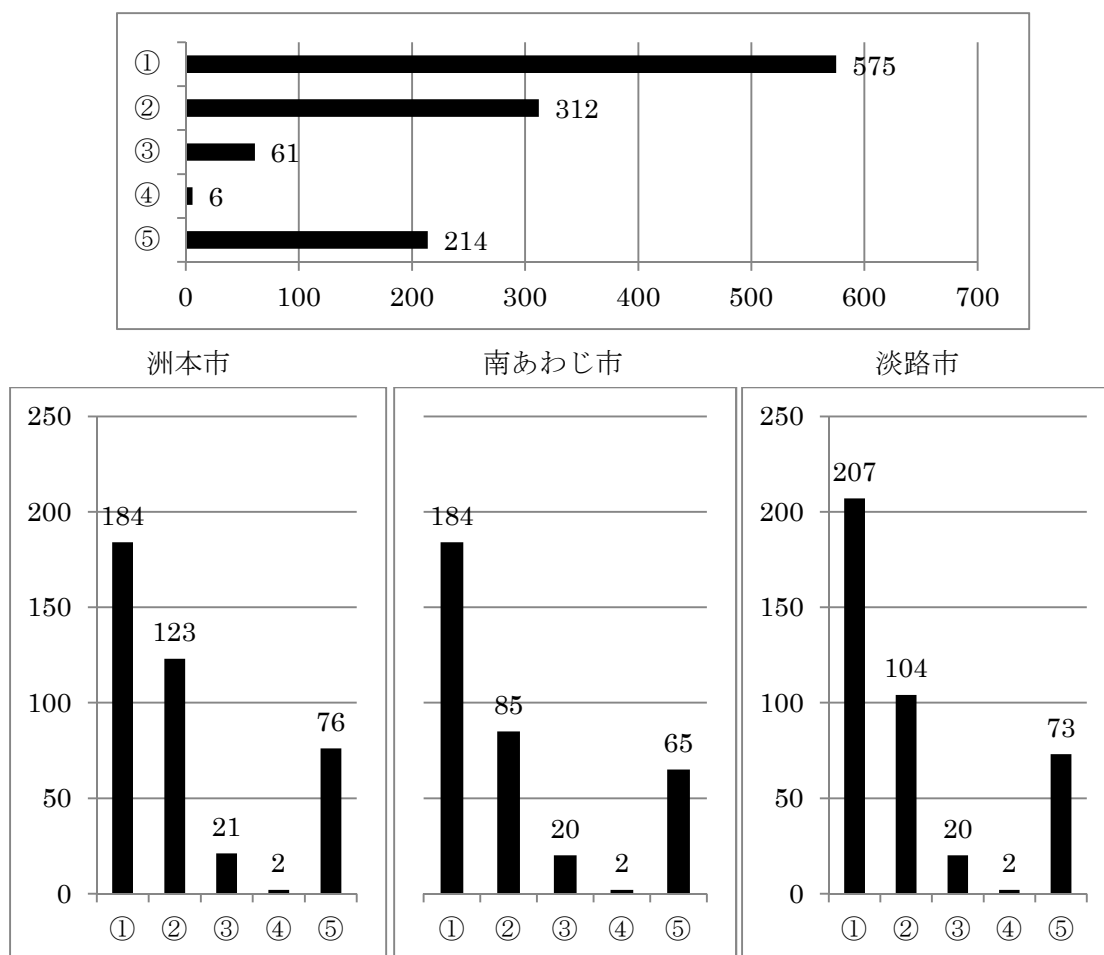
最後の設問は総合評価の難しい言語能力に対して、様々な資格検定が存在しているのでその活用への意欲を問うものである。保護者の回答数 960 件から「⑤関心がない」を選んだ 214 件を除いたうち、実に 8 割の回答者が「①英語検定」を選択している。「②TOEIC」がそのおよそ 6 割で、「③TOEFL」はさらにその 1/5 である。設問 2 で留学するのが良いと回答した数が 100 件近くあるので、実際の留学となったときに有用性の高い TOEFL はもう少し人気があってもよさそうだが、そのあたりの違いを明確に認識はしていないように見受けられる。

ある回答者ははっきりと「それぞれの違いがわからないので選べません」と記している。

また、「本人次第」「しかし本人の希望次第」というように、子どもへの期待という問いかけの方法に対して子どもの意思を優先させる姿勢を示す回答もあった。具体的にこれ以外の資格の名前を出してきた回答者は1件だけで、「BATIC」の名前を上げている。

この[3]の設問を通して、コミュニケーション能力は見に付けてほしいけれども、「日常生活で困らないくらいのレベル」があれば良く、そのためには日常表現を覚えたり留学したりすることで英語で話をする機会を多く持つようにするのが効果的であるとする思考回路が垣間見える結果となった。また、英語の資格検定については比較的よく知られている英語検定やTOEICにはある程度の関心が寄せられているものの、それ以外の資格検定に対しては冷淡な扱いで、そもそも資格検定に「⑤関心がない」とする回答者も多く見られた。あまたの資格検定が世の中には溢れているが、個々の差異にはあまり関心がはらわれていない様子である。

【グラフ 33： [3]設問 3 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



(4) 英語の体験的学習の必要性について

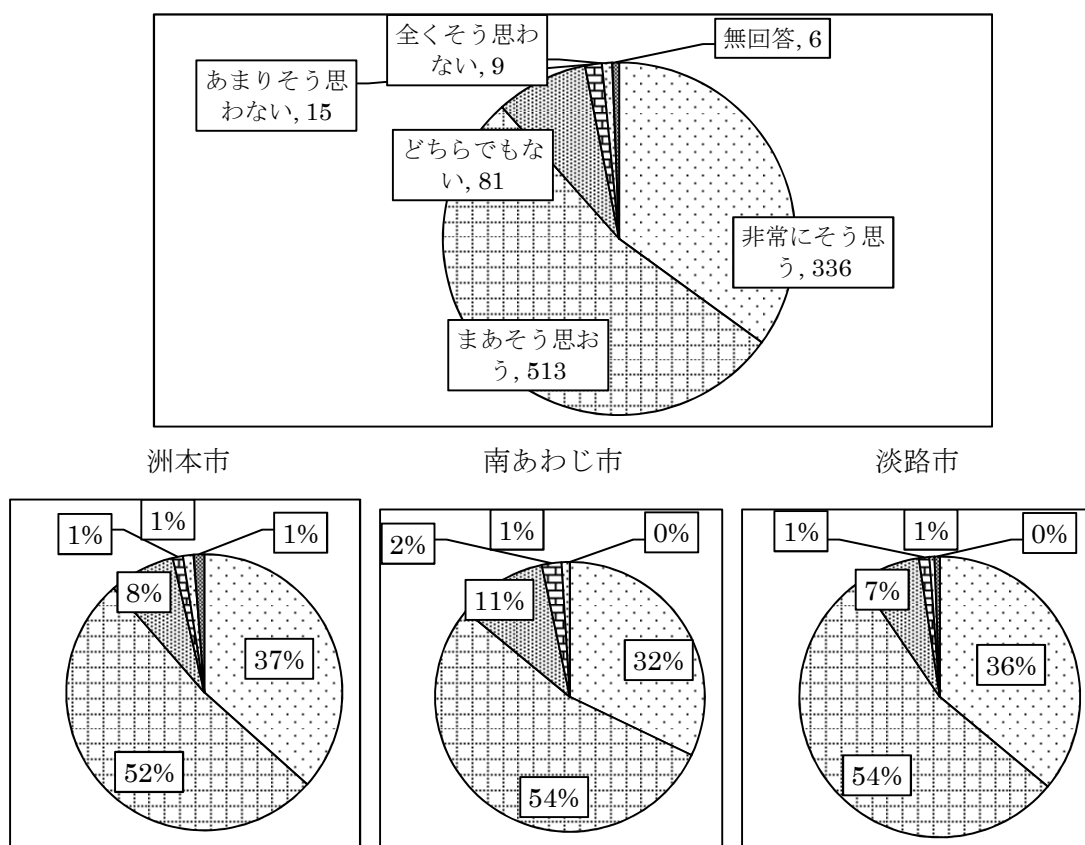
ここでは学校で学んだ英語を用いて実際に交流する機会について尋ねる。

設問 1) 学んだ英語を用いて実際に交流する機会を持つことは必要だと思いますか
 非常にそう思う・まあそう思う・どちらでもない
 ・あまりそう思わない・全くそう思わない

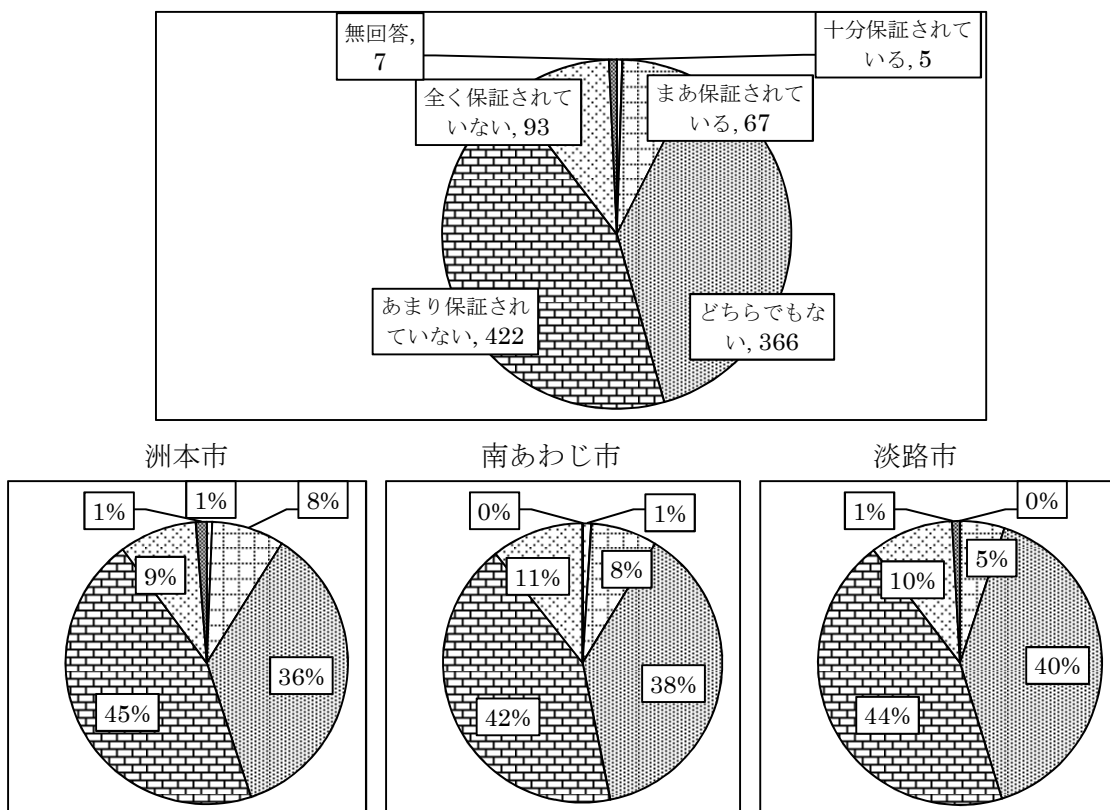
設問 2) 現在、学校においてそのような機械は十分に保証されていると思われますか
 十分保証されている・まあ保証されている・どちらでもない
 ・あまり保証されていない・全く保証されていない

まず設問 1 では英語による交流の必要性に対する意識を問う。ほぼ 9 割の回答者が「非常にそう思う」「まあそう思う」と答えており、この傾向に対して大きな地域差は見当たらない。3 割以上の回答者が「非常にそう思う」と答えていることから、単なるイメージよりは切実に、必要性を感じているとみなしても良いだろう。(グラフ 34)

【グラフ 34 : 4 設問 1 全体集計結果 (上段) 及び地域別集計結果 (下段)】



【グラフ 35 : 4 設問 2 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



次の設問 2 では学校教育の場において、実際に交流をする機会が十分に設けられていると思うかどうかを問うた。結果は、ある程度保証されていると思う保護者は 1 割にも満たず、半分以上の保護者が保証されていないと思う、と回答することとなった。（グラフ 35）

しかし、実際に学校でのようすをそれなりに知っていると回答した保護者は 3 割程度であったことや、たとえば南あわじ市では英語教育について話をする機会が他地域に比べてはっきりと低かったにも関わらずここでの回答結果がほぼ同じであることを鑑みると、かなりの部分を保護者の持ついささか一方的なイメージによって回答がなされていると留意しておくべきであろう。

とはいえ保護者の多くが「学校だけでは交流の機会が十分でない」と感じていることは疑いようがなく、学校の内外で何かしら改善の余地があることは確実である。

(5) 英語村について

最後に生徒へのアンケートと同様、英語村構想について、構想に対する興味・実現した場合に体験してみたい内容・体験する場合の滞在期間の3項目について意識調査を行った。

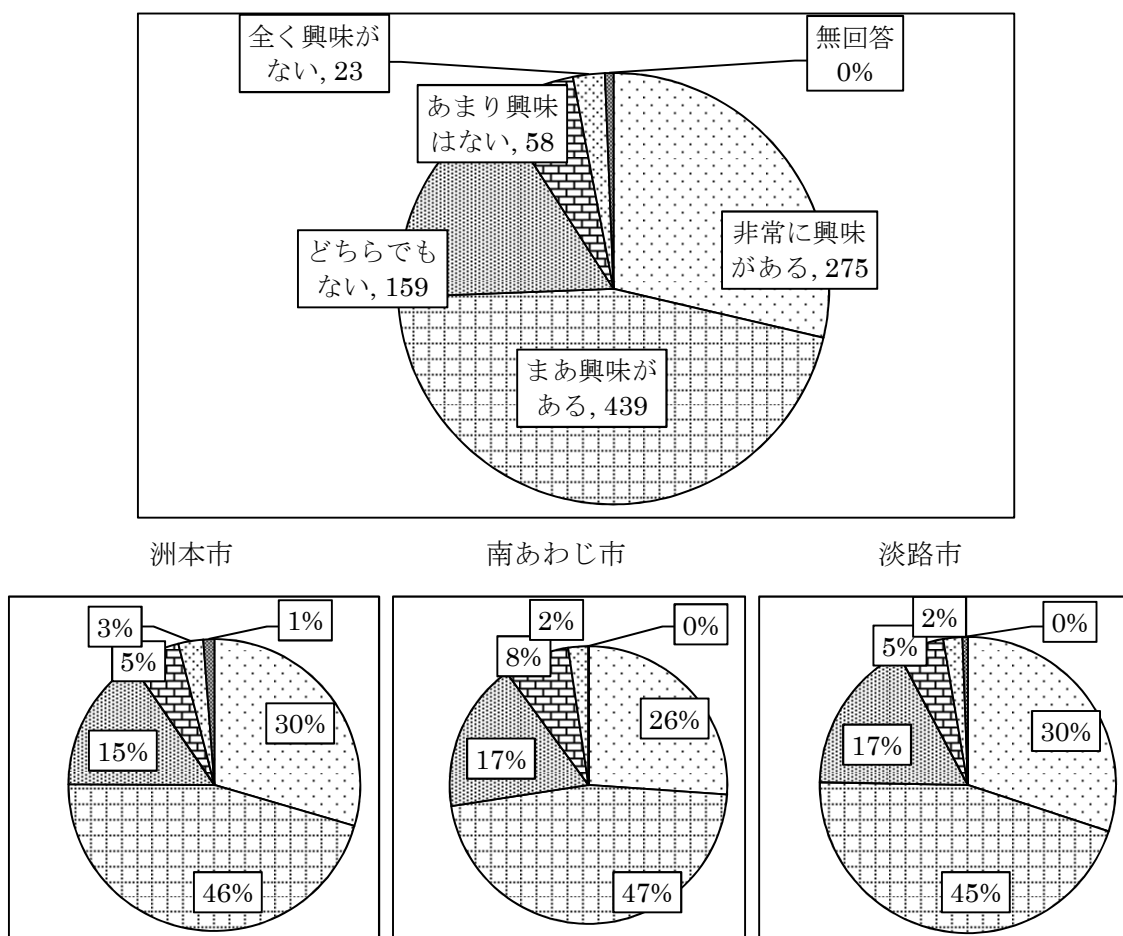
設問1)この考えについてどう思いますか？

選択肢：非常に興味がある・まあ興味がある・どちらでもない

あまり興味はない・まったく興味がない

生徒アンケートでは4割強しか積極的回答が選ばれなかったが、保護者の方では全体の7割以上が「興味がある」と回答する結果となった。反対に生徒では2割の回答者が「全く興味がない」を選択していたが、保護者の方では「あまり興味はない」と合わせても1割に満たない。存在意義に懐疑的なコメントもいくつか見られるが、良きにせよ悪きにせよ多くの保護者が関心を持っている様子が読み取れる。

【グラフ 36： ⑤設問1 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



設問 2)英語村ではどんなことを体験したいですか？（複数回答可）

- | | |
|-------------|--------------------|
| ①ゲーム | ⑤外国人と日本のことについて話をする |
| ②買い物 | ⑥料理 |
| ③外国人と遊ぶ | ⑦キャンプ |
| ④外国人と音楽を楽しむ | ⑧その他（自由記述） |

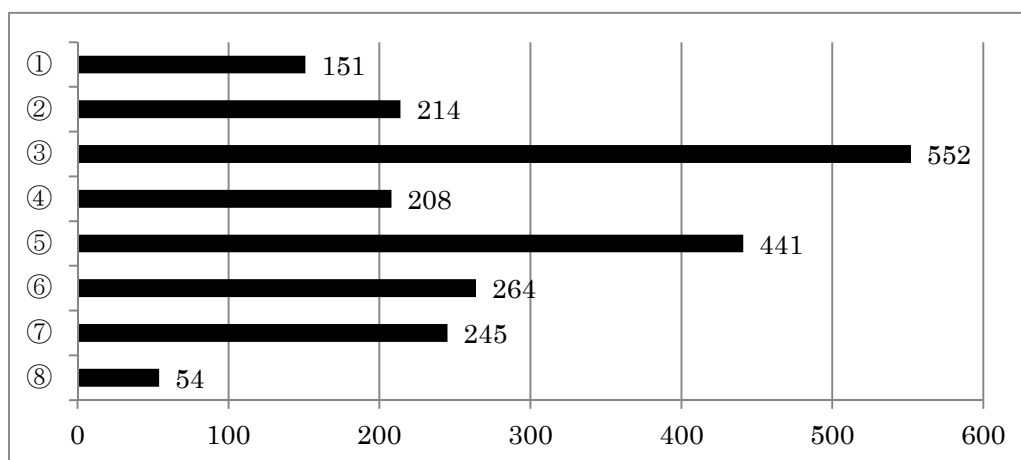
ここで取り上げた選択肢は、生徒に提示したものと全く同じである。生徒の方で圧倒的人気だった「①ゲーム」は、おそらくあまり教育色の感じられない単語であるために鳴りをひそめてしまったものの、類型である「③外国人と遊ぶ」が一番の支持を集めており、遊び要素が重視されているのは保護者の側でも同じようである。

また、次に選択率の高い「⑤外国人と日本のことについて話をする」は英語村の存在意義を考えられる保護者であればこそその結果だろう。これに続く 200 以上の支持を集めた選択肢②、④、⑥、⑦のうち、「②買い物」「⑥料理」「⑦キャンプ」は生徒アンケートでも支持の多かったものである。具体的な活動内容を想像しやすい選択肢を選びやすいのは親子共通の傾向といえよう。「④外国人と音楽を楽しむ」を選べるのは、「音楽を楽しむ」と言われたときに音源をただ聞くだけではない音楽の楽しみ方を、大人の方がよりイメージを持っているからだと思われる。

生徒は直接活動をイメージしやすい選択肢に流れる傾向があり、保護者でも 3 番手以降にその傾向がみられるものの、突出している 2 項目の内容から考えるに、教育的配慮をもって「遊ぶ」とことと、文化の違いをじっくりと感じることを重視しているように思われる。実際の記述内容を見ても、文化の違いや討論の場に言及しているものはかなりの割合に上る。（附表(7)）

全く同じ選択肢の設問で、保護者の回答数で最多の③が 552 件、生徒の回答数で最多の①が 594 件と、回答者母数の差の割に実数に開きがないことは興味深い結果である。生徒の方では活動自体にあまり積極でない割合が高く、保護者の方では低かったことが原因であることは疑いない。

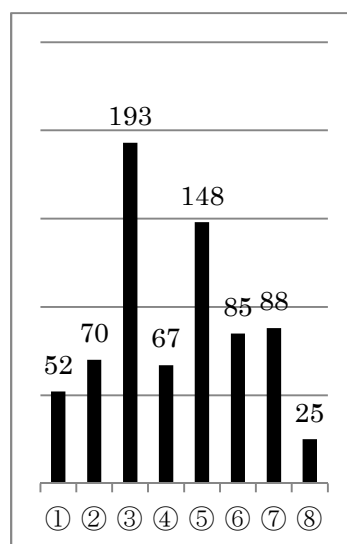
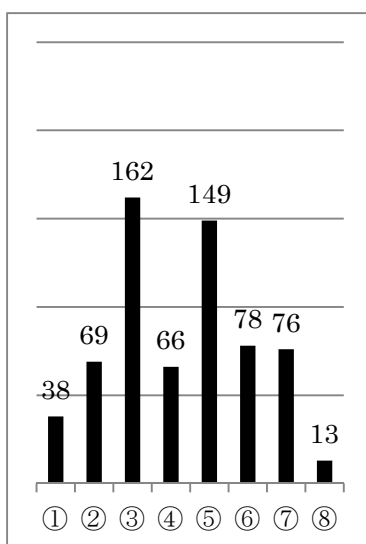
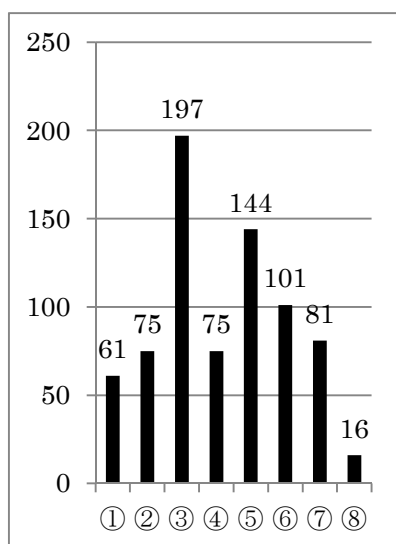
【グラフ 37 : ⑤設問 2 全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



洲本市

南あわじ市

淡路市



設問3)滞在期間の日数はどのくらいが適当だと思いますか？次の①～⑧の中から1つお選びください。

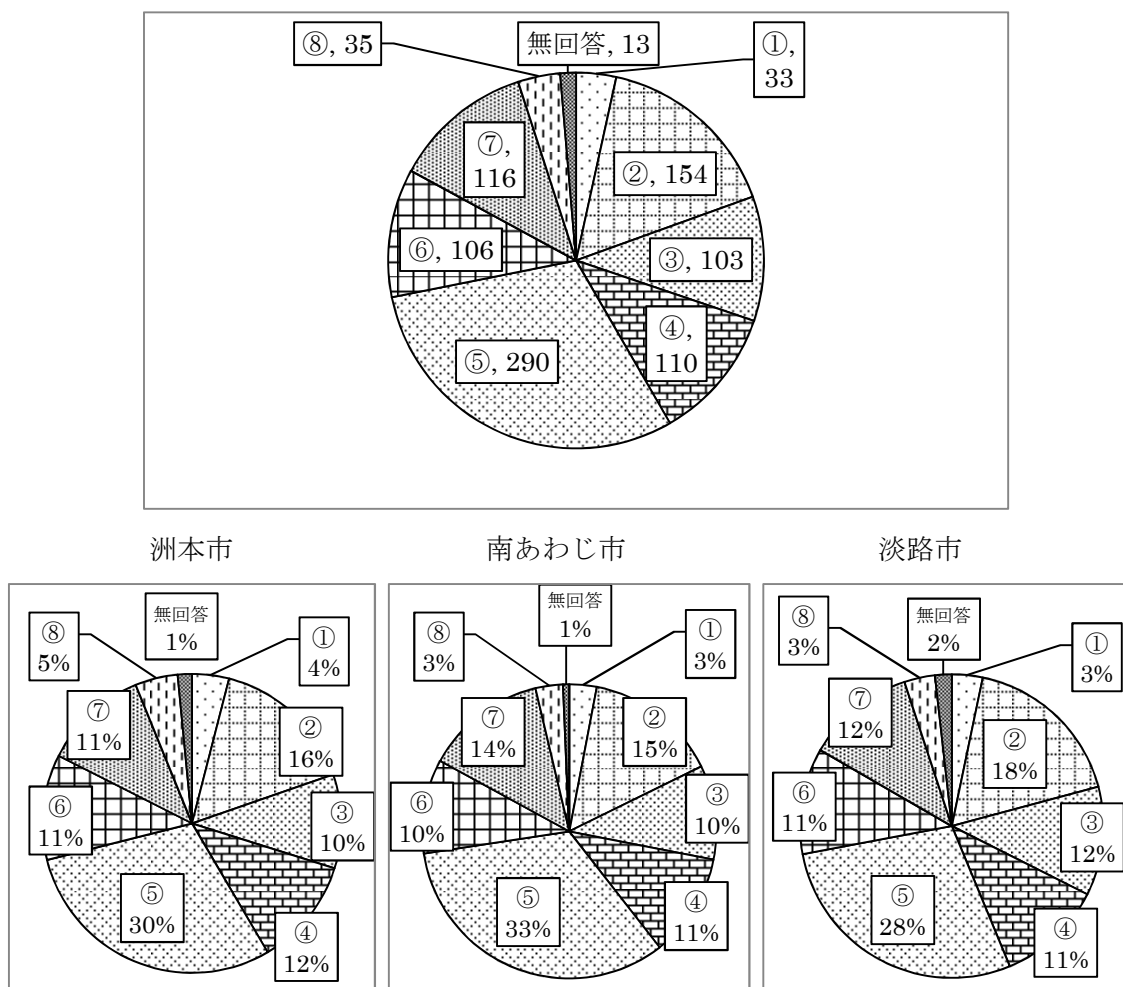
1泊2日	3泊4日	1週間位	1ヶ月位
2泊3日	4泊5日	2週間位	その他（自由記述）

最後の設問も、生徒に提示したものと全く同じである。

生徒アンケートでは週末にちょっと訪れられる程度の「①1泊2日」「②2泊3日」の選択率が高く、それだけで半数近くの支持となったが、保護者の方は①②合わせて2割程度であり、活用イメージが全く異なることが分かる。

また、記述内容も生徒の方は「半日」等短い滞在を希望する記入が目立ったが、保護者の方では「③を何回も」や「2ヶ月以上」等、長期的な利用を想像している内容が多かった。（附表(8)）これも、一回訪れたらおしまい、というイメージの生徒回答とは一線を画している部分である。

【グラフ38：⑤設問3全体集計結果（上段）及び地域別集計結果（下段）】



5. まとめ

本アンケート調査は2013年4月に淡路地区の新中学2年生及びその保護者を対象に行ったものである。洲本市・南あわじ市・淡路市の3市からまんべんなく回収し、実際に行われている英語教育への感想、英語能力の必要性や期待値、英語村に関する意見を求めた。

(1) 英語教育への感想

実際に英語教育を受けている生徒たちに、英語の好き嫌いや授業の内容、授業への希望をたずね、保護者には学校に期待するものと学校外で行っている英語学習についてたずねた。

生徒が授業科目に対して好き嫌いを持つのは当然のことだが、英語教育が早期から行われている南あわじ市では中学に上がる頃にはある程度好き嫌いが固まっており、良くも悪くもその感想が先走る傾向が見受けられた。ただし英語を好きになりたい、好きになってほしいというのは生徒と保護者に共通した希望であり、そのために楽しめるプログラムを期待する様子であった。

また、保護者についても中学校での英語教育をどれくらい話題にするかという面でやはり南あわじ市が特異性を示し、英語活動に馴染んでいるので改めて話題にされにくく、したがって中学校での授業内容の把握も他2市に比べると低くなる傾向があった。ただし、母数として親子間で学校の英語授業に関する話題があるのは「どちらともいえない」という選択肢を含めて半分程度であり、全体的に関心はあるけれども積極的に問いかけている訳でない様子がうかがえた。

地域差よりも大きな差がうかがえたのは、塾をはじめとする学校外での教育活動の有無である。実際に学校外の活動に取り組んでいる保護者は「授業についていけない」等の即自的な問題を感じている場合が多く、そうでない保護者は「英語を好きになってコミュニケーション能力を身につけてほしい」という理想を持ち続けていて、両者の間で英語教育に期待するものが実質異なっているという結果になった。

生徒と保護者に共通して見られたのは、実際に行われていることに関しては地域差や条件差が見られて実態に即した意見となっているものが、将来のことや子供への期待値といった明確な基準がない内容に関しては非常に均質な回答が得られたことである。生徒は日々の授業に追われる中で英語の必要性を感じるものの、こういった場面で必要になるのかという具体的イメージに乏しく、保護者は実生活で日常会話が何とかなれば良いと感じつつも学校の成績というところに直面してやはり成績向上のための試行錯誤をしている状態であった。

(2) 英語能力の必要性や期待値について

英語の必要性や将来性、子どもに求める英語能力といった、直接的に現在関わっている英語教育にリンクしない項目については大きな地域差を要することなく共通の傾向が見ら

れた。英語ができるに越したことはない、という認識は英語嫌いの生徒でも持っていることが多く、保護者も日常会話で困らないくらいの英語力は身につけてほしいと願っていることが分かった。生徒基準では「聞かれたときに答えられる程度」、保護者基準では「日常会話で困らない程度」というのが求める標準レベルのようである。

（３）英語村について

生徒アンケート及び保護者アンケートの双方に、海外へのホームステイに代わるものとしての英語村構想を紹介して意見を求めた。保護者の関心は非常に高く、生徒の関心は好き嫌いに大体連動しているようである。

実際の活動については楽しく遊べることが重視されつつも、生徒は学校の勉強らしからぬ楽しさを求め、保護者の方は教育的視点を抜け出していないという違いが見られた。滞在期間についても同様の傾向があり、一回行ったら楽しく遊んで帰るという生徒に対して中長期的に利用して外国の文化や自国の文化の理解に役立てたいという保護者という構図になっている。生徒に的を絞るのであればホームステイの代わりよりもテーマパーク的な面白さを打ち立てる方がよく、保護者に的を絞るのであればきっちりと教育プログラムを提示していく方が需要に合致することになる。

本調査は英語村構想を軸に、英語教育に対する感想や希望、英語能力への期待値を調査したものである。理想として英語を好きになりたい・なってほしいという願いや、それでも現実に学校の成績に生徒保護者ともども追われているという事実を、イメージとして想像するのは容易だが実際に数字として確認できたことは大きい。また、英語が必要だというけれどもどれくらいのレベルのことを考えているのか、ある程度の傾向をくみ出せたことは非常に有意義な結果である。

そこで言われる英語の必要性に基づいて、英語村への関心の高さが裏付けられ、また求められる活動内容もある程度明確になったようである。保護者と生徒の捉え方の違いが非常に大きく、構想を進める上で重要な視座を得ることができた。

【謝辞】

本調査を進めるにあたって、淡路地域の 15 の中学校と 3 つの学習塾にご協力を頂きました。実際にご回答いただいた生徒・保護者の皆様はもちろん、このために様々なご尽力をいただいた先生方に心から御礼申し上げます。また 2,000 部超のアンケートの集計にあたっては神戸教育開発研究所の出口秀樹氏にご協力を頂き、報告書作成にあたっては関西教育考学の塚本明日香氏にご尽力頂きました。ここに感謝の意を表します。

6. 附表

(1)生徒用アンケート②5・①記述内容

洲本市

1	ALT の先生が考えた英語のゲーム
2	Hello って言う
3	あいさつ
4	朝にあったらあいさつをする「ハロー」
5	アメリカ、ニュージーランドの方。
6	アメリカ人
7	アメリカ人
8	アメリカ人と交流できた。
9	アメリカ人と訪ねあってポイントをもらう交流をした。
10	アメリカ人の方でとてもやさしい。
11	アメリカ人の先生が塾にいた。
12	アメリカの人。男の人
13	アメリカの人とちょっとした英会話をする。教えてもらう。
14	いろんな人
15	英会話
16	英会話（かんたんな）
17	英会話、スピーチ
18	英会話の先生（アメリカ人）
19	英会話の先生がアメリカ人だから
20	英語をくわしく教わる。
21	英語を使つてのゲーム、単語の発音、スピーチ
22	英単語の学習
23	外国から来た人
24	外国人
25	外国人
26	外国人
27	外国人
28	外国の人が家に泊まりにきてたときに交流した（ホームステイ）
29	学校に来ている先生と授業を受ける
30	学校の先生
31	観光客の方々とコミュニケーションをとった。
32	キリスト教の人
33	クリーニングにいた外国人
34	クリーニングの前で Hello などしゃべった。
35	ゲーム
36	ゲーム
37	ゲームとか…。
38	ゲームなど、ALT の人の話を聞いた

39	ゲームや質問の時など
40	ゲームをしたり話をしたりした
41	ケーリー
42	ジェフ、ジャッキー、リサ、ビンゴ、など
43	自転車に乗っている人
44	自転車に乗っている人や、歩いている人、塾
45	自転車に乗る人をあいさつ
46	修学旅行で外国人の観光客にインタビューした人と交流があった。
47	修学りょこうで奈良に行ったとき。
48	しゅうがくりょこうのときに英語で外人とはなした
49	授業
50	塾で話した事がある。
51	塾の先生
52	塾の先生
53	小学校と小学校の交流
54	少し、お話（部活動の話）をしました。（ほんの1～2分ぐらい）
55	少しだけゲームをするとき
56	すれちがった人
57	その小学校の元教頭先生が外国の学校に行ったので、その生徒と英語で話した。
58	単語や文を読んだ
59	通学中でのあいさつなど
60	通学路であうおばさん・マンションのモニター室のおじさん・公園によくいる外人の子
61	特に
62	友達
63	友達のお母さん（ハーフ）
64	何が好きか？
65	習いごとの先生
66	日系アメリカ人
67	日系アメリカ人の方
68	ニュージーランドの男性の方、キリスト教の方
69	はい
70	発音練習など。
71	話を聞く
72	はなしをした
73	話しをする
74	話す
75	見知らぬ人と会話をした。
76	昔の外国人の先生（保育所）
77	わからない
78	わからない。
79	分からん
80	私の行っている塾に来ていました。今はいません。

南あわじ市

1	1 般の外国人
2	あいさつ
3	あいさつしただけ
4	遊んだり、ゲームをしたり、いろんなことをした。
5	アメリカ人で、あわじにすんでいておもしろい方
6	アメリカ人の先生
7	アメリカ人やオーストラリア人、フランス人
8	イギリス、アメリカ
9	いっしょにゲームをしたりした
10	いとこのだんなさんが外国人なので
11	いろいろ
12	いろんな国の高校生
13	英会話
14	英会話
15	英語科の先生との会話テスト
16	英語をおしえてもらった
17	オーストラリア人
18	お母さんの妹の妹
19	同じピアノ教室に通っている、女の人と。
20	外国から教えにきてくれた先生。
21	外国人
22	外国の方と会話する
23	会話 リスニング
24	学校の英語の先生、お母さん、塾の先生
25	清水寺にいた外国人
26	ゲームで…
27	ゲームなど…
28	ゲームのとき
29	ゲームや、単語の発音などをした。
30	個人的にそんなかんじのじゅくに行っていました。
31	最近まで日本にいた人。
32	質問されて答えたり、少し、話したりします。
33	質問をしたり、あさのあいさつ等

34	写真をとってもらった。
35	しゃべりやすい先生
36	シャリカ先生
37	修学旅行
38	しゅうがくりょこう！
39	修学旅行で外国人のひとと話した。
40	修学旅行でしゃべった
41	修学旅行のきよみずでら
42	修学旅行の時に外国の方に質問をしたりしました。
43	修学旅行の時に外国の方にはなしかけました。
44	授業を教える
45	女性でとてもやさしい方です
46	スイス人
47	父のいとこやその家族・親せき
48	ちょっとしたかいわ
49	父さんが外だから、父さんと交流しています。
50	ない
51	ビル
52	ビルっていう人
53	道とか迷ってたときとか、遊びで。
54	モンゴル、タイ、ウズベキスタン、かんこく、台湾、イギリスなど。
55	優しい人で、女の先生 名前はすれたけど…。
56	やさしくて、よく質問する人。
57	わからない
58	わからないところをきいた。
59	分かりません。

淡路市

1	ALT から話かけてくれたりする。
2	ALT の先生と英会話をしたりする。
3	あいさつなど。ゲームをしたりする。
4	あいさつをした
5	あいさつをした
6	アメリカ生まれの人で、楽しく、もり上げてくださる人。
7	アメリカから来た人

8	アメリカから来た人。
9	アメリカ出身で日本語が上手に話せる方
10	アメリカ人
11	アメリカ人の人
12	アメリカに住んでいた男の人
13	いろいろしゃべったりした。
14	英語でアルファベットを書いたり英単語を書いたりする。
15	おしゃべり 会話
16	おもしろい人
17	主に英会話
18	会議や授業内で教えてもらいました
19	外国語とか日本語をちょっとしゃべれたりする
20	外国人
21	外国人。
22	外国人の男性
23	外国の人と英語を発音する。
24	外国の人と道でたまにしゃべったりする
25	外人
26	会話をする
27	観光客等に場所を教えたり写真をとった。
28	観光客の人の道案内。
29	キックダニエルと交流した。（外国人）
30	ゲーム
31	ゲーム
32	姉妹都市の派けん団の方々
33	授業でのサポートなど
34	塾の先生の友だちで、たまに教えにきてくれる。
35	塾の先生の友だちでたまに教えにきてくれる。
36	シンガポールの人が来ました。
37	シンガポールの人との交流のとき。
38	シンガポールの人々
39	親せきの外国の人
40	スティーブン。
41	ダニエル先生
42	男性

43	とてもおもしろい方
44	夏に少しだけくる人。
45	ノーマン先生
46	初めて会う人で旅行にいる外国人に英語であいさつをしました。
47	話かけられる
48	ふつうに授業
49	ふつうのアメリカ人
50	ミクロネシアのホストファミリーや、フィリピン人やデンマーク人の父の友だち。それから文通していたフィンランド人の友だち、など。
51	ラーナ、スティーブン 先生
52	リサ先生
53	留学生やホームステイの方
54	分からない所を聞いたり。

(2)生徒用アンケート③③・⑥記述内容

1	アメリカ人と同じくらい
2	あるていどしゃべれたらよい
3	英語がじゃべらなくらい
4	英語の全て
5	英文を読めるぐらいの力
6	外国に住めるくらい
7	仕事にやく立つぐらいの英語力
8	全て英語ではないが、仕事場の英語の部分に、ついていけるぐらいの英語力
9	日本から一生出ません
10	人と楽しい話ができるような英語力
11	ふつう
12	学ぶ気とかない。
13	分かることができたらいと思う

(3)生徒用アンケート④②・⑧記述内容

積極的コメント

1	⑤にプラスして、英語で環境や国際について話してみたい。
2	イベント
3	いまの自分のおもってることとか！
4	おはなし（友だち）

5	外国人といろんな所に行きたい
6	外国人と友達になる
7	キャンプ以外にも色々なアウトドアを楽しみたい。（釣りなど）
8	スポーツ
9	全部
10	トーク
11	日本と外国の文化を入れかえっこしてたのしむ
12	日本と外国の文化を教え合いたい
13	日本のことだけでなくいろんなことを外国人といっしょに話す
14	ふつうに生活

否定的コメント

15	行きたくないし体験したいことはない
16	英語村なんて、なんの意味もありません。くだらないコトに税金を使わないでください
17	きょうみない
18	興味なし
19	興味なし
20	したくない
21	したくない
22	しなくていい（そんなことをしているひまがあるなら、まず日本を直せ）
23	そもそも興味がない
24	体験したくない
25	体験したくない
26	何もしたくない
27	何もしたくない
28	必要ない
29	やめてほしい。やるなら京都で!!
30	やらなくていいと思う。
31	わりとどうでもいい

内容なし

32	特にない	38	無し
33	とくにない	39	べつに、なんも…
34	とくになし	40	別にない
35	とくになし	41	分からない
36	ない	42	わからない
37	ない	43	わからない

(4)生徒用アンケート④③・⑧記述内容

1	日帰り	10 件	19	1 年以上いたい
2	1 年/1 年位	7 件	20	50 年位
3	半日	5 件	21	5 年
4	無し・ない	4 件	22	60 分
5	わからない	3 件	23	6 年 8 カ月
6	いきたくない	3 件	24	いかない
7	ずっと	2 件	25	上の質問の⑧通り
8	0 日	2 件	26	したくない
9	1 日	2 件	27	しない
10	①？		28	しなくていい
11	1 0 年		29	死ぬまで
12	10 分		30	好きなだけ
13	1 時間		31	泊らない
14	1 時間半		32	何日でも
15	1 年中		33	なんにちでもいい
16	1 年に 1 回		34	必要ない
17	1 泊		35	まず、いややし。
18	2 ヶ月位			

(5)保護者用アンケート①②・⑥記述内容

1 番	1	ネイティブなリスニングのちからを身に付けてほしい
	2	間違った表現であってもいいから、堂々と外国人と話せる度胸を身につけさせてほしい。
2 番	3	将来、日常や社会で（英語圏）よく使う英会話を習わせたい。
	4	ネイティブな発音が身につく
	5	文法的な教えではなく、英会話的にいけないのか？
	6	話せるようになる授業
	7	ネイティブな英語での会話
	8	日本人としての感性を表現できる授業。その前に日本語のことばの意味を知ること。
	9	日本人の考え方を主張することができる
	10	楽しい
3 番	11	会話ができる
	12	会話が出来る授業
	13	海外で通用する英会話
	14	塾に通っているのが前提とした授業でないようにしてほしい

3 番	15	興味がわく
	16	基礎、基本学習の徹底
	17	英検や TOEIC に対応
	18	英語のみ先生を 2 人の授業
	19	話す英語だけではなく書く（特に文法）英語もしっかり教える授業
20	欄外コメント：異国にて通用する発音を教える事!!	

(5)保護者用アンケート②① 学習内容

1	学校の授業に合わせた学習（だと思います）
2	ワーク
3	予習、復習
4	学校の教科書に沿った学校（集計者注：学習の間違いか）
5	学校の学習の復習など
6	英語の授業及びテストに役立つ学習
7	わからない
8	わからない

(6)保護者用アンケート②① 校外学習の動機

1	授業についていけないから
2	授業についていけないから
3	成績が悪いから
4	子供が英語（学校教育）に完全にとりのこされてしまっていたから
5	初めて習う事だから
6	中学は英語の授業の始まりなので最初につまづかない様にと。学校の先生もわかりやすい先生とそうでない先生がいてるので不安だから
7	学校の授業についていけなくなるから
8	専門家の耳からの学習が必要だと思ったから
9	受けている通信教材に英語も含まれている為
10	グローバルな視野をもった人に育ってほしいから。
11	夢や世界が広がる

(7)保護者用アンケート⑤②⑧ 英語村での体験内容

洲本市

1	いらん
2	英語村が必要かどうか分からないので

3	外国人とお互いの国のことについて話をする
4	会話
5	学校の授業
6	スポーツ
7	その場で可能な限りの事を体験したい
8	ホームステイのようにごく普通に暮らす
9	わからない

南あわじ市

10	⑤がいいと思うのですが学生の方が日本のことを知らないと思う。
11	英会話
12	お酒を飲みながら互いの文化を語りあう
13	外国人と一緒に生活をして日常会話を学ぶ
14	外国人と外国のことについて話をする
15	スポーツ
16	体験したくない
17	特になし
18	日常生活
19	日常生活での会話
20	勉強する

淡路市

21	⑦のキャンプ以外はすべてしてみたい
22	あまり分からない
23	淡路市のホームステイ（カナダ）に申込みしたけど当たらず、すごく残念でした
24	英語討論
25	お互いの国の文化について紹介し合う。
26	海外の文化を知る
27	外国と日本の違っている点など、外国に興味を持てるような会話を楽しむ
28	外国の文化などを教えてもらう。
29	ごく普通の会話を英語でする。
30	コミュニケーション。お互いの国の事を話す。
31	すぐにできるものでないので（英語村）、子供が体験できるものでもない。
32	スポーツ
33	全部
34	特になし
35	日本と海外の文化の違いについて話をする

36	文化、習慣の違いを通してお互いを理解する
37	身の回りの事、社会の事など、テーマ別に分け、討論会を行う
38	わからない

(8)保護者用アンケート⑤③-⑧ 英語村滞在期間

洲本市

1	2. と同じ（報告者補足：附表(7)2…英語村が必要かどうかもわからないので）
2	3 ヶ月
3	③を何回も
4	④+⑥
5	隔週末に1泊2日を1～3ヶ月
6	長期休暇の時を利用して年に何回か3泊4日程度で
7	月1で2, 3日
8	わからない
9	欄外コメント とても、おもしろそうな構想だと思います。実現できたらいいですね。

南あわじ市

10	1週間を何回か繰り返す
11	1泊から選べるのが良いと思う
12	2～3ヶ月
13	3ヶ月位
14	⑤～⑥ 10日くらい
15	⑦、⑧6ヶ月位
16	英語村が税金の無駄遣いにならないけばよい
17	そんな村作らないで!!

淡路市

18	2週間以上
19	3ヶ月位
20	⑥、⑧いろんなコースが有
21	⑥か⑦
22	あまり分からない
23	すきなだけ
24	わからない
25	わからない